



Kyoto University
Academic Day 2019

京都大学 アカデミックデイ2019

報告書



Photography: Tetsu Hiraga



研究について、研究者と語り合いませんか？

Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

2019年9月15日(日) 10:00-16:00

京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館



目次	1. 概要
	1-1. イベント概要
	1-2. 山極総長からのメッセージ
	1-3. 会場配置図
	2. プログラム
	2-1. 研究者と立ち話
	2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
	2-3. お茶を片手に座談会
	2-4. 研究者の本棚
	2-5. 対話マラソンのための給水ポイント
	3. アンケート
	3-1. 来場者アンケート
	3-2. 出展者アンケート
	3-3. 京都大学アカデミックデイ賞
	4. 出展者情報
	4-1. 研究者と立ち話
	4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
	4-3. 出展参加者一覧
	5. その他
	5-1. 各種説明会
	5-2. イベント終了後の学内限定タイム(出展者交流)
	5-3. 広報物
	6. 支援体制・準備スケジュール
	6-1. 支援体制
	6-2. スタッフリスト
	6-3. 準備スケジュール
	6-4. デザイン・制作物スケジュール
	7. (資料) ブックリスト

1. 概要

1-1. イベント概要

2019年9月15日、百周年時計台記念館で「京都大学アカデミックデイ 2019」を開催しました。第9回目となる今年は、学部生・大学院生を含む223人が51組（高校からの出展3組を含む）の研究プロジェクトにおいて発表しました。また来場者は518人に上りました。

「京都大学アカデミックデイ」は、市民や研究者、文系、理系を問わず、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指しています。

企画のデザインや運営は学術研究支援室（KURA）、研究推進部研究推進課及び「国民との科学・技術対話」ワーキンググループが協働し、対話が促進されるプログラム4つを用意しました。

様々な分野の研究に触れられるポスター展示の「研究者と立ち話」、研究者とじっくり対話できる「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、テーマに沿って研究者と来場者が議論する「お茶を片手に座談会」、参加研究者のお勧め図書を紹介する「研究者の本棚」です。また関連企画として、人社系研究者の「国民との科学・技術対話」における新たな対話の形を試行するパネル展示「人社系研究者の“Signal”」、最近本を出版した研究者が、自著を片手に研究秘話を語るトーク企画「研究者、自著を語る」を実施しました。会場内には、「対話マラソンのための給水ポイント」を設置し、飲み物を無料で提供しました。会場のあちこちで、研究者と来場者の対話が生まれました。

また、来場者にはアンケート調査への協力を依頼しました。寄せられた回答の中から、企画や出展に関する意見やコメントを出展者にフィードバックすることで、今後の対話活動をさらに発展させていきます。



会場（百周年時計台記念館）

1-2. 山極総長からのメッセージ

京都大学アカデミックデイにご来場のみなさまへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと創造の精神を涵養し、多様で質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してまいりました。情報技術が目覚しく発展し、世界の情勢が急激に激動するなか、京都大学は地球社会の調和ある共存を目標にして多元的な課題の解決に果敢に挑戦しております。そのために私は、京都大学を世界や社会へ通じるための「窓」として位置づけ、新しい時代の要請に応えていこうと思えます。窓、すなわち WINDOW にちなんで、次のような方針を掲げています。Wild and Wise（野生的で賢い学生を育てる）、International and Innovative（国際的で革新的な能力を重視する）、Natural and Noble（自然に学び、高潔な人格を育てる）、Diverse and Dynamic（多様で変化に満ちた世界を理解する）、Original and Optimistic（独創性を明るい気分とともに育てる）、Women and the World（女性が輝く、希望に満ちた環境を作る）、という計画です。そして、京都大学の学術研究の成果を市民に還元するとともに、市民の理解と支持を得て、共に学術研究を推進していこうと考えています。



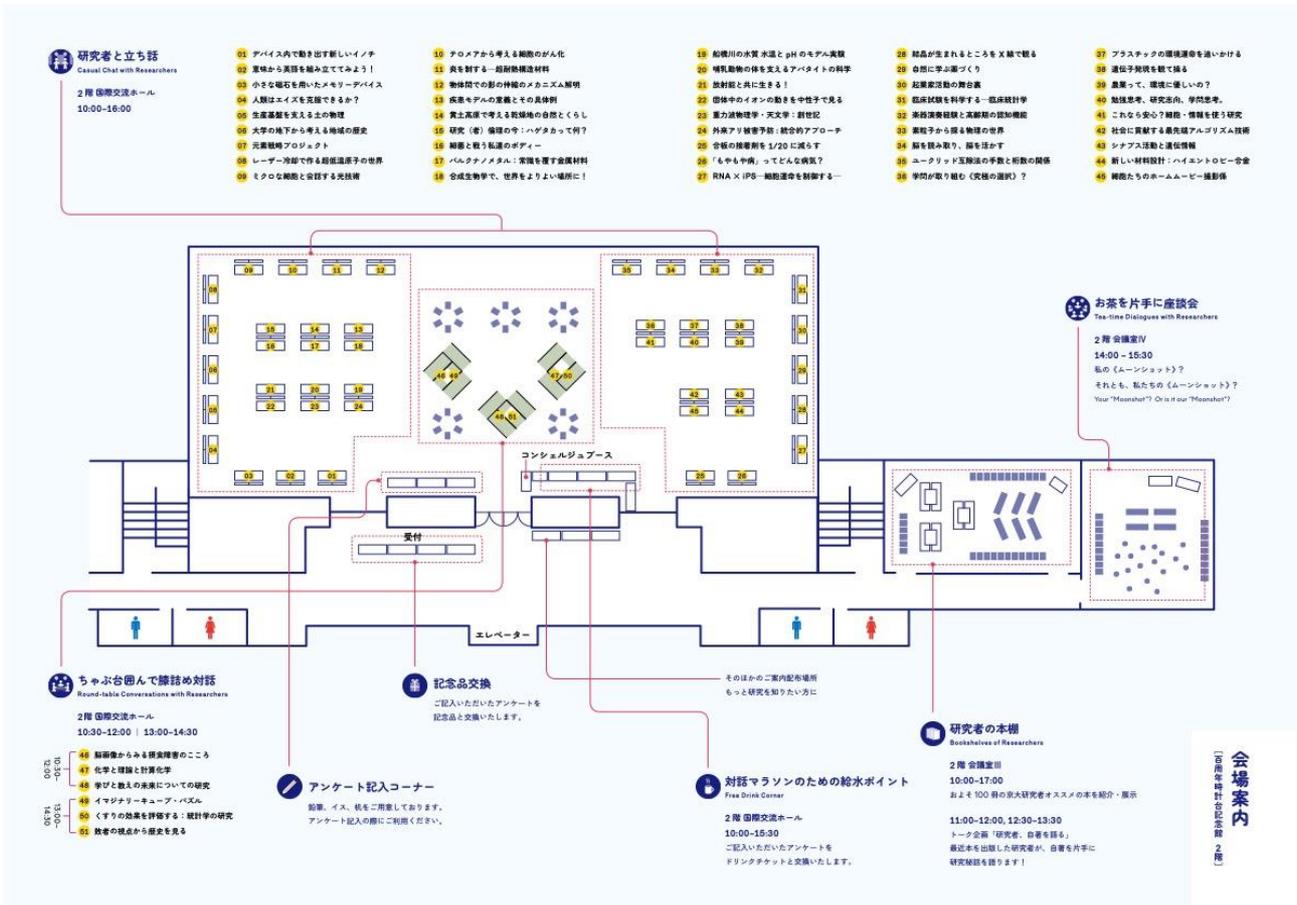
京都大学アカデミックデイは、みなさまと京都大学の研究者とが直接対話をする場として企画したものです。学術研究の成果だけでなく、研究が営まれているさまや、同じ1人の人間としての研究者を知っていただく機会になればと思っています。そしてこの機会に是非、研究者に疑問を投げかけてください。みなさまとの対話は、研究者にとって自らの研究の社会の中の位置づけや課題を捉え直す機会となります。そして、成果還元の可能性や新たな活躍の場が広がって行きます。

この対話の場である京都大学アカデミックデイが、みなさまと共に我が国の学術研究を育む場になることを期待しています。

京都大学総長 山極壽一

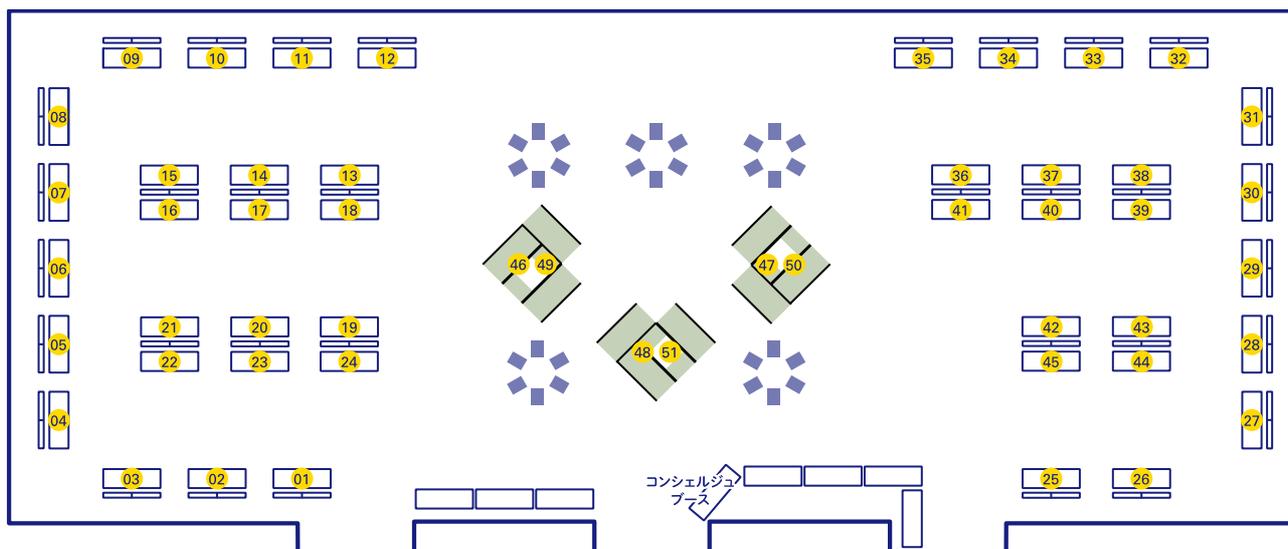
1-3. 会場配置図

1-3-1. 「京都大学アカデミックデイ」配置図

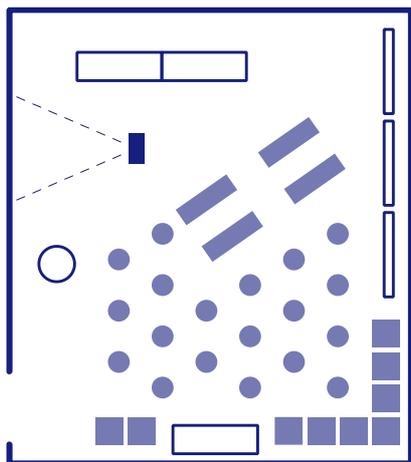


■ 1-3-2. 各コーナーレイアウト

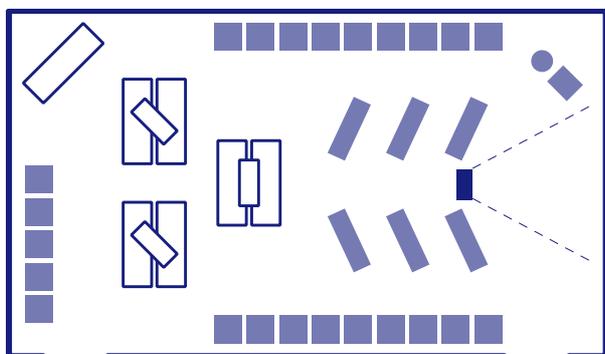
● 2階 国際交流ホール：研究者と立ち話・ちゃぶ台囲んで膝詰め対話



● 2階 会議室Ⅳ：お茶を片手に座談会



● 2階 会議室Ⅲ：研究者の本棚



2. プログラム

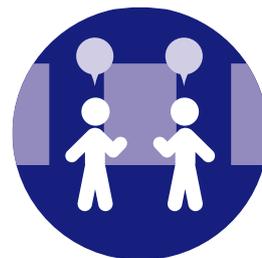
2-1. 研究者と立ち話

■ 2-1-1. 概要

日時 9月15日(日曜日) 10時~16時

会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

大学研究者、高校生などによる研究紹介のコーナー。会場には45のポスター展示がずらりと並び、ポスターの前ではその研究を行っている研究者が来場者と直接語り合いました。また、ポスターの前に模型や実験器具、資料等を並べ、それらを使って研究を紹介する研究者の姿も多く見られました。さまざまな立場で研究をしている人が一堂に集まっていたため、研究者同士の交流も深まり、互いに刺激をシェアする場になっていました。



■ 2-1-2. コンシェルジュブース

「数が多すぎてどこから回れば良いのかわからない」といった来場者からの声に応えるため、今年も昨年に引き続きコンシェルジュブースを設置。京都大学の学生がコンシェルジュとなり、来場者の要望や質問に答えました。今年は小中学生用ワークシートを作成し、小中学生の対話促進を試みましたが、また希望があればガイド役として来場者と一緒に「研究者と立ち話」を回ることもできましたが、多くの来場者が自ら積極的に場内を回っている様子でした。

協力：有限会社関西教育考学



■ 2-1-3. 「研究者と立ち話」出展一覧

● 京都大学

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
横川隆司（大学院工学研究科）	デバイス内で動き出す新しいイノチ
金丸敏幸（国際高等教育院）	意味から英語を組み立ててみよう！
塩田陽一（化学研究所）	小さな磁石を用いたメモリーデバイス
明里宏文（霊長類研究所）	人類はエイズを克服できるか？
村上章（大学院農学研究科）	生産基盤を支える土の物理
千葉豊（大学院文学研究科）	大学の地下から考える地域の歴史
田中庸裕（実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池の 元素戦略研究拠点ユニット） 田中功（構造材料元素戦略研究拠点ユニット）	元素戦略プロジェクト
高橋義朗（大学院理学研究科）	レーザー冷却で作る超低温原子の世界
松田道行（大学院医学研究科／大学院生命科学研究科）	ミクロな細胞と会話する光技術
林真理（白眉センター（大学院生命科学研究科））	テロメアから考える細胞のがん化
乾晴行（大学院工学研究科）	炎を制するー超耐熱構造材料
高橋良輔（大学院医学研究科）	疾患モデルの意義とその具体例
原裕太（大学院地球環境学堂（現：東京大学教養学部附属教養教育高度化機構））	黄土高原で考える乾燥地の自然とくらし
井出和希（学際融合教育研究推進センター）	研究（者）倫理の今：ハゲタカって何？
金玟秀（白眉センター）	細菌と戦う私達のボディー
辻伸泰（大学院工学研究科）	バルクナノメタル：常識を覆す金属材料
Knut Woltjen（iPS細胞研究所）	合成生物学で、世界をよりよい場所に！
藪塚武史（大学院エネルギー科学研究科）	哺乳動物の体を支えるアパタイトの科学
米田稔（大学院工学研究科）	放射能と共に生きる！
高井茂臣（大学院エネルギー科学研究科）	固体中のイオンの動きを中性子で見る
田中貴浩（大学院理学研究科）	重力波物理学・天文学：創世記
Chin-Cheng Scotty Yang（生存圏研究所）	外来アリ被害予防：統合的アプローチ
平井康宏（環境安全保健機構附属環境科学センター）	合板の接着剤を1/20に減らす
手塚徹（スーパーグローバルコース医学生命系ユニット）	「もやもや病」ってどんな病気？
齊藤博英（iPS細胞研究所）	RNA×iPSー細胞運命を制御するー
安田秀幸（大学院工学研究科）	結晶が生まれるところをX線で観る
掛谷秀昭（大学院薬学研究科）	自然に学ぶ薬づくり
伊藤智明（経営管理研究部）	起業家活動の舞台裏
佐藤俊哉（大学院医学研究科）	臨床試験を科学するー臨床統計学
積山薫（大学院総合生存学館）	楽器演奏経験と高齢期の認知機能
小原脩平（大学院理学研究科）	素粒子から探る物理の世界

伊佐正（大学院医学研究科／高等研究院（ASHBi）） 武井智彦（白眉センター（大学院医学研究科））	脳を読み取り、脳を活かす
大庭弘継（大学院文学研究科）	学問が取り組む《究極の選択》？
田中周平（大学院地球環境学堂）	プラスチックの環境運命を追いかける
杉山弘（大学院理学研究科）	遺伝子発現を観て操る
渡邊哲弘（大学院農学研究科）	農業って、環境に優しいの？
宮野公樹（学際融合教育研究推進センター）	勉強思考、研究志向、学問思考。
佐藤恵子（医学部附属病院）	これなら安心？細胞・情報を使う研究
湊真一（大学院情報学研究科）	社会に貢献する最先端アルゴリズム技術
王丹（高等研究院（iCeMS））	シナプス活動と遺伝情報
乾晴行（大学院工学研究科） 辻伸泰（大学院工学研究科）	新しい材料設計：ハイエントロピー合金
曾我部舞奈（ウイルス・再生医科学研究所）	細胞たちのホームムービー撮影係

● 高等学校・高等専門学校

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
谷川樹（兵庫県立加古川東高等学校 理数科）	物体間での影の伸縮のメカニズム解明
田澤拓斗（大阪府立長尾高等学校 理科研究部）	船橋川の水質 水温とpHのモデル実験
入江海地（京都市立堀川高等学校 自然探究科）	ユークリッド互除法の手数と桁数の関係

コンシェルジュブースレポート（1）

コンシェルジュブースは「研究者と立ち話」の会場の入り口に位置しており、お困りの来場者の方をお助けする、また何を見て良いか迷っていらっしゃる来場者の方を適切な研究者の所へご案内し、イベントを楽しんでいただくということが主な役割でした。

前日の打ち合わせなどで、出展者の発表内容や、どこにどの展示があるかを予習し、自分の中で展示をテーマごとに簡単に区分しておきました。

当日はまず、1時間ほどNPO法人カラスマ大学の募集で集まった来場者の方々を案内することから始まりました。簡単に自己紹介を行い、どのような分野に興味があるのかをお伺いし、それらに関連するブースを5箇所ほどご案内しました。年齢も様々、お子さんをお連れの方もいらっしゃいました。物理工学の出展や、環境工学の出展などで、意外にも身近な発見があり、皆さん研究に対して親近感を持って楽しんで頂けたと思います。

その後は、会場を巡回したり、コンシェルジュブースで待機していました。

コンシェルジュブースに来る方で最も多かったのが、「研究者の本棚」の会場はどこかという問いと、アンケート用紙の提出場所はどこか、という問いでした。

「研究者と立ち話」と並行して行われていた、「お茶を片手に座談会」、「研究者の本棚」の企画は、同階で行われていたのですが、確かに場所が分かりづらかったように感じました。もう少し誘導する目印などがあつたら良かったかもしれません。

また、アンケート用紙の提出場所についても、受付とコンシェルジュブースを混同して来られる方が多く、それも分かりやすく記載するべきだったと感じました。

アカデミックデイを通して驚いたことは、来場者の多さです。年齢性別も様々で、皆さん意欲的にたっぷりアカデミックデイを楽しんでおられたように感じました。出展側の方々も各々の研究を噛み砕いて説明されており、来場者の皆さんが出展者の方々のお話になんか夢中になっているのが分かりました。

このコンシェルジュのお仕事をするまでは、このアカデミックデイというイベントを知りませんでした。科学者・研究者と大学外の方々と繋ぐのにとっても素敵なイベントだなと感じました。

工学部 4年 大池理世

コンシェルジュブースレポート (2)

コンシェルジュの役割は一般来場者の方に対し、数多くある研究発表の中から個々人の興味・関心に沿ったものをご提案するというものでした。来場者の方が自らの関心のあるものを見つけられるよう事前に展示場所や研究内容を覚え、ご案内しました。今回、コンシェルジュブースにはあるカード（小中学生用ワークシート）が置かれていました。このカードは来場した小学生・中学生がブースを回り研究者の方のお話を書いてブースにこのカードを持ってきてくれると、記念品がもらえる、というものでした。私が印象に残っているのは母親と弟と来た一人の小学生の女の子です。女の子はコンシェルジュブースにこのカードを持ってきてくれ私は記念品を渡しました。この時カードを見ると、カードには子どもの頃が懐かしいような、一生懸命書いたのが伝わる文字があふれていました。帰り際にまたブースに来てくれ、私に「iPS細胞を分かりやすく説明してくれてとても嬉しかった。」「私もiPS細胞を研究しに京都大学にきたい」と、笑顔で話してくれ帰っていきました。「京都大学アカデミックデイ」の趣旨は市民や研究者誰もが学問の楽しさ・魅力に気づくことができる「対話」の場所を作るというものです。今回この女の子に研究者の方が語られた言葉が学問の考えとして返答されるのは10年先のことになるかもしれません。しかし、今回の場において女の子が示した純粋な驚きや興味が研究者の方の研究の励みとなったと思います。そして10年後この女の子が返す答えが研究をさらに発展させてほしいと願っています。

コンシェルジュの仕事を通して、幅広い年代の来場者の方とお話をしてそれぞれの方が環境問題や身近なことに問題意識を持って来られ、その問題に対して何か答えを得て、また新しい問題意識を持って帰って行かれたことを感じました。それは沢山の研究者の方が模型や動画、自身の言葉を以て説明し、「対話」したからであると考えています。研究のブースを回る中で研究の苦労話や今日の展示を前日に思い出して急いで作って間にあわせてしまった…等研究者自身のことを交えながら説明したことが、研究者を身近に感じさせ、研究内容をより分かりやすくしたのではないのでしょうか。人生100年時代や、リカレント教育など、何歳になってもだれでも学びなおせる時代が来つつあります。今回「京都大学アカデミックデイ」で行われた「対話」が学問の一つの答えとなって来場者の方から、小さな女の子から提示される日が来るかもしれません。そして来場者の方の真剣な疑問が研究者の方の研究の気づきともなり研究を後押しすることとなったと思います。多くの「対話」がこれからの研究の発展に役に立つことを願っています。

法学部 4年 富上恵里

コンシェルジュブースレポート (3)

このアカデミックデイは今回で9回目となるイベントとのことで、私自身はコンシェルジュというお仕事はこれが初めてだったものの前回のアカデミックデイで別の形で関わらせていただいております、ある程度雰囲気がかかっていた状態で参加させていただきました。

コンシェルジュのお仕事は、一言でいえば、展示の案内に尽きます。その中でも大きな位置を占めるのが、NPO 法人京都カラスマ大学の方々の案内でした。大学での研究に興味を持たれた有志の方々を案内するというものでしたが、みなさん積極的に研究者の方々に質問されており、研究者の方々も相手の理解を確かめながらウィットに富んだ喩えを交えながらお話されており、終始和やかでしかし刺激的な雰囲気、両者にとって有意義な時間になったのではないかという実感があります。

今年からの試みとして小中学生へのワークシートを用意していたのですがあまり浸透していなかったように思います。試みとしてはとても良いと思ったのですが、ワークシートを我々コンシェルジュブースに置いておくだけにしていただけが要因だったのかもしれません。入場者への配布物の中に入れておけばもう少し効果があったのかなと思います。

アカデミックデイの大きなテーマは「対話」だと思うのですが、この対話というテーマを考えると私は哲学者プラトンを第一に想起します。プラトンの著作は他の哲学書に比して独特で、プラトンの師ソクラテスと他の誰か（例えば、ソクラテスの弟子たちなど）との「対話」により構成されています。これは、ソクラテスの哲学に対する考え方に起因するもので、プラトンの著作『パイドロス』の中にも対話を重要視するソクラテスの考えが顕れています。ソクラテスにとって、文字に落とされた哲学は死んだものと同義であって、生きた哲学は対話の中にこそ存在したのでしょう。

インターネットが発達した現代では、研究に関するアクセシビリティが高まっており、門外漢であっても（理解できるかは別にして）容易に研究成果を見ることができるようになっています。しかし、これは研究活動の跡であり、ラジカルな物言いになりますが「死んだ研究」に過ぎないのです。研究者との対話を通して「生きている研究」を感じることができる本イベントはこのソクラテス的視座においてとても価値のあるもののように感じました。

理学研究科 修士課程2年 後藤慶太

■ 2-1-4. 関連企画

● パネル展示「人社系研究者の“Signal”」

京都大学の人社系研究を紹介する冊子誌面を展示し、来場者にコメントを貼ってもらうことで見た人同士で対話が発生するようなコーナーを設けました。

本企画は、人社系研究者の「国民との科学・技術対話」における居場所、対話の形のテスト展示です。例年、アカデミックデイのアンケートには、「人社系の研究をもっと知りたい」「人社系研究者の話が聞きたい」といった意見が幾つか見受けられます。これは人文・社会科学系分野の研究は自然科学系分野に比べると、ポスター発表という形で研究を伝えることにあまり馴染みがなく、出展の割合が少ないことも一因と考えられます。

今回展示紙面とした ACADEMIC GROOVE は、人社系研究の発信を目的として、本学人社系研究・研究者を紹介した冊子です。研究紹介広報誌というよりも、研究者の生々しい思考の表出が意識されています。その点で来場者との新しい対話の可能性、紙面を介した対話を促進する仕掛けとして期待されます。例えば「あなたにとって学術的発見のシグナルとは？」というテーマの記事では、様々な分野の研究者が学術的な気づきを得たきっかけが語られていますが、「気付き（きっかけ？）をひとつのまとまり（論文とか）に展開されていくアタマの中が見たい！」など、研究者の発想やインスピレーションについて思いを巡らすコメントや会話がなされました。



2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

2-2-1. 概要

日時 9月15日(日曜日) 10時30分~12時/13時~14時30分

会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」は、研究にまつわるあんな話、こんな話を、来場者と研究者がお茶の間気分で話し合うコーナーです。会場には4帖の畳から成る3つのちゃぶ台ブースを設置。10時30分から12時の間に3つ、13時から14時30分の間に3つ、計6つの研究者/グループが対話に臨みました。各研究グループは「どんな研究を行っているのか」「なぜその研究をしているのか」などを説明。来場者も様々な質問を投げ、研究者と対話しました。また本企画でも、学生サポーターがスムーズな運営をサポートしました。



■ 2-2-2. 「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展一覧

日時	出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
9月15日 （日） 10:30~12:00	野田智美（大学院医学研究科）	脳画像からみる摂食障害のこころ
	榊茂好（福井謙一記念研究センター）	化学と理論と計算化学
	緒方広明（学術情報メディアセンター）	学びと教えるの未来についての研究
9月15日 （日） 13:00~14:30	立木秀樹（大学院人間・環境学研究科）	イマジナリーキューブ・パズル
	魚住龍史（大学院医学研究科）	くすりの効果を評価する：統計学の研究
	芹澤隆道（人文科学研究所）	敗者の視点から歴史を見る

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」レポート

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」は、研究にまつわる様々な話を現役の研究者と面と向かってちゃぶ台を囲んでお話ができるという企画です。来場者は好きなタイミングでちゃぶ台に座って待機している研究者に声をかけて聞きたいことを聞くことができます。今年は会場に4帖の畳からなる3つのちゃぶ台ブースを設置し、午前中（10:30-12:00）と午後（13:00-14:30）とに分かれ計6つの研究者/グループが対話に臨みました。各研究グループは「どんな研究を行っているのか」などを説明し、来場者からの様々な質問に答えたり研究のことなどについて対話したりしました。学生サポーターは来場者に声をかけてちゃぶ台に誘導したり、特定の来場者が研究者を独占しすぎないように注意したりすることでより多くの方に本企画を楽しんで頂けるように尽力しました。

午前中は来場者の数が少ないということもあり、学生サポーターが積極的に来場者に声をかけてちゃぶ台に誘導するような場面もありましたが、来場者が増えるにつれてちゃぶ台コーナーも自然と活気を見せ始め、学生サポーターの仕事は来場者を募ることよりもむしろ来場者が研究者を独占しないように時々声をかけることへと変わっていきました。本企画は午後の部に移っても盛況で、多くの来場者が普段は接する機会の少ない大学の研究者と対話し、活発に意見交流をしていました。本企画は来場者に研究について知ってもらうだけでなく、研究者のほうも一般の方との対話を通して自身の研究についてあらためて客観的にとらえ直すことができるものだったと思います。アカデミックデイのように研究者が一般の方と直に触れ合う機会は多くはないので、来場者、研究者双方にとって刺激を与えあうことで、アカデミックデイの目的を見事に達成することのできる企画だったと思います。次回に向けての感想としては、各ちゃぶ台での研究内容によって、来場者の関心の度合いが大きく違ったので、一般の方も知識を持っている、歴史や科学などのわかりやすいタイトルをつけることを心掛けたり、話だけでなくパズルや研究に用いる物など、研究者は来場者が実際に体験できるものを用意して企画に臨むとよりよいと思いました。

農学研究科 修士課程1年 宮本明德

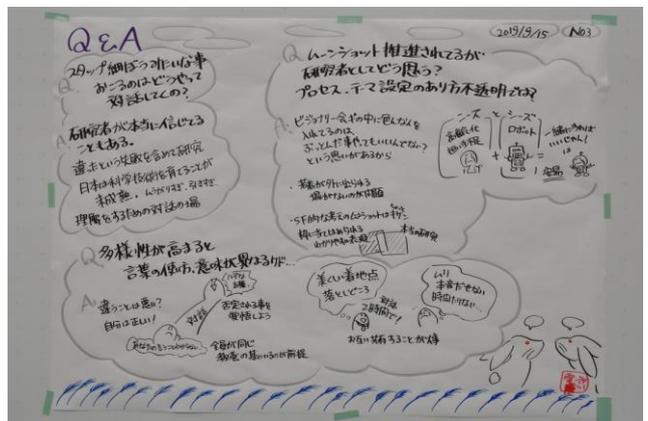
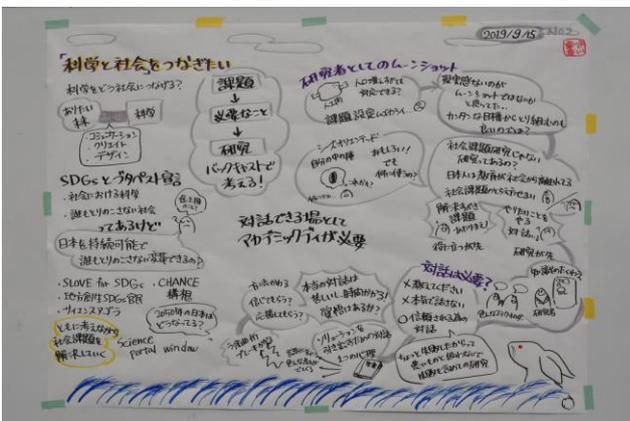
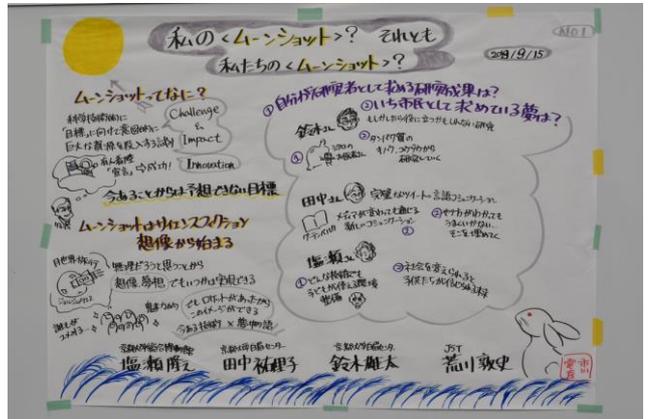
2-3. お茶を片手に座談会

2-3-1. 概要

日時 9月15日(日曜日) 14時~15時30分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室IV

一つのテーマに沿ってみんなで語り合うトークライブ「お茶を片手に座談会」。今回は、「私の《ムーンショット》? それとも、私たちの《ムーンショット》?」と題して開催しました。サイエンスフィクションの歴史の解説に始まり、「研究者」として求めている実現したい到達点は何か?自分が、「いち市民」として求めている未来の夢は何か?を巡って、大学の研究者、国立研究開発法人の関係者、そして学術研究支援室のURAが白熱した議論を交わしました。



グラフィックレコーディング 市川電産

■ 2-3-2. トークテーマ・参加者一覧

● テーマ 私の《ムーンショット》？ それとも、私たちの《ムーンショット》？

日時 9月15日（日曜日）14時～15時30分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室IV

登壇者 荒川敦史（国立研究開発法人 科学技術振興機構）

塩瀬隆之（京都大学総合博物館）

鈴木雄太（京都大学白眉センター（人間・環境学研究科））

田中祐理子（京都大学白眉センター（文学研究科））

モデレーター：白井哲哉（京都大学学術研究支援室）





「お茶を片手に座談会」レポート

今年度は、「私の《ムーンショット》？ それとも、私たちの《ムーンショット》？」というテーマで、四人の登壇者と多くの来場者を交えて座談会が行われました。会場の構図としては、会場の正面に登壇者が机を前にして横並びに座り、それに相対する位置に来場者が椅子に座りながら研究者のディスカッションを聴講するというものでした。

登壇者は、科学技術振興機構の荒川氏、京都大学白眉センターで近代医学思想史を研究されている田中氏、同じく京都大学白眉センターでタンパク質デザイン工学を研究されている鈴木氏、京都大学総合博物館でシステム工学を研究されている塩瀬氏の四者でした。

スクリーンに映し出されるスライドに従いながら、それぞれの登壇者が、自らの研究者としてのムーンショットを示され、ムーンショットにおいて示される“目標”のあり方や、その“目標”を決める上での「対話」の意義について、忌憚のない活発な議論がなされました。また、座談会の最後には、来場者から登壇者に向けて、様々な質問が投げかけられ、研究者と市民の「対話」の試みが行われました。

今回の座談会において鍵となった、ムーンショットという概念は、「現存の技術の単なる足し算や延長戦を超える“目標”」を意味し、将来において実現されるべき壮大な“目標”のために、将来から現在へと逆算して、どのような取り組みを行い、どのような資源を投入するかを考える試みと理解されています。座談会では、あるべきムーンショットを定立するために、「対話」が果たす役割やあるべき「対話」のあり方が討議されましたが、登壇者の間で、とりわけ主張された意見は、「対話」の内実を追求すべきというものであったような印象を受けました。例えば、本気で話す気がなかったり、相手を説得したりすることが目的の「対話」や、自分の考えが否定されることを拒む「対話」は真の対話ではないといった主張がなされていました。また、わからなさやつまらなさに耐え続け、長い時間をかけながらしつこく「対話」することが重要であるという旨の発言も見られました。このように、「対話」やムーンショットのあり方を根底から考える良質な意見が多かったと思います。そして、座談会全体を通して、登壇者はみな、最後まで白熱した討議を続けており、また会場全体が埋まるほどの来場者が訪れ、非常に盛況なイベントでした。

ただ、私個人としては、今回の討議の内容について、一つ意見があります。それは、「対話」を行う際の主体について、より考察を深めていく必要があるのではないかと趣旨のものです。この座談会や、京都大学アカデミックデイというイベントでは、研究者と「市民」の間の「対話」を行うことが言われていましたが、そこでいう「市民」とは誰なのか、という問いが生じるのではないのでしょうか。

今回の座談会では、理想的な「対話」のあり方が示されていましたが、それは、非常に高度で、また「対話」に参加する者にとって負荷が大きいものでした。このような「対話」に参加するためには一定の理性や知性の能力が要求されるでしょうし、また研究者との対話である以上、学問研究に対する関心や理解も必要であるかもしれません。このように考えると、「対話」の主体として現れる「市民」は、現実的には、かなり限定された人々になる可能性があります。そこで、そういった一部の「市民」を選択的に「対話」の主体として採用するか、それともその外部にある「市民」を啓蒙するか。様々な可能性があるとは思いますが、理念的に追求される「対話」の主体としての「市民」と現実社会に存在する「市民」の全体とのズレをどう調停するのかというのが、重要な問いになるように思います。この問題を考察することで、この座談会も含めた、研究者と「市民」の対話という営みがより深められていくのではないかと私見ではありますが、感じています。

そうは言いつつも、登壇者全員が主体的な議論を行い、来場者も熱心な態度をもって参加していた、高質な催しであったことは間違いなく、来年度以降も続けていくだけの大きな価値のあるイベントであると思います。

農学研究科 修士課程2年 山田将太郎

2-4. 研究者の本棚

2-4-1. 概要

日時 9月15日（日曜日）10時～17時

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅲ

京都大学アカデミックデイに出展する研究者の推薦図書を展示した「研究者の本棚」を企画。会場では、多くの来場者が本を介して研究者と対話しました。また、京都大学アカデミックデイのチラシに用いた「京都大学 物質－細胞統合システム拠点（iCeMS＝アイセムス）」と「京都大学 東南アジア地域研究研究所」の写真映像を上映しました。



■ 2-4-2. 研究者の本棚

京都大学アカデミックデイに参加している研究者に、事前に「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」の4つの質問をし、会場ではその本と、選んだ理由などのコメントを紹介。来場者に本から研究者のことを知ってもらい、また当日参加している研究者との対話のきっかけになることを狙って企画をしました。当日は学術書だけでなく、小説や漫画など幅広いジャンルがずらりと並び、来場者が興味深そうに手に取る様子が見られました。

※本報告書の最後に推薦図書のブックリストを付けています。

協力：京都大学生生活協同組合



「研究者の本棚」レポート

出展者のおすすめする本を紹介する「研究者の本棚」のコーナーを担当しました。当日はトピックごとに
出展者が選ばれた様々なジャンルの本が並び、足を運んだ方々も手に取ってじっくりと眺めていました。

集められた本は、出展者が現在の研究分野に進むきっかけとなった本、今はまっている本、若者に勧めたい本、そして現在の自分の研究に関連して紹介したい本といったテーマで紹介されており、学術書だけでなく中高生向けの読み物や、漫画を紹介されている出展者もいらっしゃいました。年齢層に関係なく、様々な人が先生方の興味に触れることのできる親しみやすい企画だったと思います。

教育学部 4年 池畑伊織

■ 2-4-3. トーク企画「研究者、自著を語る」

人文・社会科学系の研究では著書が重要な発表媒体となります。そこで京都大学アカデミックデイ 2019では、「研究者の本棚」の会場を用いて「研究者、自著を語る」というトーク企画を実施しました。ここでは、最近本を出版した人文・社会科学系の気鋭の若手研究者2名が、それぞれの自著と、その研究秘話を語りました。

● 『皇室財産の政治史：明治二〇年代の御料地「処分」と宮中・府中』（人文書院）

日時 9月15日（日曜日）11時～12時

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅲ

登壇者 池田さなえ（人文科学研究所）

本の内容：本書は明治二十年代を舞台に、御料地の設置から払い下げなどの「処分」までを、膨大な一次史料をもとに詳細に分析、通覧する。その中心になるのは、長州勤王の志士として活動し、維新後は官僚、政治家となった品川弥二郎。これまで光のあたらなかった明治の「もうひとつの政治」を初めて明らかにする、画期的研究。（出版社 HP より転載）



● 『21世紀東南アジアの強権政治 —— 「ストロングマン」時代の到来』（明石書店）

日時 9月15日（日曜日）12時30分～13時30分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅲ

登壇者 外山文子（東南アジア地域研究研究所／筑波大学大学院人文社会科学研究所）

本の内容：近年東南アジア諸国では、民衆により選挙で選ばれたにもかかわらず、非常に強権的な統治スタイルをもつ政治指導者たちが誕生している。それはなぜなのか。タイ、フィリピン、マレーシア、インドネシアの事例からその背景を分析し、民主化への影響を考察する。（出版社 HP より転載）



「トーク企画」レポート

当日は2回にわたり登壇者による講演が行われ、そこでの司会進行を務めました。明治時代の御料地について研究されている池田さなえ氏、21世紀東南アジアの強権政治について研究されている外山文子氏に講演を行っていただき、たくさんの方々が聞きに来られていました。質疑応答も大いに盛り上がり、登壇者と来場された方々の間で知的好奇心のやりとりが行われているのが感じられました。

一般の方々からすると「研究」というのは少し親しみづらいイメージがあるかもしれませんが、そのような垣根を取り払い、研究者と一般の方々との距離が縮まるような企画だったと思います。学生サポーターという形で関わることができ嬉しかったです。

教育学部 4年 池畑伊織

■ 2-4-4. 関連企画

京都大学アカデミックデイ参加研究者のお勧めの本について、他の施設でも特設コーナーが設置されました。

● 附属図書館

京都大学アカデミックデイ 2019 開催前の 9 月 2 日から開催後の 9 月 29 日まで、附属図書館 1 階で、京都大学アカデミックデイ参加研究者が「研究者の本棚」企画のためにセレクトした「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」から一部をレビューとともに展示しました。

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1382951>



● 京大生協ショッフルネ（書籍コーナー）

京大生協のショッフルネ 1 階イベントスペースでも、9 月 5 日から 9 月 17 日まで「研究者の本棚」特設コーナーが設けられ、書籍が展示されました。



2-5. 対話マラソンのための給水ポイント

■ 概要

日時 9月15日(日曜日) 10時~15時30分
会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

本年度も“対話マラソンのための給水ポイント”として、コーヒーやジュース、お茶を提供するドリンクコーナーを用意しました。研究者も来場者も夢中で対話続け、気付けば喉がカラカラ…。「小休止にありがたい」と好評のこのコーナーで喉の渇きを潤し、飲み物を片手に研究者は担当ブースに、また来場者は対話したいブースを探しに戻る様子が見られました。対話を続けてもらうためには欠かせないコーナーです。



3. アンケート

3-1. 来場者アンケート

■ 3-1-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、来場者に2種類のアンケートにご協力いただきました。

1種類目は、「対話マラソンのための給水ポイント（ドリンクコーナー）」で利用できる「ドリンクと交換アンケート」。「京都大学アカデミックデイ」をどこで知ったのか？どのような人が来場されたのか？を主催者が知ることがこのアンケートの目的です。

もう1種類は、お帰りの際にご協力いただいた方に記念品をお渡しする「記念品と交換アンケート」です。滞在時間や研究者との対話で印象に残ったことなどをご記入いただきました。



● ドリンクと交換アンケート (A5 サイズ : 148×210mm)



京都大学アカデミックデイ 2019

ドリンクと交換アンケート

早めに記入！

以下のアンケートにご記入いただくと、「対話マラソンのための給水ポイント」(ドリンクコーナー)でご使用いただけるドリンクチケットになります。15:30までにドリンクコーナーにお持ちください。ドリンクチケットと交換させていただきます。
※15:30を過ぎてもアンケートは受付にて回収しておりますので、ぜひご記入ください

2019.9.15

Q 1. 「京都大学アカデミックデイ」の開催をどこで知りましたか？(複数回答可)

ポスター・チラシを見て ① 中学校 ② 高校 ③ 京都大学 ④ その他の大学(大学名:))
 ⑤ 地下鉄 ⑥ 市バス ⑦ その他の公共施設(施設名:))
 ⑧ 新聞記事(紙名:))
 ⑨ 京都大学ホームページ ⑩ 生協等で配布のしおり ⑪ ツイッター、フェイスブック
 ⑫ メーリングリスト、メルマガ ⑬ カンフォアラのコラボメニュー
 ⑭ 「京都大学アカデミックデイ」関係者・出展者からの紹介
 ⑮ 会場に来て初めて知った(a. 当日配布チラシを見て b. 時計台に来て)
 ⑯ その他())

Q 2. 京都大学のその他のイベントに参加されたことはありますか？(複数回答可)

① 春秋講義 ② 京大ウィークス ③ 京都大学オープンキャンパス ④ ホームカミングデイ
 ⑤ 京都大学アカデミックデイ(過去 回参加) ⑥ その他())

Q 3. 京都大学ホームページや京都大学Facebookサイトを閲覧されたことはありますか？

① よく閲覧する ② 数回閲覧したことがある ③ 閲覧したことがない、知らない

Q 4. 科学・技術に関心がありますか？

① とても関心がある ② 関心がある ③ 関心があるともないとも言えない
 ④ 関心がない ⑤ 全く関心がない ⑥ わからない

Q 5. 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？

① はい ② いいえ ③ わからない

Q 6. 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

① 見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。
 ② 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。
 ③ 見つけれなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけれない。
 ④ わからない

Q 7. ご自身について教えてください。

① 小学生 ② 中学生 ③ 高校生 ④ 高等専門学校 ⑤ 京大生 ⑥ 京大以外の大学などの学生
 ⑦ 京大教員・研究者(年齢 代) ⑧ 京大職員(年齢 代) ⑨ その他(ご職業、年齢 代)

Q 8. お住まいの都道府県はどちらですか。

① 京都市内 ② 京都府内 ③ その他(都・道・府・県)



Dialog with the Public

ご協力、ありがとうございました。

● ドリンクチケット (名刺サイズ : 55×91mm)



● 記念品と交換アンケート (A5 サイズ : 148×210mm)



京都大学アカデミックデイ 2019

記念品と交換アンケート

帰る前に記入!

以下のアンケートにご記入の上、受付までお持ちください。京都大学アカデミックデイオリジナルグッズを差し上げます。※品切れの場合はご容赦ください

2019.9.15

本日はご来場ありがとうございました。今後の企画のためにご協力をお願いします。

Q1. 本日の「京都大学アカデミックデイ」の滞在時間はどの程度でしたか？
最も近いものを1つだけお答えください。

① 1時間未満 ② 1時間～2時間 ③ 2時間～3時間
④ 3時間～4時間 ⑤ 4時間～5時間 ⑥ 5時間以上

Q2. 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

Q3. 本日の「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」の中で、あなたが良かったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするならば、どんな名前の賞にしますか？

例: 「ワクワクしたで賞」、「ぼくの話をよく聞いてくれたで賞」、「研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞」、「これからも研究をがんばってほしいで賞」など

出展番号(出展番号はパンフレットを参照)	賞の名前	賞
		賞
		賞
		賞

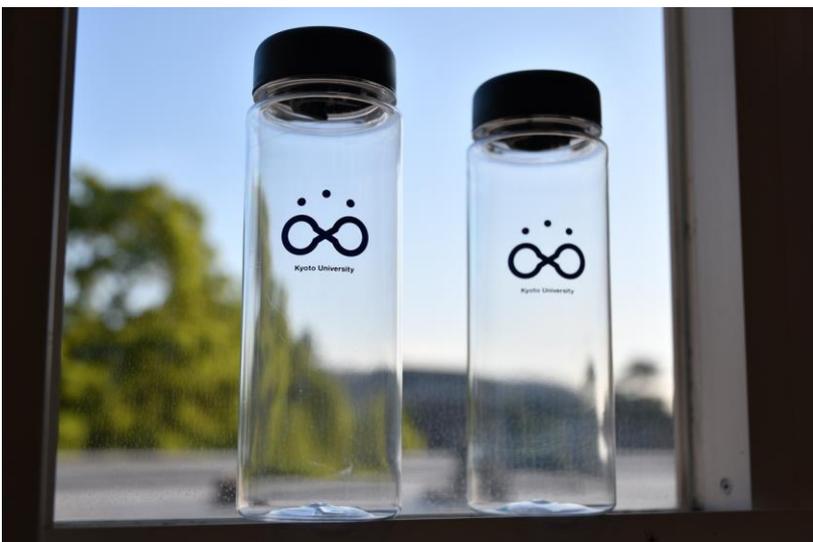
Q4. 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

良かった点
悪かった点



ご協力、ありがとうございました。

● 記念品 (クリアボトル)



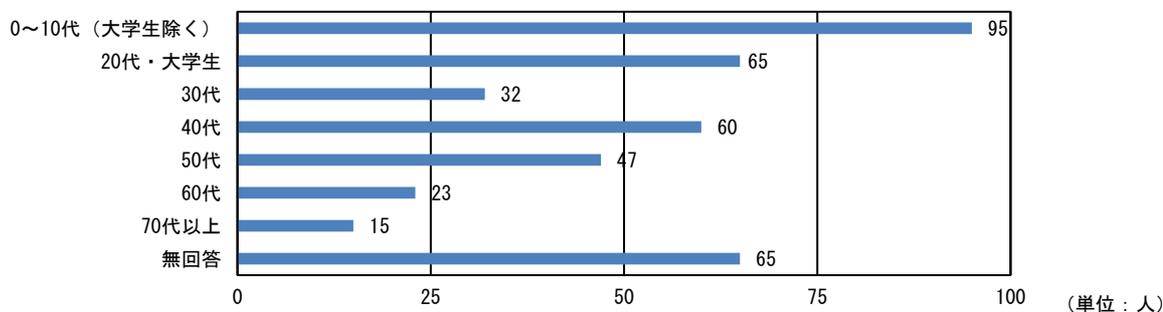
■ 3-1-2. 「ドリンクと交換アンケート」の結果

来場者 518 人

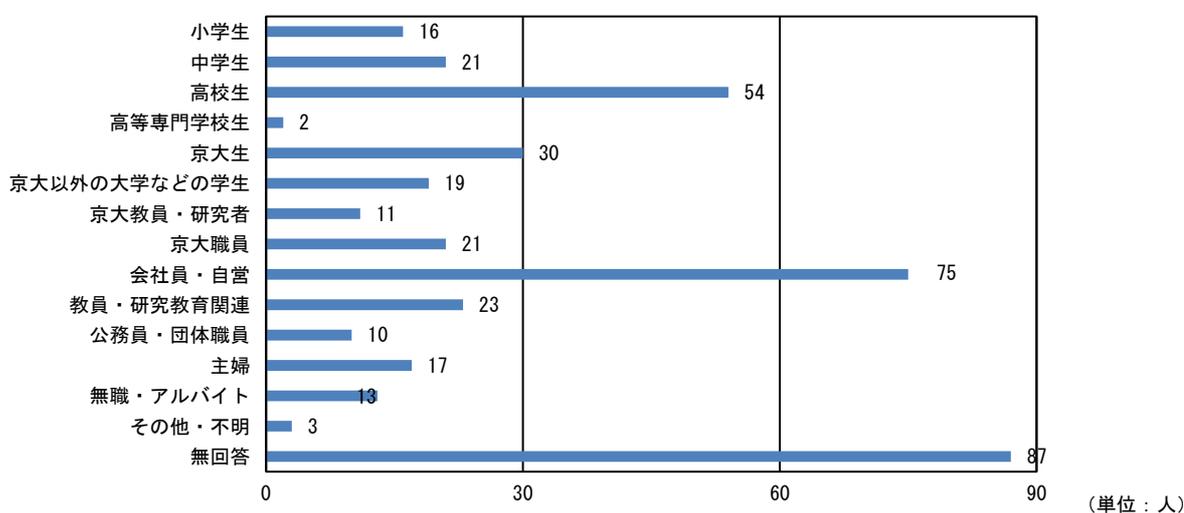
回答者数 402 人 (回収率 77.6%)

● 来場者はどのような方だったのか？

・ 年齢層

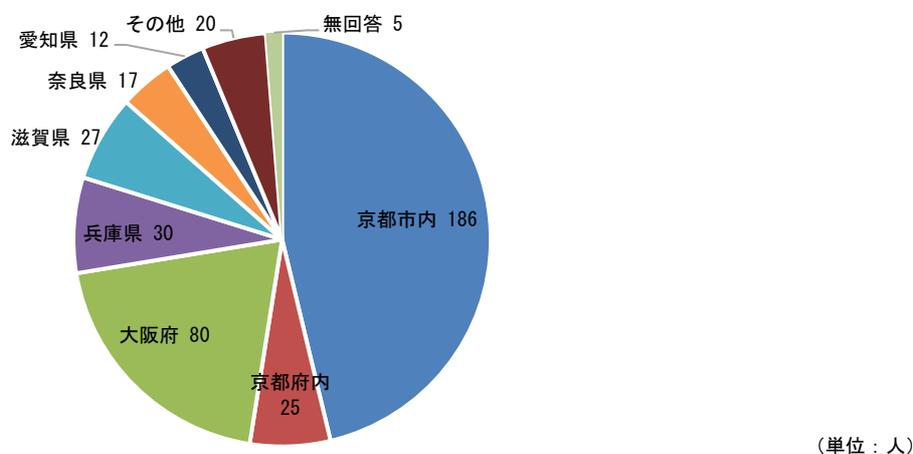


・ 所属



※「会社員・自営」～「その他・不明」は、アンケート設問「Q7. ご自身について教えてください。」で「⑨その他」と回答されたものより集計。

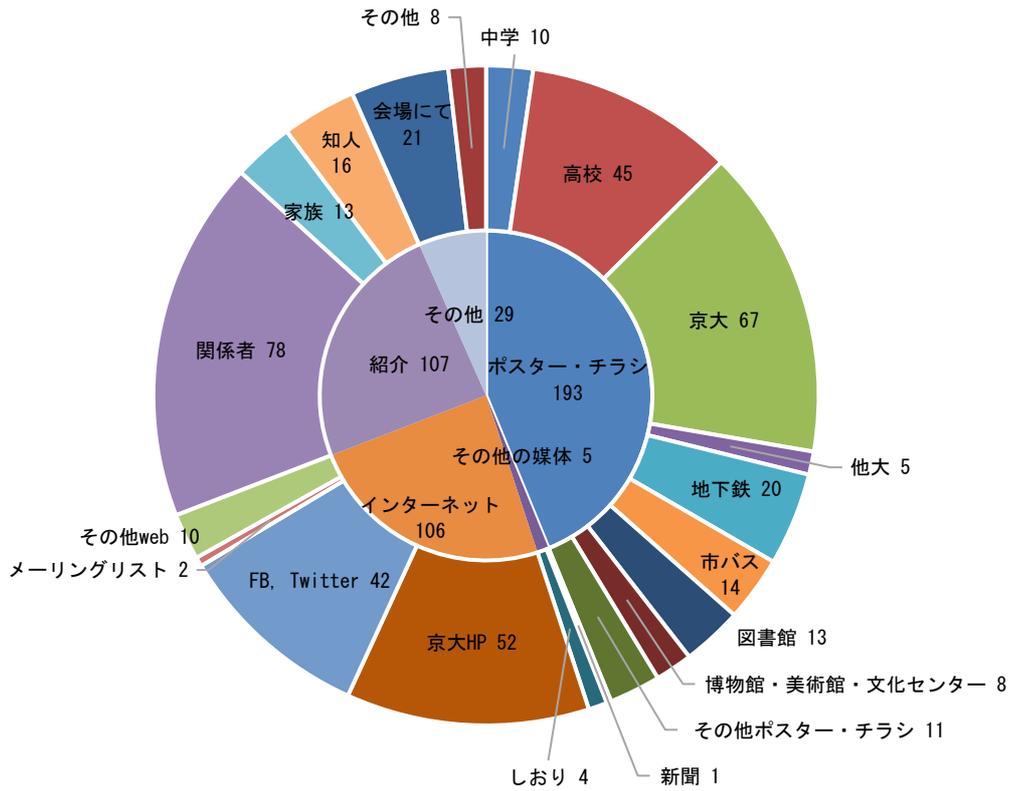
・ 住まい



※その他の内訳：岐阜5、神奈川3、和歌山3、福井3、東京2、三重1、千葉1

● 来場者は京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？

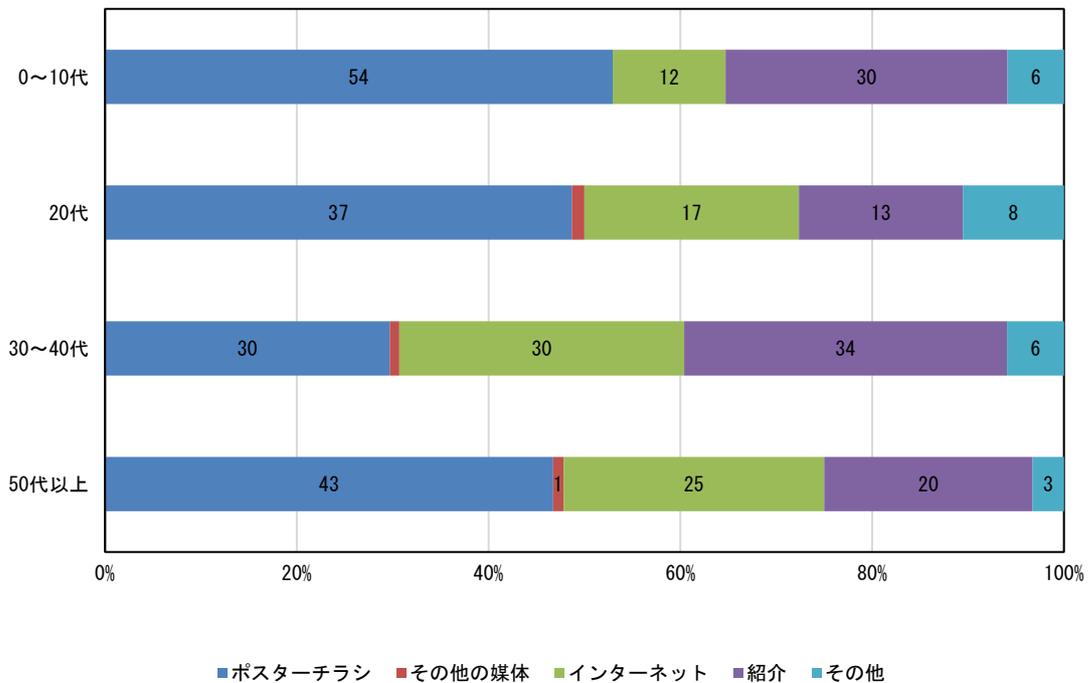
・ 開催を初めて知ったところ（全体）



(単位：件)

※複数回答を含む。

・ 開催を初めて知ったところ（年代別）

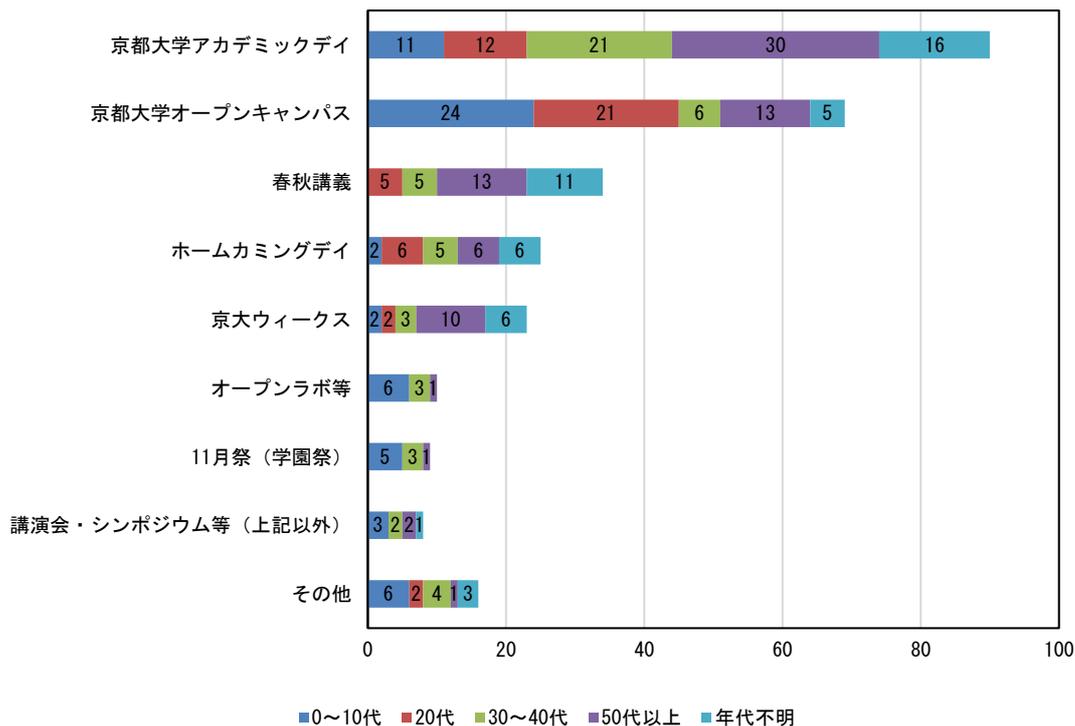


(単位：件)

※複数回答を含む。

● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

・ 本イベントの他に、参加したことがある京都大学のイベントは何ですか？（複数回答可）

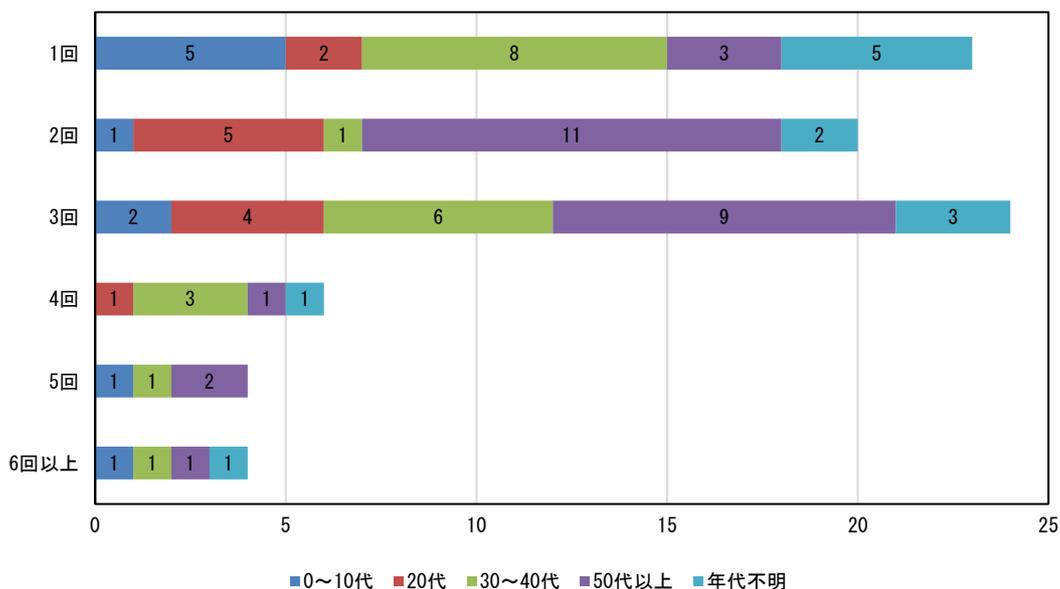


（単位：人）

※「講演会・シンポジウム等（上記以外）」～「その他」は、アンケート設問「Q2. 京都大学のその他のイベントに参加されたことはありますか？（複数回答可）」で「⑥その他」と回答されたものより集計。いずれの回答もなかったのは203件。

・ 京都大学アカデミックデイに過去に何回参加しましたか？

（過去に京都大学アカデミックデイに参加した方の内訳）

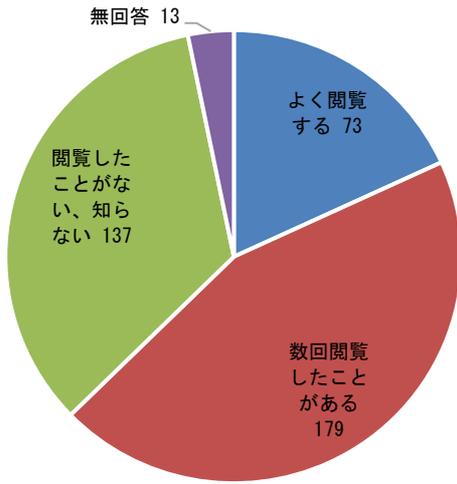


（単位：人）

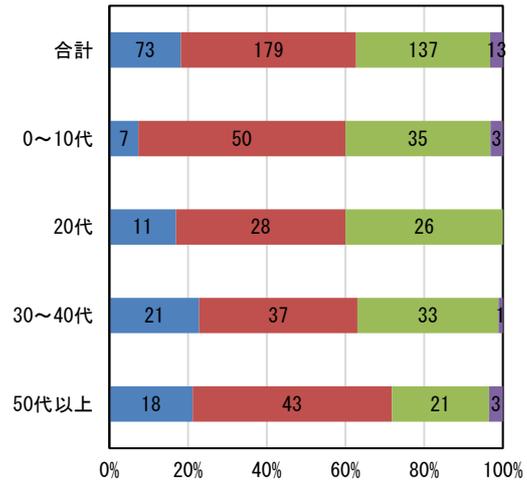
※過去の参加回数最高は8回。京都大学アカデミックデイへ過去に参加したことがあると回答があり、過去の参加回数の回答が無かったものが9件。

● 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

・ 全体



・ 年代別



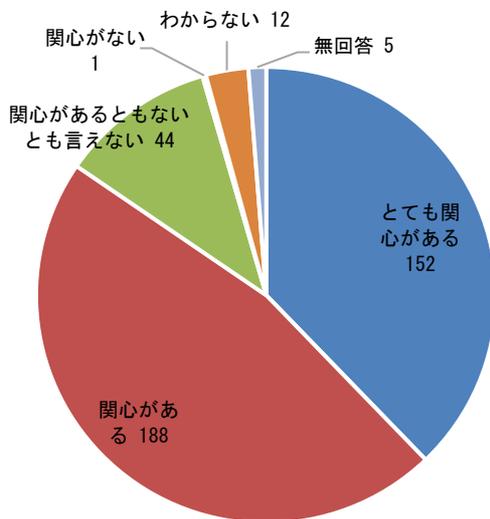
- よく閲覧する
- 数回閲覧したことがある
- 閲覧したことがない、知らない
- 無回答

(単位：人)

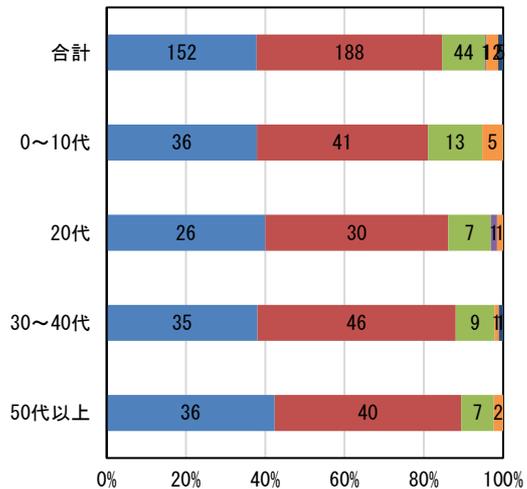
※右図(年代別)「全体」には、年齢不明データを含む。

● 科学・技術に関心がありますか？

・ 全体



・ 年代別



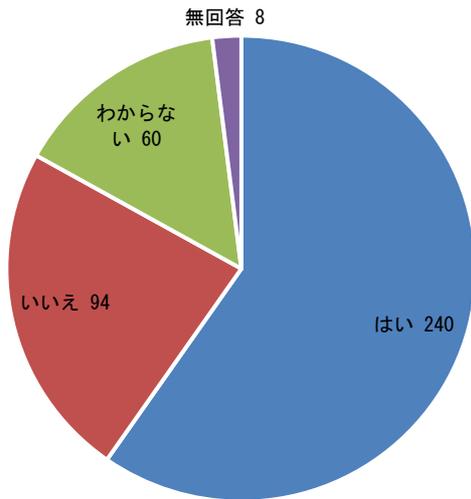
- とても関心がある
- 関心がある
- 関心があるともないとも言えない
- 関心がない
- わからない
- 無回答

(単位：人)

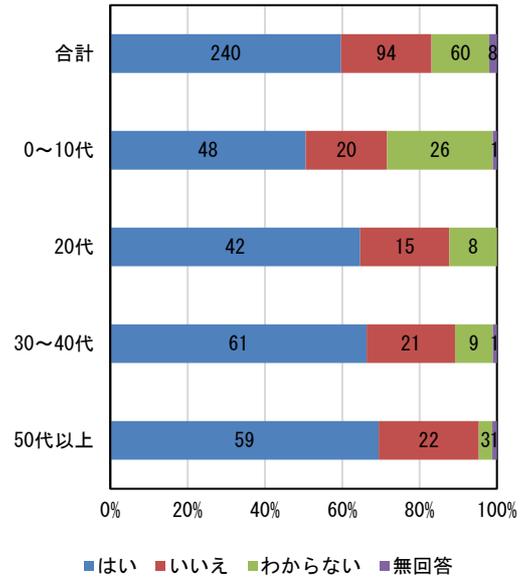
※右図(年代別)「全体」には、年齢不明データも含む。

● 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？

・ 全体



・ 年代別

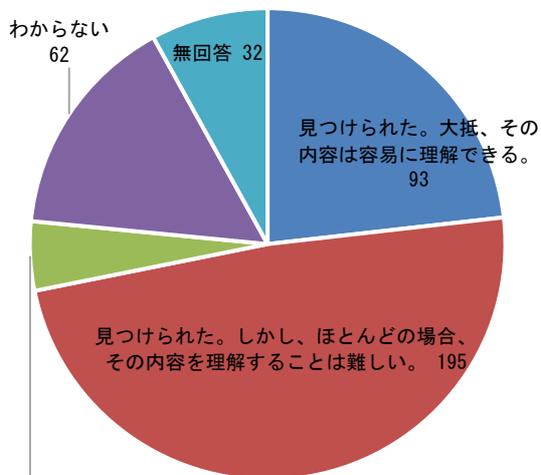


(単位：人)

※右図（年代別）「全体」には、年齢不明データも含む。

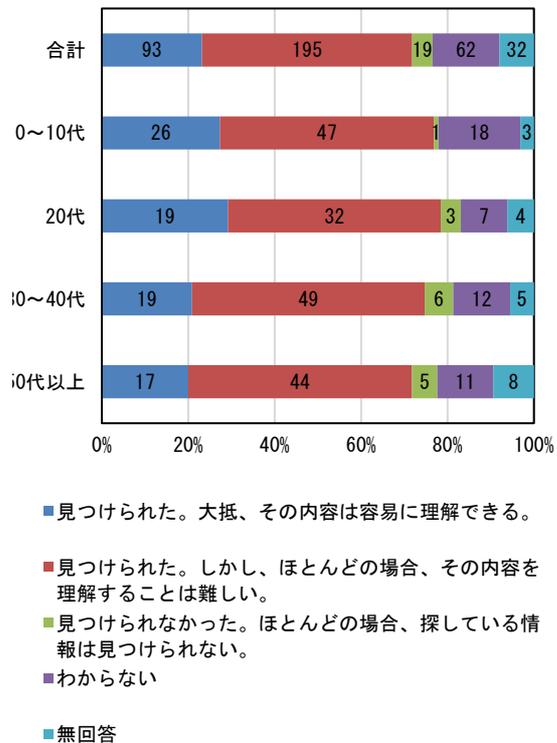
● 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

・ 全体



見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。 19

・ 年代別



(単位：人)

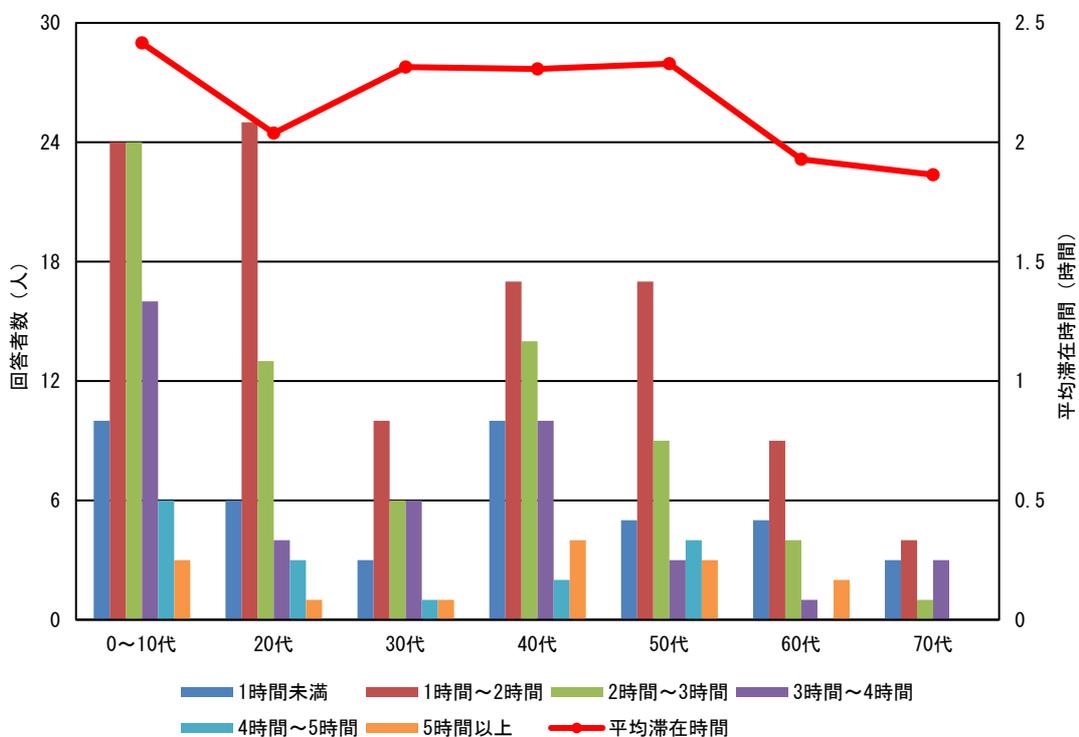
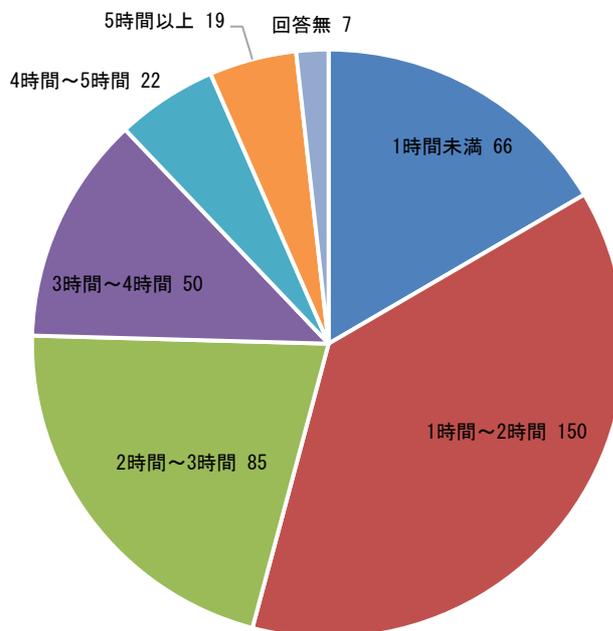
※右図（年代別）「全体」には、年齢不明データも含む。

3-1-3. 「記念品と交換アンケート」の結果

来場者 518 人

回答者数 399 人（回収率 77.0%）

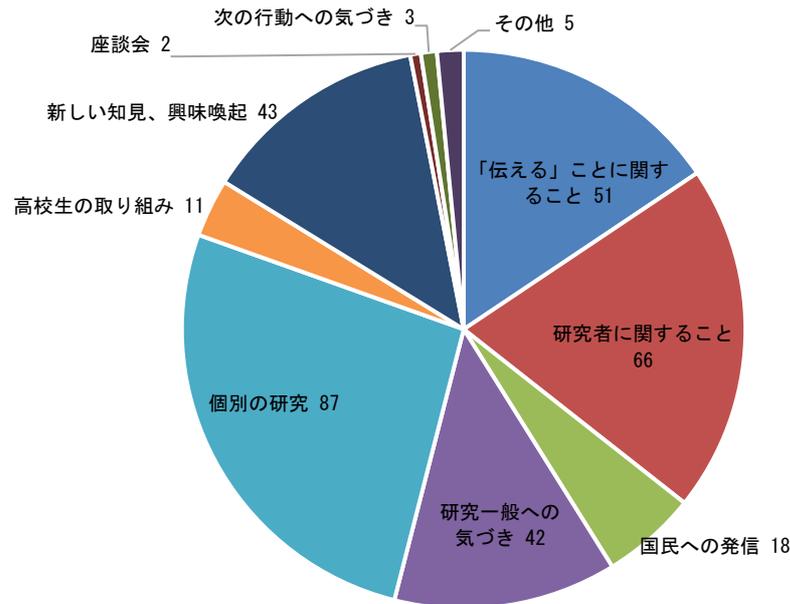
● 京都大学アカデミックデイの滞在時間はどの程度でしたか？



※平均滞在時間は、「1時間未満」を30分、「1時間～2時間」を1.5時間、「5時間以上」を5.5時間などとして算出。全体の平均滞在時間は、2.2時間。無回答7件を除く。

● 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

・全体



(単位：件)

・主な意見

〈「伝える」ことに関すること (51 件)〉

身近・距離・親近感 (10 件)

- 気軽に話が出来てよかったです。丁寧な説明も良かったです。(年代不明)
- 直接お会いして話をする機会が少ないので良かったです。どの研究者も熱心に話して下さった。(10 代)
- みんな一生懸命でした。話しやすかったです。(40 代)
- みんなやさしい。(10 代)
- 「かたい人」というイメージがあったのですが、そんなことは全くなかったです。(10 代)
- 皆さん非常にフランクで、説明も分かりやすく、来てよかったです。(20 代)
- 皆さん喜々として話されていて、日常に近い方が多いのも驚きだった。(10 代)
- きさくに質問に答えてくれるのが良かったです。研究者と言うと、近づきにくい雰囲気を感じてしまうので。(年代不明)
- みなさん意欲的でわかりやすい説明だった。科学が身近に感じられた。(年代不明)

丁寧・熱心・親切な対応 (18 件)

- 丁寧に説明して頂いた。人前で話すことに慣れている人とそうでない人で説明にも質の違いがあった。(20 代)
- 伝えたい！という気持ちが前面にでていて話しやすかった。(40 代)
- 聞く相手にあわせて内容をやさしく説明して下さったり優しさを感じました。(40 代)
- 初歩的な事からゆっくりかみくだいて説明したり、何度か同じところを聞かれても丁寧に答えていたところ。(10 代)
- 大変熱心にご説明頂いた。(60 代)
- 熱弁をふるわれて、素晴しかったです。いろんな質問が出来ました。(70 代以上)
- みなさん、とても熱心に話して下さいました。(40 代)
- 話し易く、丁寧に説明していただいて、よく分った。(40 代)
- 積極的に話しに来る人が多く話し方も上手だった。(年代不明)
- 初歩的な質問にも親切に対応して頂いたこと。(50 代)
- 子供相手に丁寧に話してくれありがとうございました。(10 代)

- 聞く相手に対してかみくだいて話して下さったのがありがたかったです。質問にも瞬時に答えて下さいました。(50代)
- 知りたいと思うことに丁寧に答えて頂けた。まだまだ知らないことがあったのしい。(40代)

分かりやすい説明 (15件)

- 非常にどのブースも話が分かりやすかった。(10代)
- 難しい研究をとでも分かりやすく説明して下さいました。(20代)
- 自身の研究をわかりやすく伝えようとしていた。(年代不明)
- 全く分野の違う方のお話を聞けましたが、どこもかみくだいて分かりやすく説明頂きました。(20代)
- 新しい技術・考え方について判り易く説明して下さいました。(70代以上)
- 意外にわかりやすく説明してくれた。(年代不明)
- 最先端の研究を分かりやすい言葉で説明してもらえた。(20代)
- 文理かかわらず、一般の人でも分かりやすいようにお話ししていただいた。(年代不明)
- わかりやすく話して下さい、かみくだいて説明できるのは精通しているからですね。(40代)
- はっきりした話し方でわかりやすくしゃべってくれる人が多いと思う。専門的になりすぎず良かった。(50代)
- いつもと違って市民へ向けて分かりやすく説明しようとする姿。(年代不明)
- 一般向けにもわかりやすい説明があり、良かったです。(40代)
- 最先端の研究について分かりやすく説明していただきとてもよい時間となった。(10代)
- 今まで興味があっても全くわからなかった用語がわかりました。皆さん説明がとでもわかりやすかったです。2つのブースで前のブースでわからなかった点がわかったりも。(50代)

プレゼンの仕方・伝え方の工夫など (6件)

- 手法がすごかった。図や表を多く用いてとてもわかりやすかった。(10代)
- わかりやすくまとめており、聞いている人たちに質問してくれたり、聞き手と話し手のコミュニケーションがとれた。(10代)
- ポスターの情報整理のやり方。(10代)
- 皆さん伝え方がうまい!! (50代)
- 他人に伝える、例えを出すのが上手い。(10代)
- 素人に対して上手に説明してくれる。(30代)

困難 (2件)

- いきなり研究の話ではなくベーシックを教えてほしい。語句がわからない。毎度めっちゃ楽しいです!! いい企画ありがとうございます! (30代)
- 一般人に研究を伝えるむずかしさ。(年代不明)

〈研究者に関すること (66件)〉

生き生き・楽しそう (15件)

- 自信に満ちた笑顔でわかりやすくお話ししていただきありがとうございました。(年代不明)
- たくさんの考え方があることで楽しそうに話していて良かったと思う。(10代)
- 研究者ってロマンティックな仕事だと思いました。熱中できる仕事、テーマを見つけられたこと、とてもうらやましく思います。(50代)
- 全員楽しそうに説明してくれた。(10代)
- 研究の楽しさ。生き活きとテーマを追求している。(10代)
- 研究を楽しそうにやっていた。(40代)
- 楽しくとりくんでいるように感じました。(年代不明)
- とても楽しそうにお話しされていたのが印象的でした。(20代)

- 34 番の外国の研究者の方が、日本語でとても丁寧に説明してくださって、本当にうれしかったです。しかも、研究に一生懸命で、とても好きなのだなということが伝わってきました。ありがとうございます。(30代)
- 皆さんご自身の専門についてお話しされる時にとっても生き生きとしていらっしゃいました。(50代)
- 皆自分が解明したい事について、情熱を持って研究活動を行っている、生き生きしている点。(20代)

真剣・夢中・熱意 (29 件)

- 熱意を感じました。最近忘れていました。(50代)
- 実直さ、誠実さ、世界の広さ。(30代)
- 本気度を感じた。(60代)
- 学部生や高校生でも高い意識をもって、研究や開発にとりくんでいることに感激しました。(40代)
- 皆様の研究に対する熱意が心地良いものでした。(年代不明)
- 研究に対する熱意と難しさを感じました。(30代)
- 研究の仕方、熱意。(20代)
- みなさんすごく熱意をもって研究にはげんでおられる点に感動しました。(40代)
- どなたも研究に対する熱意を感じ、応援したいと思いました。(40代)
- 研究者の持ってる熱は、やはりすごい。(50代)
- 熱意を持って世界をより良くしたいという姿勢。(年代不明)
- 自分の研究のことを熱心に話していたこと。(10代)
- 研究している人たちに共通していたのは、信念をもっていらっしゃったこと。(10代)
- 研究者の情熱。(50代)
- 難題なのに、それにチャレンジする意気込みの強さは、障がい者の1人として、勇気づけられた心境です。(50代)
- 研究していることが本当に大好きなのだなあと思いました。情熱がすごい！！(10代)
- 本気で研究する姿をみれて感動しました。(30代)
- 研究を情熱的に説明して下さり、希望に満ちている方ばかりで、とてもよかったです。(年代不明)
- それぞれが好きだったり本当に興味があるものを深く研究していること。(10代)
- 研究者の自分の研究への愛と伝えたい気持ち。(年代不明)
- 1つの事を追求している事。(年代不明)
- 視点の違い・情熱を持って研究していること。(50代)
- 皆さん、すごく熱心でまじめで…こんなに頭のいい人がいっぱいいるのになんで日本はこんなになってるのか…(年代不明)

その他の研究者の印象 (22 件)

- いろいろな考え方の研究者が居て、様々な理論をつくって、確かな考えを求めている事に気づいた。(10代)
- 何もないところからとりくんでいるところ。(年代不明)
- みなさんいろいろと研究をしているということを知りました。(年代不明)
- 研究者がどのような思いや考えから研究にとりくんでいるか。(40代)
- よく研究している。ただ質問に答えられないこともあった。(年代不明)
- 自分のしたいことや他のことなどいろいろな事を研究している人がいること。(10代)
- みんな色々な道を通して今の場所にいること。(20代)
- 京大研究者は皆、面白い！(10代)
- 京都で沢山のテーマを扱っている楽しそうな研究者がおられる。(40代)
- みなさんすごいですね。(60代)
- もう少しニュートラルな思考を持って欲しい。(50代)
- 未来の為に、人類又は世界の為に自由に研究(?) されている方々がおられるように感じました。楽しそうにお話して下さいました。(40代)
- 研究者としての心持ち。(20代)

- 研究者の悩みも聞いてよかったです。(40代)
- 若手の方も頑張っておられると思います。(50代)
- 目力がある。(20代)
- 目がキレイでした。(40代)
- 皆さん夢がある。研究を楽しんで下さい。プレゼンがちょっとイマイチなのもあったかな。(70代以上)
- 研究者が男の人ばかりだったのが気になった。女性が増えますように！(30代)

〈国民への発信（18件）〉

- テレビや新聞からの問題意識とは異なった視点での問題点が聞けました。(年代不明)
- 対話の重要性。(50代)
- 統計学の先生の話聞いて、メディアや他人の意見にまどわされないように！がよく解かった。(年代不明)
- 学生にとってあたり前の言葉（用語）も素人には初めての言葉で、素人でもわかるように説明するのはむずかしいんだと思いました。(40代)
- 一般向けにわかりやすく説明してもらい、アウトリーチ活動への意識の高さを感じました。(30代)
- 研究と現実生活とのつながり。(20代)
- 放射能の「メリット」という言い方はちょっと引かかる。(60代)
- 環境問題は、消費者の選択や農家の経営、そして国策と密接に関っている。(30代)
- 科学者と社会の関係が思いの他科学技術を左右させること。(10代)
- 今後の生活、医療に必要となる研究をしていると感じた。(年代不明)
- がん、環境問題が多い。(30代)
- 成果を話す側も聞く側も楽しくなる。(10代)
- 今すぐには生活にむずびつかないけれど基礎って大切だなと思いました。(60代)
- 昨年から継続して出展している方がおられること。直接対話して情報を得る場として、アカデイを大事にしておられるのだと思いました。(40代)
- 一線の研究者の方とアポなしで直接お話しできる貴重な時間を頂きました。年3回くらいやって欲しいです。しいて言えば人が多すぎて話せるチャンスが見つけにくいことくらい。(50代)
- 何も知らなくてもアカデミックなお話はとても楽しい。この楽しさは全国民に広まるべき。(40代)
- 自分の専門外の話、特に理系研究は、社会と密接につながっているような話が多く、勉強になった。(年代不明)
- 科研費の役割。(年代不明)

〈研究一般への気づき（42件）〉

- 身近なもの、「あたり前」を説明するために学問があるということ。(30代)
- 問いを立てることが研究なんだと思いました。(30代)
- 問いの奥深さ。(年代不明)
- 研究テーマの多さ、1つ1つの奥深さ。(30代)
- ある学問に対して、その学問の知識だけでなく、他の分野を応用することで、より本質的な理解が深まると思った。(10代)
- 学問に対する固定概念が薄れてきた。(10代)
- 中学校でも、研究者でも「考える→調べる（社会見学など）→考える」の形は一緒だったこと。(年代不明)
- 研究は複雑なことではないこと。(10代)
- 自分が思っていたのよりもはるかに研究ってというのは難しいことをやっているんだと思った。(10代)
- 人文系の研究に興味がありますが、その興味をどのように研究へと昇華していくか悩んでいました。今日ここで少し昇華方法を知れたなと感じています。(20代)
- 熱量。基礎研究の大切さ。(年代不明)
- 研究のおもしろさ、研究者の熱意。(20代)
- 調べた上でこれからの自分の課題を考えていたこと。(10代)
- 色々な研究課題とアプローチを知れて良かったです。(年代不明)
- 研究アプローチがおもしろかった。(30代)

- 新しい発想や視点、さらに日々のご研究の努力と葛藤を感じました。(年代不明)
- 一見難しそうな研究も話してみればとても面白かったこと。(10代)
- 文系・理系という区分けがいかに無意味であるかが分かった。(10代)
- 現在は多くの分野が協力して1つの研究を行っている。(10代)
- 研究に想像以上にお金がかかること。(年代不明)
- 理系以外にも文系的なことの研究もたくさんあると思った。(10代)
- 最終到着点、判断基準、実利用時期などが見えないことが多いように思えました。(50代)
- 意外な分野の研究がいろんなこととつながっているのだと感じた。(10代)
- 研究分野が異なると違う見方ができてお互いに刺激になった。(60代)
- 研究というと「とても難しいことを解明する」ものかと思いますが、そうではなく、普段何となく疑問に考えるようなことを掘り下げていく場合もあり、自分とは違う世界の話という訳ではないんだなと思いました。(30代)
- 研究という地道な作業を見る機会がなかったのでとても良い機会でした。(年代不明)
- 趣味(浅・広) ⇄ 研究(深・狭)「好きだから」←趣味。(10代)
- 注目した所のちがいなど。(年代不明)
- 科学の研究はアイデア勝負であること。(10代)
- 研究をしていると時間がたりなさそう…。(30代)
- 学部名、学科名と内容が関連づけ難かった。(60代)
- タイトルだけでは分からない、研究の面白さ、意義を肌で感じる事ができた。(40代)
- 研究内容が細か過ぎる、テーマが分かりづらい。(年代不明)
- 研究を通じて世界とつながっていること。(50代)
- 学内に色々な学問があることに改めて気付きました。(40代)
- 数学と人文系の距離は近そう。(50代)
- 問題を解決すると新しい問題点が見えてくる。(年代不明)

〈個別の研究 (87件)〉

- マイクロプラスチック問題が生態系に想像以上に悪影響を与えていること。(50代)
- 生き物の病気の有無によって、好みの食べ物がちがうという事。(40代)
- マウスや、いろいろな動物がパーキンソン病にかかるとうなるかが分かった。また、獣医師は、病気を治す際に、動物の解ぼうをして、内部をよく調べてから治りょうを行うことも分かって良かった。(10代)
- 例えば“素材”ひとつとっても、なぜかた選び方など思いもかけない研究があると知って面白かった。(40代)
- 人工アパタイトが出来れば、そのまま体内に直接金属を入れずに、結合できるかもしれないと聞き、早く実用化出来ればいいなと思った(祖母が大たい骨を折り、痛い痛いと言っているの)。重力波について教えてもらい、ブラックホールの周りに光が出来る現象が分かった。ニュースで見て不思議に感じていたので。(40代)
- 数学はやはり美しい。そして考えるのが楽しい。無意識にやっていたことの理屈がわかったこと。(40代)
- 起業家に必要なのは、自己責任と他責を分けて考え、いつでも味方でいてくれる人を分かっていること。(20代)
- 特殊な遺伝子をもつマウスをつくる方法。ウイルスを使うということで、ウイルスのすごさが分かった。(20代)
- フィールドワークをしている研究者は現地に行ったからこそ分かる事情をたくさん話してくれて興味深かった。(年代不明)

〈高校生の取り組み (11件)〉

- 高校生の意識が高い。(30代)
- 高校生の研究に感動。(10代)
- 高校の発表を中心に対話を楽しみました。疑問をそのままにせず、解明しようと没頭して研究活動に取り組む姿勢をこれからも大切にして欲しいと、心からそう思いました。(50代)
- 高校生が大学の研究者にも負けないような展示・発表をしていた。(20代)

- 高校生の研究に対する努力が良かった。(年代不明)
- 高校生の発表・研究への取組に圧倒された。(20代)
- 高校生が熱心に科学研究に取りくんでいるのは楽しみ。(60代)

〈新しい知見、興味喚起 (43件)〉

- 専門でない分野でも色々なことを知れた。(20代)
- ヒアリのお話は子供がおもしろかったようです。その他最先端のお話をきけて面白かった。(年代不明)
- これまでなんとなく知った気になっていた分野も理解が深まり、まったく知らなかった新しい研究に触れられてとても面白かった。(年代不明)
- これからは環境の問題が面白い。(70代以上)
- 奥が深いと思いました。(50代)
- 他者になって考えることが大事だと思った。(10代)
- 身近にも未解決な課題がたくさんあることを再認識！(20代)
- 大学院での学びについての話をじっくり伺う事が出来た。(年代不明)
- 将来に希望がもてた。(年代不明)
- 化学のことについてよく教えてくださって、興味を持てた。元素戦略プロジェクトが印象に残った。(10代)
- 知らなかったことが知れてよかった。(10代)
- 私の知らなかった様々な分野で研究が行われていて進歩していくことが期待される。(50代)
- 全然知らなかった理論や応用がたくさんある。(年代不明)
- 今までに聞いたことのない新しい技術を知った。(20代)
- さすが京大の先生だと感じました。最先端のお話が聞けてよかったです。(50代)
- 最前線、学際性の現状、どんな質問にも答えてくれる。(50代)
- 自分の今までの考えと、それを科学的視点から見るので、学ぶことが増えたというよりは、疑問ばかりが頭を覆った。(10代)
- 研究者の方々と話してみるとより話が深くなっていきとても面白かった。(10代)
- 最先端の研究内容が理解できた喜び。(20代)
- 最先端の技術というのはすごいと思った。(10代)
- 最新の研究は難しいが面白い！(20代)
- 研究の最先端(どこまで明らかにされているのか)などが分かった。(50代)
- 学問は面白い！！(10代)
- ワクワク感が伝わってきました。(40代)
- “わかるかな”と思ったけど、おもしろかった。(年代不明)
- 視点を変えると見え方が変わることを再確認しました。(10代)
- 普段ふれない理系の研究について知れて興味深かったです。(20代)
- 今回は自分の仕事にも役立つネタをみつけたこと。(40代)
- 自分自身が大学で学んでいることでも、もっとくわしく分かるようになった。(年代不明)
- 色々な研究に触れられてとても良い企画でした。(20代)
- 自分の分野外へ目を向けることで視野が広がったと思う。(年代不明)
- 難しい研究をわかりやすく話してくれて大変興味がもてました。(50代)
- 多くの分野があり、興味があるものを選べたのがよかった。(年代不明)
- 詳しい説明・とても興味深く拝聴しました。(40代)
- 現在の研究だけではなく、今後の課題も話してくれた。(20代)

〈座談会 (2件)〉

- また座談会もとても有意義でおもしろかったです。(20代)
- お茶を片手に座談会では、色々と考えさせられました。ポスターエリアとこの2つを聞いたことで、とても多角的に考える機会になりました。(30代)

〈次の行動への気づき（3件）〉

- これからの暮らし方のヒントをもらいました。（60代）
- 研究されていることを知ることから始まり環境問題も身近な存在となり自身が地球の為に出来ることから取り組もうと思えたことです。（年代不明）
- 学部で勉強してきたことで、以前参加したときより深いところまで話せた気がします。（20代）

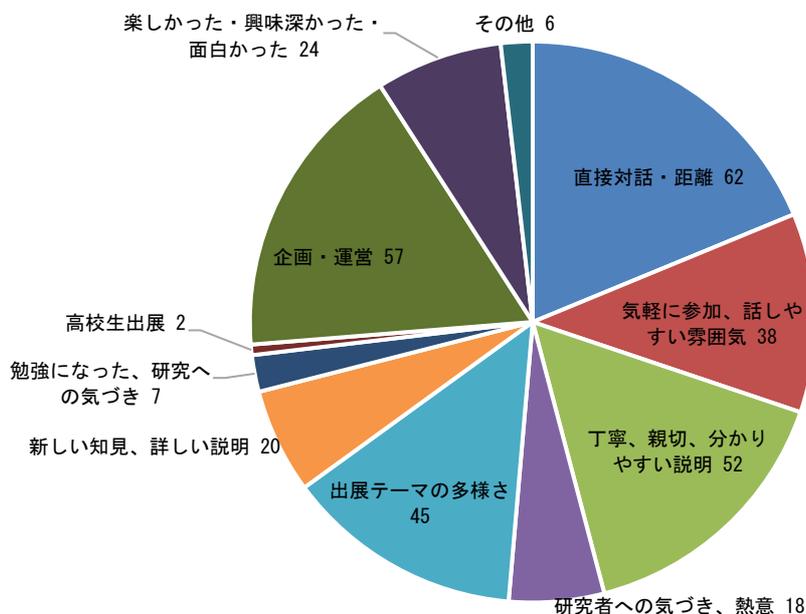
〈その他（5件）〉

- 始めはどの人が説明しているのかわかりませんでした。狭いので周りの声で聞き取りにくかったです。（年代不明）
- 大学は自由で面白い場だということ。（年代不明）
- 院（学）生しか説明員がないことは無くしてほしい。（60代）
- 同じ研究分野の研究者と交流した。（20代）
- 英語の先生と話せたこと。（10代）

● 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

〈良かった点〉

・全体



（単位：人）

・主な意見

〈研究者との直接対話・距離（62件）〉

- 研究されている人から直に話せてよかったです。（70代以上）
- 色々な研究者と直接話せた事、勉強になりました。（60代）
- 研究者とのキョリが近い。（10代）
- そもそも話せることが理解やさらに疑問を生む。これが存在するのがよかった。（10代）
- 話しやすかった。（10代）
- 笑顔で接して下さったこと。（50代）
- オープンに議論できる。（20代）
- いつも最先端の研究をわかりやすく説明して頂けること。（研究者自ら）（20代）
- 研究者自らが対話に積極的にとりくまれている点。（年代不明）
- 普段、なかなか直接おはなしできない方々のおはなしをきく事ができてよかったです。（40代）
- 一人の研究者の方に対して、少数の人だったので、質問にすぐうつれた点。（10代）

- 研究者の方々と直に話せて、そこで様々な議論や情報をもらえたりする。(10代)
- 気軽に研究者と話せて詳しく説明してくれた点。(10代)
- 研究者と議論が出来る点。(10代)
- 研究者さんとの距離が物理的にも心理的にも近い点。(10代)
- 研究者のポスターに載らない生の声が聞けたこと。(10代)
- 様々な研究者の方々と直接話ができ、大変良かった。(50代)
- 第一線の研究者のお話を伺えること。(50代)
- 研究者の生の声が聞こえる。(20代)
- ふだんはきけない研究の話がきけた点。(40代)
- 直接研究者の方々に話を聞けることは無いのでこのイベントはずっと続けてほしい。(年代不明)
- 普段の生活では知り得ない研究やその研究者と触れ合う、知り合う場として素晴らしい機会だったと思います。(40代)
- 研究者の方と直接話しができ、また自分に分かりやすいように話してくれた点。(年代不明)
- 直接研究者と話せる機会はあまりないのでよかったです。(60代)
- 直接質問できたこと。(年代不明)
- つっ込んだ議論ができる。(60代)
- 普段話せない研究者と身近に話せて良い機会だと思います。(30代)
- 1人につき1人の研究者がついてくれたので質問バンバンできました。(10代)
- 聞いたことがある病気やTVで見たことがあるような神経の話を具体的に説明してもらえて、日頃ふれられない研究が身近に感じられて楽しかったです。(50代)
- 自分の興味のない分野も研究者の方から教えてくれる。研究者が教えてくれるので理解しやすい。(10代)
- 研究者と交流できた。(20代)
- 研究者がフレンドリー。(年代不明)
- 実際に研究されている方と直接お話しできたところ(40代)
- 研究者と一般者とが情報交換できた。(60代)
- ふだんは話せないような研究者の方とお話しできた。(年代不明)
- ちゃぶ台囲んでざっくばらんに話げできたこと。(年代不明)

〈気軽に参加できる、話しやすい雰囲気(38件)〉

- 入場しやすい・気さく。刺激を頂きました！(40代)
- 赤ちゃんといっしょでも過ごしやすいゆったりとした空間。(40代)
- 子連れでも嫌な思いをせずゆっくり楽しめた。(30代)
- 子供の参加者が多かった。(年代不明)
- 誰でも気軽に参加できる。(40代)
- 気軽に参加できるところ。(年代不明)
- 楽しみながら、気軽に研究について知ることができたこと。(40代)
- 気軽に話げできてよかった。(年代不明)
- 研究者の方が声をかけて下さり、話をきけてたのしかったです。(40代)
- 声をかけてくださったり、とても話しやすかった。最先端の研究を知ることができた。(10代)
- 声をかけてくれるので、話をききやすい。(20代)
- 皆優しく話してくれて質問も聞いてくれた。気軽に研究を聞いて話せた点。(10代)
- 気軽に質問できる雰囲気。(10代)
- ブースごとに説明できる人がいて個々で話して質問などができる。(10代)
- 研究者の方々もラフな感じでとても話しやすい。(10代)
- 想像以上にフランクだった。(40代)
- 片苦しくなく話が聞ける点。(50代)
- 研究者の方から積極的に話しかけてきて下さったので、話しやすかったこと。(50代)
- 積極的に話しかけてくれたこと。(10代)
- 雰囲気がとてもいいです。(20代)

- わきあいあいとした雰囲気。(40代)
- 和やか。楽しかったです。(40代)
- 気軽に入りやすかった！(20代)
- きさくに話しかけていただけて楽しい会話することができました。(30代)
- 話しやすく楽しめました！(50代)
- 研究者の方のほうから話しかけてもらえた点。(20代)
- 「ちゃぶ台囲んで…」が、ポスター発表以上にくださった雰囲気、大勢の方と聞けた点。(30代)

〈丁寧、親切、分かりやすい説明 (52件)〉

- クイズ形式や体験式にしてある所が面白かった。あとは身近なものから考えられるテーマは入りやすかったです。(30代)
- 皆さんとても親切だったことです！ありがとうございました。(年代不明)
- 話を聞くだけでなく体験型のものも用意してくれていた。(年代不明)
- こまやかな研究計画に感心した。質問に対しても丁寧に答えてくださった。(20代)
- しろうとにわかりやすく説明してくれ、もう少し深くといったらきちんと説明してくれるところ。(40代)
- 説明が丁寧で親切だった。(70代以上)
- どんどん説明してくれる・意外とわかりやすく説明していました。(年代不明)
- 個人の質問にも1つ1つ丁寧に答えていただきました。ありがとうございました。(50代)
- 個人個人にくわしくわかりやすく、関心を持てるようにしてくれたところ。(10代)
- どの展示も大変わかりやすくクオリティが高かったです。(20代)
- どの先生、学生も、丁寧に対応していただきました。来年も利用したいと思いました。(年代不明)
- いやがらずに聞いて教えてくれること。素晴らしい。(50代)
- 研究が面白い。皆さんわかりやすい。(20代)
- 研究者がフレンドリーにわかりやすく教えてくれた。(30代)
- ポスター発表なので自分のみポイントをみることができる。専門的な内容をわかりやすく説明してくれたこと。(10代)
- 素人ですがとてもわかりやすく説明していただいて研究に興味がわきました。勇気が出ずちゃぶ台の近くで上がるか悩んでいたらスタッフの方に声をかけて頂けて上がってお話を聞くことができ本当に良かった。(20代)
- いっぱい質問しても笑顔で答えてくれました。(20代)
- 科学初心者の私でもわかりやすかった。(10代)
- 子どもにもわかりやすく説明してくださった点。(年代不明)
- わかりやすさを配慮している点。(50代)
- 子どもにも視線を合わせて話してくれたこと。8才、4才児と来場。(40代)
- 分かり易く熱心に説明して頂いた事。(40代)
- 実際にどういった研究をしているか、その一端をかい間見られる事。わかりやすく説明してもらえる事。(20代)
- 最新の研究をわかりやすい説明できくことができた。(20代)
- 図わかりやすい。(10代)
- 専門的な話もわかりやすく熱心に説明して下さり、知的好奇心が喚起される点。(40代)
- わかりやすく説明してもらえるブースが多く、知識が広がった様に思いました。ブースのスペースや会場の広さもちょうど良い。(年代不明)
- 研究を親切に説明してくれた。(年代不明)
- 教授にとってもつまらない問を投げかけても丁寧に説明していただけたこと。(40代)
- わかりやすく説明してもらえて、しろうと質問でも丁寧に答えてもらえました。(30代)
- むずかしい話をわかりやすく説明してくれた。(20代)

〈研究者への気づき、熱意 (16件)〉

- 学生が頑張っている所。(年代不明)

- 研究への愛を知った。(20代)
- とても難しい内容を一生懸命伝えようと説明して下さる姿に感動しました。ありがとうございました。(50代)
- 人がおもしろい。(10代)
- 発表者も自分から学ぼうとしていて、研究意欲を感じた。(10代)
- 研究者の発表(説明)に熱意を感じた。(70代以上)
- 大学ではこんなことを研究している人がいるという驚き。(年代不明)
- 先生方の対話力が上がっている気がします。(40代)
- 多くの研究者がお休みにもかかわらず、最新の研究ポスターと一緒に話してくれること。(40代)
- 学生さんが多くいて自分の研究のことをしっかり教えてくれたこと。(20代)
- とても展示がわかりやすかった。研究者が熱心でよかった。(年代不明)
- 皆、生き活きと御自身の研究について語っている点。(40代)
- どの先生も時間いっぱい説明して下さって、研究に対して本当に熱心に取り組んでいるんだなーと感じることができました。(40代)

〈出展テーマの多様さ (45件)〉

- 様々な研究を満遍なく知れたところ。(20代)
- 興味をもつ研究がたくさんあった。(60代)
- いろいろな分野の人の話がきけることで、将来の視野も広がったと思います。(10代)
- 様々な分野に浅くとも触れられる点。(20代)
- 最先端の研究をたくさん見れる。(20代)
- 同時に他分野のことが聞けること。(50代)
- 自分の興味のある出展にいける。(10代)
- 低学年の子供にも触れて学べるテーマもあり楽しめました。(40代)
- 様々な人と交流できたこと。(10代)
- 様々な研究発表が見れた点・体験コーナーなどがあった点。(10代)
- ジャンル関係なく興味のあることを聞ける。(10代)
- 文系が多い点。(10代)
- すごく興味のあるテーマが多い。(60代)
- 多くの分野を一同に集めていること。(50代)
- 興味のある分野を見つけることができよかったです。ありがとうございました。(30代)
- 世の中には、いろんな研究をしている人がいるのだなと感心した。(20代)
- 今年もいろいろな研究者さんが集まっていたとても面白かったです。(10代)
- 色んなブースが有り自分に興味のない事も少しは気になり話を聞きたくなった。(50代)
- 巾広くいろいろな研究について触れることができよかったです。(70代以上)
- 多種多様な専門分野が一堂にかいして面白そうだった。また同じような企画をぜひしてほしいと思いました。(30代)
- 色々な分野の研究が一度に見れて、又、興味深い内容も多くお話を聞いているだけでも楽しかった。(40代)
- 様々な分野の最先端に触れられた感じがした。(年代不明)
- 文系の研究者と話せた。(20代)
- 研究者がたくさんいる事。(年代不明)
- かたよりが少ない。(40代)
- 様々な研究者の意見がきけたこと。(年代不明)
- 分野のごった煮感が良かった。(年代不明)
- たくさんの研究を一度に知れた。(60代)

〈新しい知見、詳しい説明 (15件)〉

- 詳しく色々聞けて良かった。(40代)
- 普段は触れることの出来ない学問に触れることができた。(10代)

- 知識の結晶や！（10代）
- 知らないことをたくさん知れて発見できた。考えさせてもらった。（10代）
- 自分が知らなかったことをたくさん知れたし、研究することに対して、やってみたって気持ちが強くなった。（10代）
- 対話を通じて様々な発見があった。（10代）
- 日頃気にとめていないことを詳しく聞けておもしろかった。（40代）
- 知らない世界と接することができました。楽しかったです。来年も参加したいです。（10代）
- 日頃話すことのない方々と会話し、知識のおすそ分けをいただけた点。（50代）
- 普段考えもしなかったことが知れた。いろいろな考えが聞けた。（10代）
- 知りたかったことについて色々知れた。（50代）
- 毎回、いろいろな刺激をもらってます。来てよかった。（50代）
- 新しい発見ができた。（50代）

〈勉強になった、研究への気づき（7件）〉

- 大変勉強になった。（70代以上）
- さすが京大の方です。内容がためになりました。（50代）
- どんな研究をしているのかよく分かった！（20代）
- 大学についていろいろな研究についてよく学べた。（10代）
- 京大他の研究者のやっていることが垣間見えたこと。（10代）
- みなさんの日々の研究が私達に役立ってる。（年代不明）

〈高校生出展（2件）〉

- 高校生も対象にしてくださっていること。本校を発表校に選定してくださったこと。（生徒にとって、本当に良い機会になりました。有難うございました。）（50代）
- 今年も高校生ががんばってた！（40代）

〈企画・運営に関するもの（57件）〉

- 子どもと一緒によらせていただき、ジュースやアイスがあったのはありがたかったです。もう少し子ども向けのコーナーもあるともっと嬉しいです。ありがとうございました！（年代不明）
- とても良い企画。（30代）
- 会場のセッティング行動がしやすい。（年代不明）
- 日曜日なので、子供の学校も休みで1日ゆっくりこれました。飲み物もあるのはとても助かります。ありがとうございます。（40代）
- 日曜日に開催されたので、朝から見ることができ楽しかったです。（10代）
- 対話形式で色々な人と交流が出来た事。（年代不明）
- 盛りだくさんの内容でした。（年代不明）
- 広がったのでゆっくり回れた。（年代不明）
- 広々した会場で良かった。本も興味深かった。（年代不明）
- 人口密度も適切でにぎわいながらも気の向くままに回れる。（20代）
- 高校生の研究も紹介されていたり、老若男女とわず楽しめる場であったこと。（年代不明）
- 長く話ができる。（10代）
- 「研究者のひとこと」があるところ。いすがあるところ。（40代）
- 「対話」のための環境がととのっている。（10代）
- 活気に満ちていてほんとうによかった。（50代）
- ちゃぶ台の発想がユニークで面白い。（10代）
- 給水ポイント（ネーミングが面白い！！）。（40代）
- ドリンク提供や椅子の配置など、運営が工夫されていて過ごしやすかったこと。（40代）
- ドリンク（給水）がたすかりました。（年代不明）
- ワンドリンクをアンケートとひきかえで提供していた点。（20代）

- 時間、スペースに余裕があり、落ち着いて話を聞いた。受付や会場の案内も丁寧で快適でした。(30代)
- ドリンク券がある。時間によってイベントがあり退屈しない。(30代)
- 掲示物その他、後日ゆっくり見れるようにしていただき、(資料など) 高校生にも見せたいです。(理系離れが進んでいます。でもどんな「わくわく」が待っているのかを知らずに文系を選んでいる生徒が多いのが心苦しいです。(50代)
- 涼しい。(年代不明)
- ちゃぶ台は、いいですね。(50代)
- チラシの写真が魅力的。(30代)
- プレゼントがあるところ。(年代不明)
- 一ヶ所に集まっているのが有難かった。イスが多くて気軽に休めた。(50代)
- 番号別で分かりやすい。(10代)
- スタッフの対応。(年代不明)
- 時間の長い。(本棚など)のイベントがあるところ。ドリンクが複数回もらえるところ。(20代)
- 研究者もしっかりと話す場があること。(20代)
- 人が多くてにぎわっていたこと。(年代不明)
- 良く出来てる。(40代)
- English. (20代)

〈楽しかった・興味深かった・面白かった (24件)〉

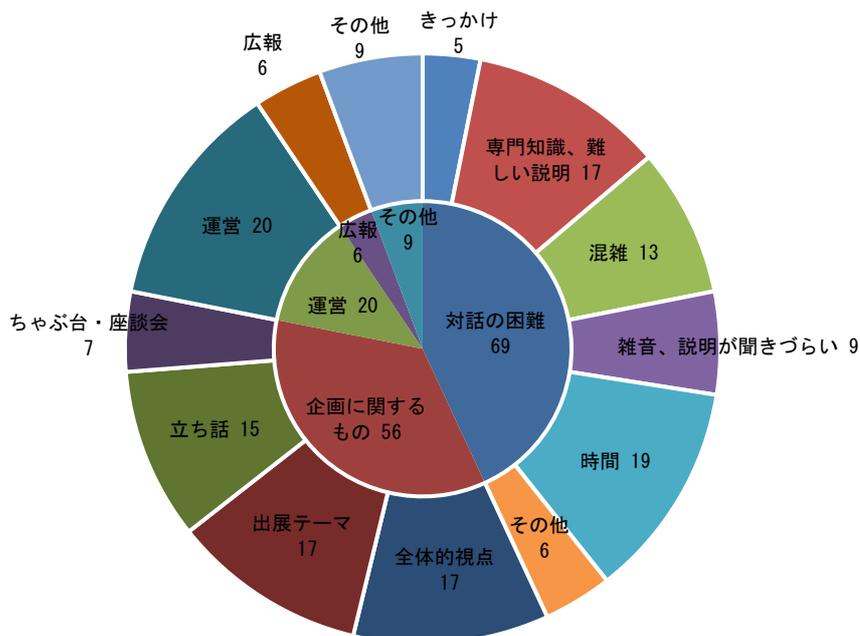
- 益々面白い研究を教えてください。(70代以上)
- 毎年楽しみです。日曜日になって参加者が増えた。(60代)
- 今年はブースが少なく感じ日々の研究で大変な中での企画かと思いますが毎年楽しみにしておりますので継続を願っております。(50代)
- 楽しいということがよくわかりました。(10代)
- 普段は進んで知ろうと思わない分野も、せっかくだから知ろうと思えて新しい興味をもてること。(10代)
- 研究者と楽しく話せた。(10代)
- おもしろい話題があった。(10代)
- 小学生でも楽しめる場所があっっておもしろかったです。(10代)
- にぎわっていてとても楽しかったです。(40代)
- 毎回楽しんでます。続けてね。(70代以上)
- Good. (40代)
- 初めて参加させていただきました。とてもよかったです。人文系の研究者のお話しももう少しききたいと思いました。(40代)
- たくさん参加されていてにぎやかでした。(年代不明)
- すばらしい。(年代不明)
- どれも大変興味深い内容。(50代)
- とても興味のある話がきけた。(40代)
- 興味深い展示が多く、おもしろかったこと。(20代)

〈その他 (6件)〉

- 結構たくさん人がいて刺激になった。(20代)
- 会場外ですが「SIGNAL」の展示はとてもよかったです。もっと人文研の先生方と話してみたかったです。(年代不明)
- Moonshotの座談会、たいへん刺激的でした。塩瀬先生、田中先生、鈴木先生、本探して読みます。ありがとうございました。(年代不明)
- 知り合いに会えた。(40代)
- 継続は力なり！(40代)
- 京大は一般庶民にも関西では最も開かれていて、とてもありがたく思っています。(70代以上)

〈悪かった点〉

・全体



(単位：人)

・主な意見

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：きっかけ (5 件)〉

- 話をききたくてもどうやって言えばいいかわからなかった。(10代)
- 話かけづらい。(10代)
- 難しかったり、声をかけにくかったりした。(10代)
- なかなか人をつかまえる事が出来ず話をきくことができなかった所もあった。(50代)
- なかなかとっつきにくい。(40代)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：専門知識、難しい説明 (17 件)〉

- 内容が難しく、理解できなかった場面が何度かあった。(10代)
- 理系の研究が多く、中には難しすぎるものもあった。(10代)
- 難しい内容で話しかけるのが難しかった。(30代)
- 難しい話が多かった。ちょっと理解するのが大変でした。(年代不明)
- 専門的すぎる説明もあった。研究者のやる気次第？(年代不明)
- 研究内容が分かりにくい。(50代)
- パネルがわかりにくかった。(10代)
- もう少し詳しい情報説明がほしい。(年代不明)
- 法学部卒なので理系のテーマはほとんどチンプンカンプン。(60代)
- 基礎知識があるととっても楽しめたと反省。(40代)
- 研究の性質上仕方ないのかもしれないがポスターに目を通さないで、あるいは目を通してても何をしているかわからない。新聞など見出しでだいたい何かぐらいわかるのだが。(10代)
- 基礎知識がないと難しいと思います。単位の説明が要旨案にあれば良いと思います。(50代)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：混雑 (13 件)〉

- 人が多い所が多かった。(40代)
- もっと広い場所でやって欲しい。(年代不明)
- 人気がある所は混んでいて、道が通行しにくい箇所がたまにあった。(10代)
- 人が多すぎて見たいもの(資料)が見えなかった。(10代)

- 常駐の方の人数が少ないところは、混んでいると、なかなか話をきくことができずじまいのところがあり、残念でした。(20代)
- 待ち時間ができてしまう。(10代)
- ポスター発表で先に人がいた場合いつ終わるのかわからないから時間がムダになる。(年代不明)
- 人が多くて研究者の人とあまり話ができなかった。(60代)
- 丁寧すぎて、なかなか人波がとだえず、聞くのをあきらめたブースもありました…。(40代)
- ひとつのブースでどのくらい時間がかかるかわからない。(年代不明)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：雑音、説明が聞きづらい（13件）〉

- 雑音が耳ざわりなので、心が落ち着く曲を流すなどの工夫が欲しかった。(年代不明)
- 周囲の音で研究者さんのお話が少々聞き取りにくかった点。(10代)
- 研究者の声が少し離れると聞こえない。小さなマイクがあってもいいのかも…。(年代不明)
- 周りの声が大きくて前の人の話が聞こえない。(10代)
- ブースが狭い点。声が聞き取りにくかった（他の音が大きかった）。(10代)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：時間（19件）〉

- あと1時間長くやってほしかった。(20代)
- あっという間で時間がたいません！（10代）
- 全部拝見できなかった為2日間開催して戴きたいです。(年代不明)
- たった1日しか無い事。3日連続位でやってほしい。(20代)
- この機会には一年待たなければならないですね。(70代以上)
- もっとはやく来ればよかった。(40代)
- 1回1回の話が長かった。(10代)
- 話しが長い。(10代)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：その他（6件）〉

- 結果どうしたらいいのかそれぞれのメッセージが見えづらかった。あとはそもそも化学薬品を使わずに健康になる方法などをききたかったです。(30代)
- 日本語を話せる人が一人はいてほしかった。(40代)
- 内輪で盛り上がっていて入りにくい展示があった。(年代不明)
- 教えることに消極的な人がいくつかのブースにいたこと。(10代)
- より魅力的に話しやすく。(40代)

〈企画に関するもの：全体的視点（17件）〉

- 展示ブースにも参考としたおすすめの書籍を置いてはと思う。(50代)
- もっと色々な国の方々の話も聞いてみたい。(10代)
- 小さな子も楽しめるような企画がもっとあればよかった。(30代)
- キッズスペースがあるといいナ。(年代不明)
- ポスターを後日で良いのでHPにUPしてほしい。(50代)
- 気づくと研究者の方につかまっている。(10代)
- もっと発表方法のバリエーションがあっても良い。(20代)
- 各ブースA4 1枚位で（出展内容を紹介）持ち帰れるペーパーを作ってほしい。玄関前にて配布してほしい。(20代)
- アイデアやプロセスだけでなく、どうやってそのアイデアを思いついたかももっと教えて欲しかったです。(10代)
- （私なのですが）ゆっくりきたので事前にききたい先生のブースの open hour をチェックしておくことでした。ききそびれました。(40代)
- 出展数も人の数も多く、若干（かなり…）疲れてしまう点。(40代)
- クローズになっているブースがあった。(60代)

- 教授の数が少ない。(70代以上)
- 思っていたより出展が少ない点。(10代)
- 研究テーマ(パネル)を倍に増やして欲しい。(40代)

〈企画に関するもの：出展テーマ(17件)〉

- もっと出展テーマが増えたらうれしいです。(30代)
- 思っていたよりも規ボが小さい。人文科学系ブースを増やしてほしい。(年代不明)
- 人文系が殆どなかった。残念。(60代)
- 建築に興味があるので建築に関するブースがもっとあればいい。(年代不明)
- 美術。(20代)
- 理系多すぎ!!(文系の叫び)(10代)
- 社会学方面がほぼない。(20代)
- 哲学や文学のコーナー(セクション)もあれば行きたかったです。(希望)(40代)
- 社会との関わりがもう少し分かりやすいテーマも増えると嬉しいです。(年代不明)
- 教育分野や人文系の研究があっても楽しいかもしれないと思いました。(30代)

〈企画に関するもの：立ち話(15件)〉

- ブースが少し小さい。(10代)
- 化学、生物、物理などの分野分けがされていなかった点。(10代)
- 中身を理解していないポスターがあった。(60代)
- 脚がつかれました 椅子はあるけど座っている時間ももったいな〜い。(40代)
- もし可能であれば説明される方が多いとさらに良かった。(50代)
- 説明員の数が少なくてなかなか順番が回ってこない。(60代)
- ややブースが減ったようで寂しい感じがした。(20代)

〈企画に関するもの：ちゃぶ台、座談会(7件)〉

- ちゃぶ台かこんでをもう少し増やしてほしい。(60代)
- ちゃぶ台かこんでが人多すぎてきけなかった。(20代)
- チャブ台コーナーが少ない。1人の時間をきめる。(70代以上)
- ちゃぶ台がせまくちよっと参加しづらい。(年代不明)
- ちゃぶ台の対話タタミの上に座って話をするのはちよっとつらい(73才)です。(70代以上)
- 座談会もっと対話したかった。1人ずつの発言が長い。簡潔に。(50代)

〈運営に関すること(20件)〉

- 会場が暑かったです。(年代不明)
- 座る場所(休けい場所)がほしい。(10代)
- 入口の看板がわからなくてちよっと迷った。(年代不明)
- 構内に入ってから、入口等がわかりにくい。ポスターやのぼりを出して下さい。(40代)
- 周辺に荷物をあずけられる場所がほしかった。東京から泊りで来たためスーツケースを持っていたがおくところがなかった。(10代)
- 初めて来てルールがわからなかったため、飲み物は1度しかもらえず帰る時にアンケートとひきかえと思いこんでおり、最後になってしまったこと。(50代)
- 昼食場所が少ない?カンフォーラが長蛇の列だった。(20代)
- お茶をのめる場所が少ない。(20代)
- 毎年土曜日開催だったので、今年もそうだと思っていました…。(30代)
- 文献の紹介をするコーナーをもっと紹介してほしい。(20代)
- スペースが狭いエリアがあり、通りにくい所があった。(年代不明)

- 開催日を早めに教えてほしい。他の予定が入ると来れないので、できたら来年の日にちが決まってるとうれしい。(50代)
- 研究されている方の名札は改善できるかも。(40代)
- ドリンクチケットを落としている人がいたので、名札の裏に入れるようにした方がよいと思う。(20代)

〈広報に関するもの (6件)〉

- もっと学外の宣伝に力を入れてほしい。(20代)
- 外に案内ポスターをもっと出してほしい。(40代)
- とても面白いので、もっとたくさんの人に知ってほしいです。広報がんばって下さい！(30代)
- 京都アカデミック開催を全く知らなかった。もっと宣伝した方がよいと思う。ありがとうございました。(年代不明)

〈その他 (9件)〉

- 遠い。(10代)
- (初来者視点) このアカデミックの責任ではないのですが、せめて出町柳からのアクセスをわかりやすく…。(50代)
- 連休の真中で、バスが混んでて来るまでに時間がかかった。(70代以上)
- 研究成果が何に役立つのかわかりにくいテーマもあった。(60代)

3-2. 出展者アンケート

■ 3-2-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、出展者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったこと、また今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による広報活動の本学での支援についてのご意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

- ・ ウェブフォームから回答
- ・ 連絡担当者を通して参加研究者全員にウェブフォームからの回答を依頼
- ・ アンケート受付期間：25 日間

〈設問〉

- ・ 問 1. 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。(回答必須)
[選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない]
 - (a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度を把握することができた
 - (b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
 - (c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
 - (d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
 - (e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた
 - (f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった
 - (g) 参加は日々の研究活動の負担となった
 - (h) 機会があったらまた参加したい
 - (i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい
 - (j) 他の研究者との交流の機会になった
- ・ 問 2. 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った (or 必要だと感じた) 工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。
(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)
- ・ 問 3. 来場者との対話の中で、どのようなことが特に印象に残りましたか。
(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)
- ・ 問 4. 学内限定タイム (16:00-17:00) について伺います。アカデミックデイ終了直後に同会場で、参加研究者同士が交流するための時間はあったほうが良いと思いますか？ (回答必須)
[選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない]
また、その理由もお書き下さい。
(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)

- ・ 問 5. 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。
 - 5-1【良かった点】
（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）
 - 5-2【改善点/課題】
（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）
 - 5-3【今後に向けた提案】
（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 問 6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。
 - （非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 問 7. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい座談会のテーマや新企画などのご希望がありましたらお書きください。
 - （非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 問 8. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。
 - （非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

- ・ 役職（回答必須）
〔選択肢：教授、特定（特任）教授、准教授、特定（特任）准教授、講師、特定（特任）講師、助教/助手、特定（特任）助教/助手、研究員、博士課程（博士課程後期）大学院生、修士課程（博士課程前期）大学院生、その他〕

- ・ 研究分野（回答必須）
〔選択肢：社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系〕

- ・ お名前（回答必須）

- ・ ご所属（回答必須）

- ・ ご連絡先（E-mail）（回答必須）

- ・ 当日の参加者について、出展申込書に記入いただいた時点から変更がある場合で、報告書等への記載を希望される場合は、氏名／所属／職名又は学年等をご記入ください。

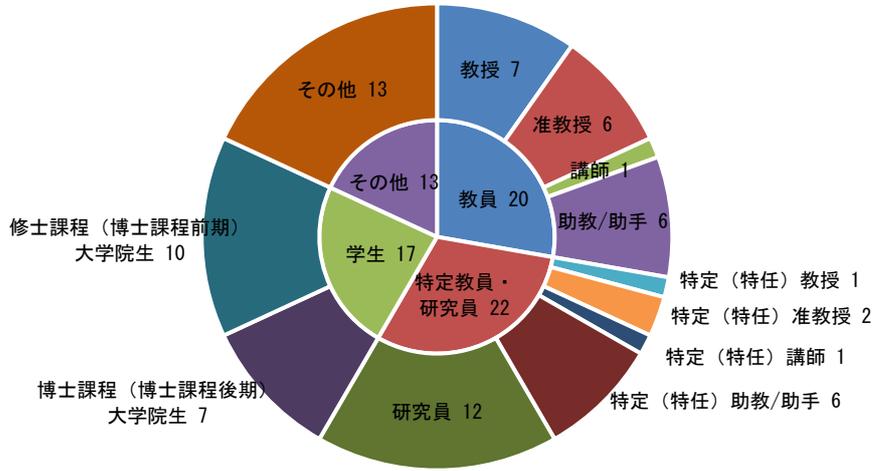
■ 3-2-2. 「出展者アンケート」の結果

出展者数 223 人

回答者数 72 名（回収率 32%）

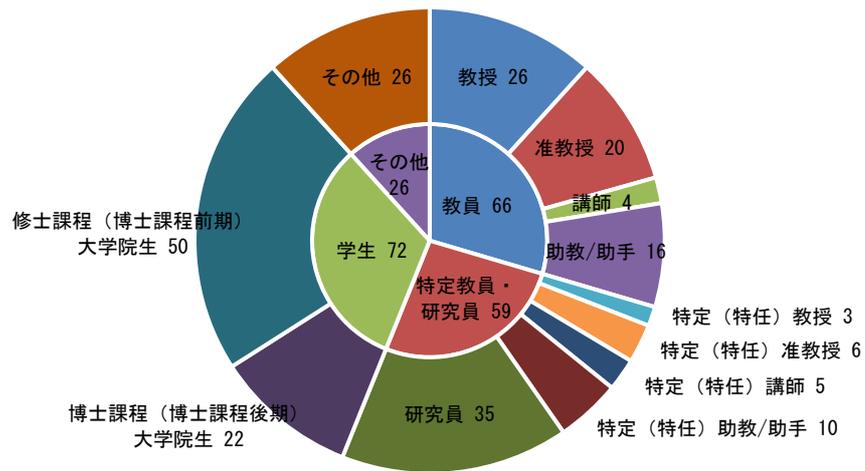
● 回答者の属性

・ 職業による回答者属性



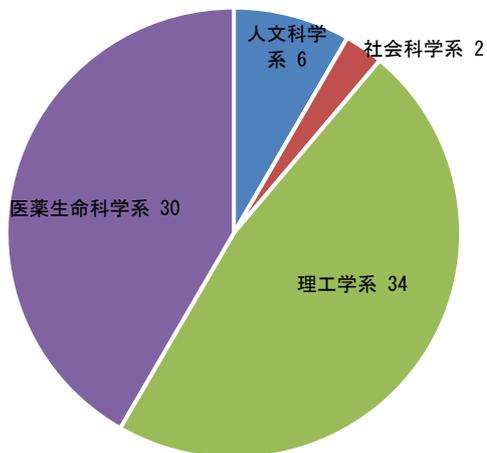
（単位：人）

※参考：出展者の属性



（単位：人）

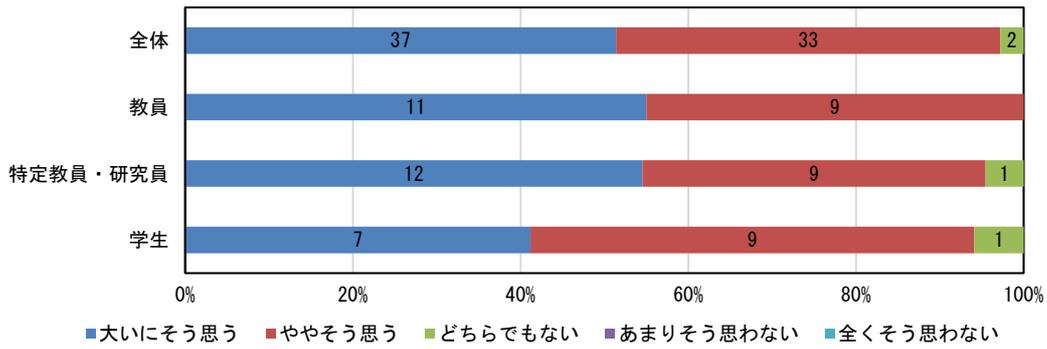
・ 専門分野による回答者属性



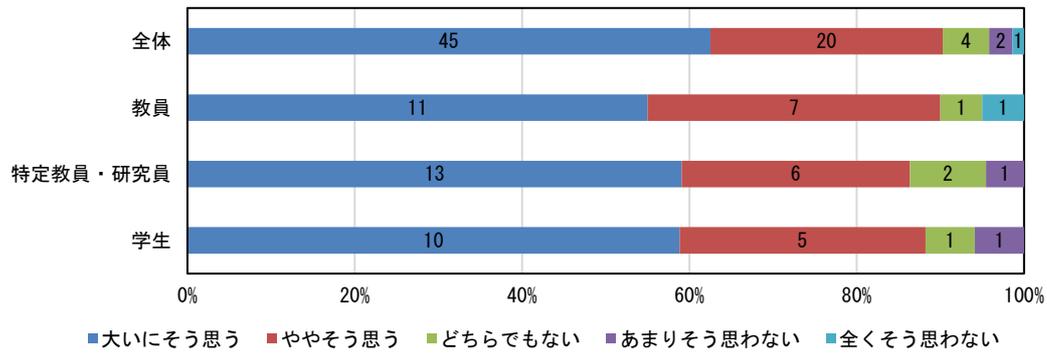
（単位：人）

● 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

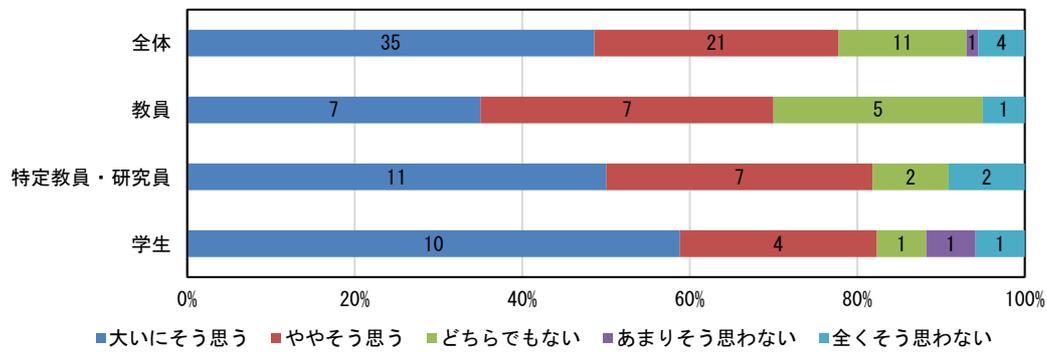
(a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度を把握することができた



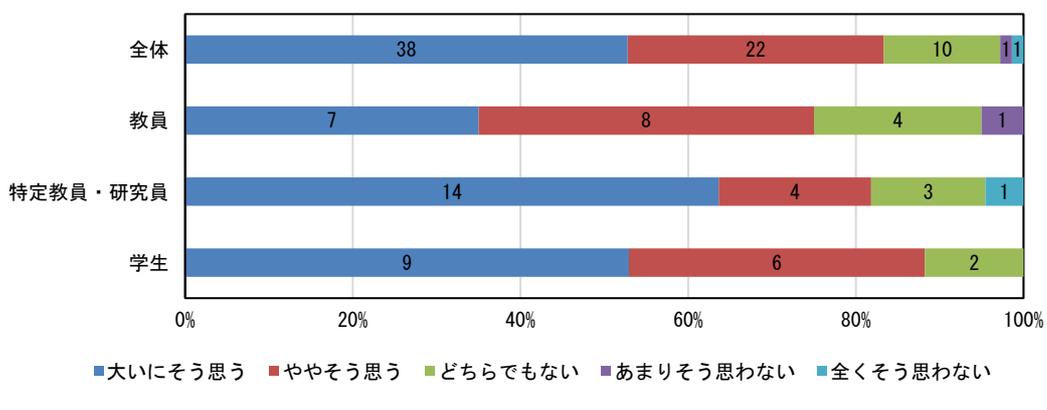
(b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった



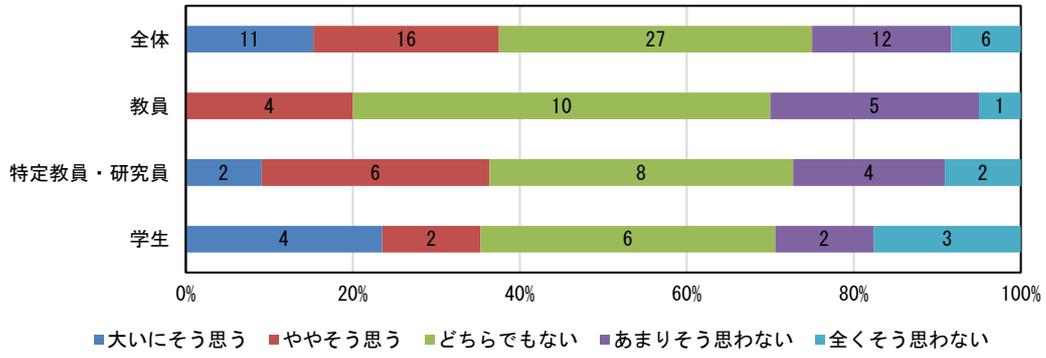
(c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった



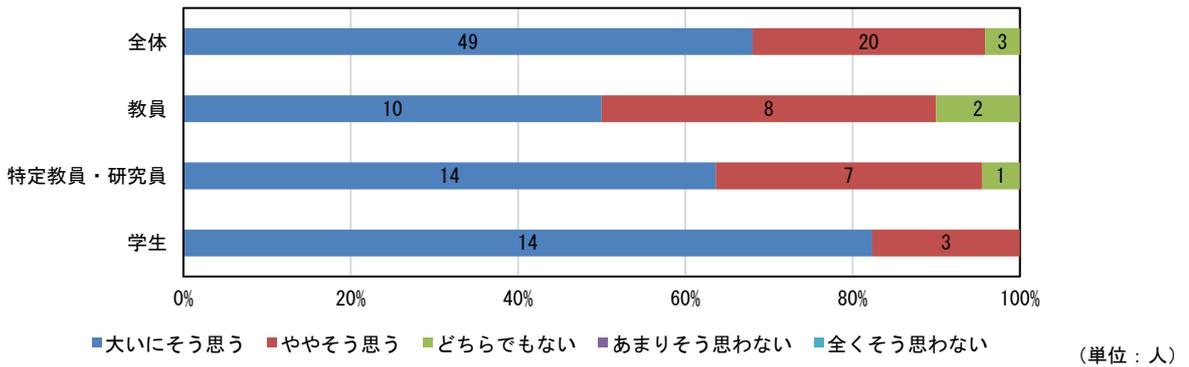
(d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた



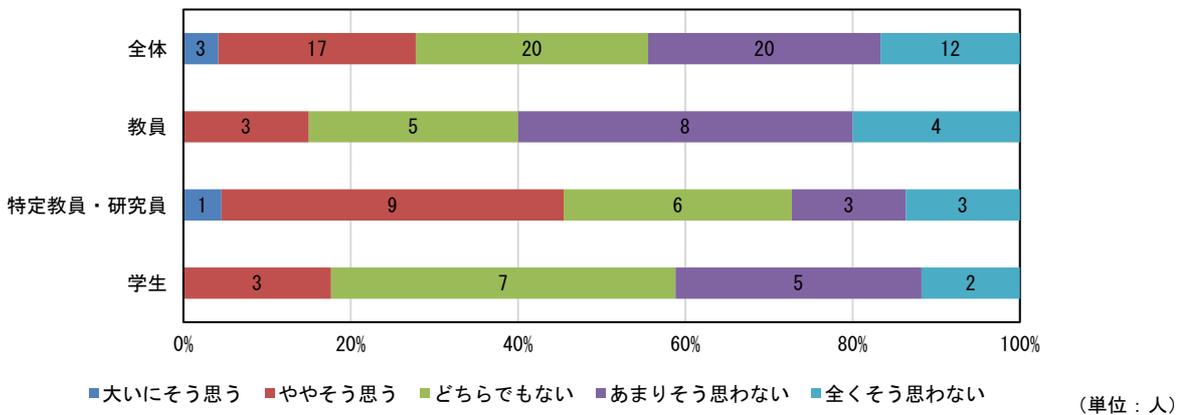
(e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた



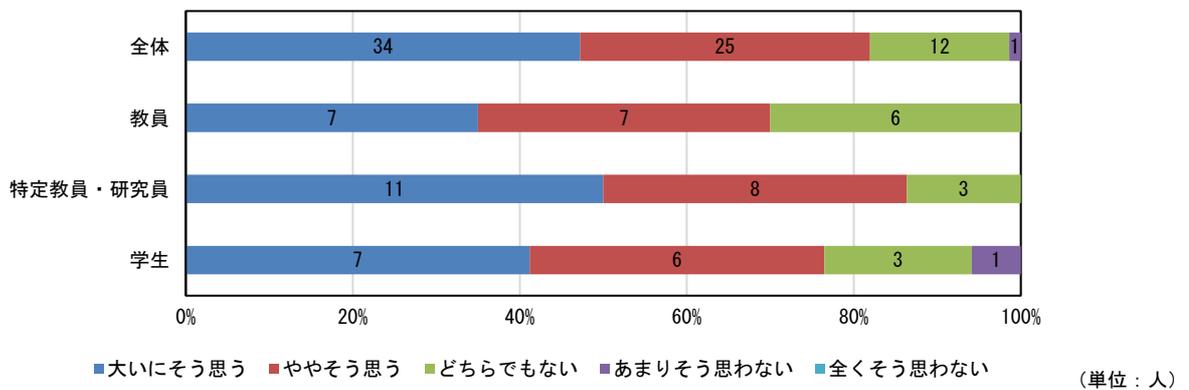
(f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった



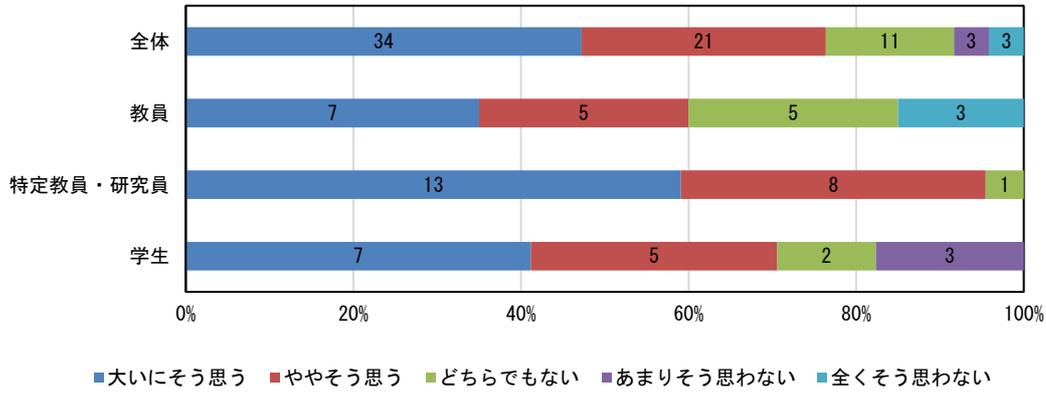
(g) 参加は日々の研究活動の負担となった



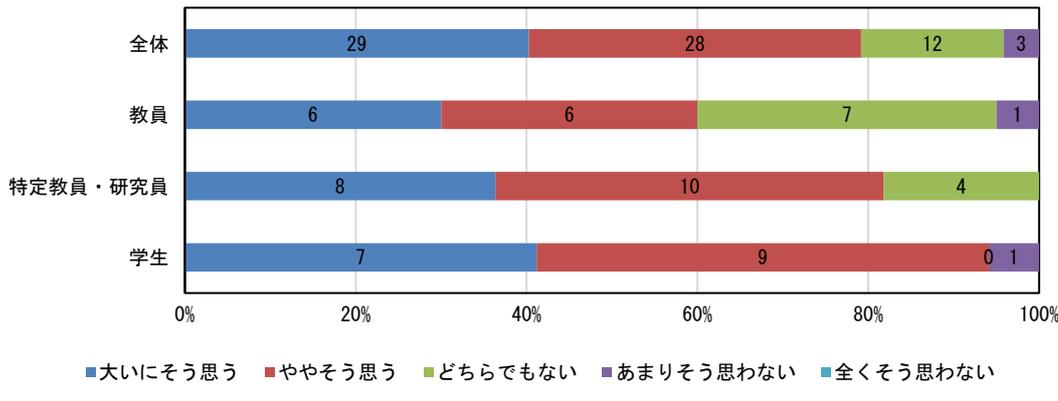
(h) 機会があったらまた参加したい



(i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい

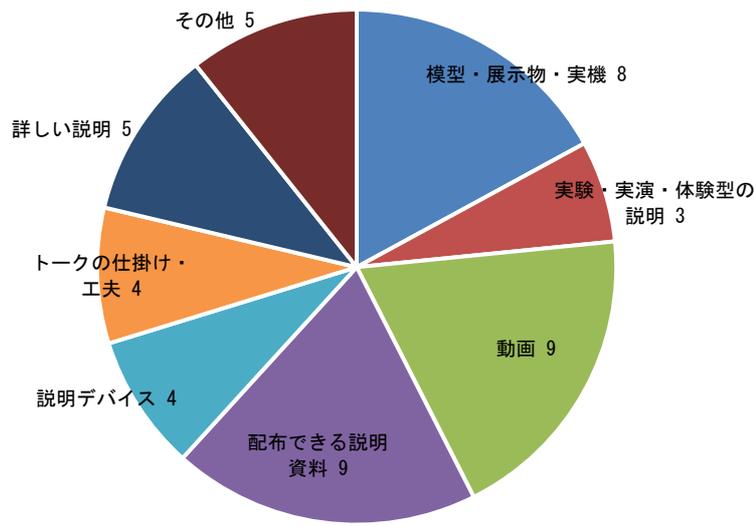


(j) 他の研究者との交流の機会になった



※図中「全体」には、出展者属性「その他」も含む。

- 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った (or 必要だと感じた) 工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。



〈模型・展示物・実機 (8件)〉

- 結晶模型など来場者に説明する際に見せられるもの。(理工学系)
- 環境中の微生物を培養したプレートおよび、抗生物質を含む培地でそれらを培養したプレートは役にたったと感じた。目に見えない細菌をテーマに扱っていたが、来場者は視覚的に「細菌」および「抗生物質の効果」を捉えられるために関心を持っていただくことができた。(医薬生命科学系)

- 研究に用いた現物の提示。(理工学系)
- PC 上だけでなく、触れるモデルがあると便利かと思った。(理工学系)
- 実際に使われている製品をたくさん用意して臨んだが、来場者に説明する上で非常に役に立った。(理工学系)
- ポスター以外のコンテンツ(模型、ビデオなど)の準備。(理工学系)
- 動画、模型など、見に来て下さった方にポスター以外の形で見ていただけるもの。(医薬生命科学系)
- 自分の生活に関わることで、目で見てすぐわかるものがあったのはよいと思った。(医薬生命科学系)

〈実験・実演・体験型の説明(3件)〉

- VR など体験型のものは人気があった。(理工学系)
- 体験型や、実物で目立つものは人気があるのだとここ2、3年で感じた。(そういう展示をしているグループがアカデミックデイ賞をとっている)これからは体験型のコンテンツを増やしたい。(医薬生命科学系)
- デモで使用した電極やアメを持ち帰ってもらったのが、参加者に喜んでもらえたと思います。(医薬生命科学系)

〈動画(9件)〉

- iPad に実際の動画を準備していたこと。(理工学系)
- iPad に動画データを入れておいたのは非常に役に立ったと思います。(医薬生命科学系)
- タブレットで動画を見せたほうがすぐ理解してくれることが多かった。(理工学系)
- やはり動画は来場者の反応がよい。(理工学系)
- 過去に日本科学未来館での展示で作成したアニメ動画コンテンツが役に立った。(理工学系)
- 研究結果や研究方法を記録したビデオ。(医薬生命科学系)
- 他のポスターを見ている時に動画を使った説明があると理解しやすかったので、自分たちも活用すればよかった。(理工学系)
- 動画でのデータは来場者にもわかりやすく、よかったと思いました。(医薬生命科学系)
- 内容に関する動画。(理工学系)

〈配布できる説明資料(9件)〉

- ポスターのハンドアウト(A4 ないし A3 程度)。(人文科学系)
- ポスターを A0 用紙に印刷したミニポスター。(医薬生命科学系)
- 配布可能な資料を準備すること。(社会科学系)
- 文科省の一家に一枚シリーズ(<https://stw.mext.go.jp/series.html>)の関連分野ものを配布しました。話のきっかけづくりに役立ちますし、来場者の方にも好評そうでした。(理工学系)
- 対話のきっかけとするための手渡し資料。(人文科学系)
- 研究分野に関する基本的内容の説明資料。(医薬生命科学系)
- 研究内容を紹介している冊子、年次報告書、ポスターの A4 印刷版。(医薬生命科学系)
- タブレットのみでは一度に話せる人数に限られるので、同じ資料を印刷して置いたのが役に立ちました。(医薬生命科学系)
- 研究の概要を示したニュースレターやパンフレットなどを欲しがることがあった。(理工学系)

〈説明デバイス(4件)〉

- iPad を持ってきておいたことで、現象の説明がしやすかった。(理工学系)
- iPad 等のタブレット端末を用いた解説。(理工学系)
- タブレットにスライドなどを準備していたが、練習不足でうまく活用できなかった。うまくやれば機能するはずだと感じている。(理工学系)
- タブレット端末。(理工学系)

〈トークの仕掛け・工夫(4件)〉

- 設問。(人文科学系)

- 一言で研究内容を表現できるキャッチコピー的なもの。(理工学系)
- 質問文と選択肢。(社会科学系)
- 日常生活への実用化がわかりやすい分野と違って、基礎研究の場合は来場者にとって印象が弱くなりやすいかもしれない。研究内容をわかりやすく話しているつもりでも、結局は学会で話す内容を簡単にしようとしているだけだったのではないか(個人的な反省)。クイズや蛍光染色した細胞の試料を用意したのは、良かったと思う。(医薬生命科学系)

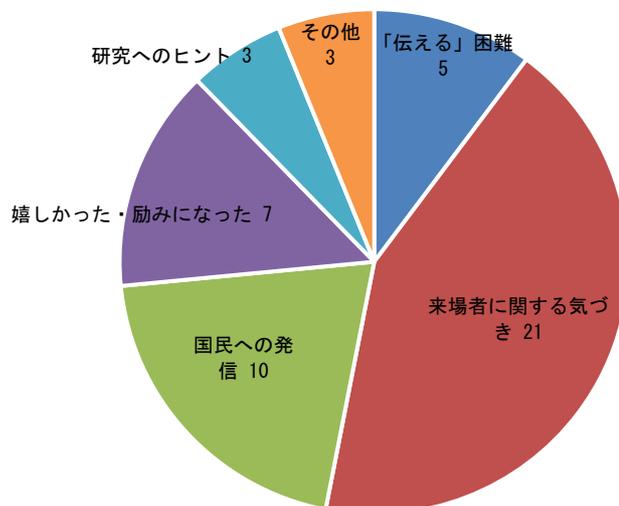
〈詳しい説明 (5 件)〉

- ポスターに研究の背景について詳しく書いておいたこと。(医薬生命科学系)
- 関心の強い来場者向けに少し突っ込んだ内容についても紹介できるよう、ポスターを工夫した。(医薬生命科学系)
- ほとんど知識のない参加者用とある程度知識のある参加者用の2種類を用意したが、後者は今年はほとんど不要であった。なお、昨年は、後者も必要と感じた。(理工学系)
- 研究の背景や、一般常識の範囲で説明できる図などが必要だった。(理工学系)
- 厳密な証明を書いたポスター、表。(理工学系)

〈その他の工夫、コンテンツ (5 件)〉

- ポスター。(医薬生命科学系)
- ポスター。(理工学系)
- 関連書籍を置いておいたところ、自分が来場者に説明しているときでも、書籍に目を通してもらうことで退屈させずに済んだので良かった。(人文科学系)
- 出版書籍。(医薬生命科学系)
- 一般的な科学知識。(医薬生命科学系)

● 来場者との対話でどのようなことが特に印象に残りましたか？



(単位：件)

〈「伝える」ことに関して、困難を感じたこと (5 件)〉

- 小中学生に興味を持ってもらうのが難しいと思った。(理工学系)
- 説明の難しさ。(理工学系)
- 相手は百人百様。知りたいことを掘ってプレゼンするのは難しい。(医薬生命科学系)
- 幅広い年齢層、知識レベルの人がいて全員が分かってくれるようにそれぞれ話し方を変えるのが難しい。(理工学系)
- 物理を知らない人に数式を使わないで説明することの難しさ。(理工学系)

〈来場者に関して、新鮮だったこと・気づいたこと（21件）〉

- 一般の方でも Web 検索等でけっこう事前に情報を仕入れていたこと。(理工学系)
- 我々の研究内容を理解してくださった親御さんがお子さんに内容を噛み砕いて説明している様子が印象的でした。なるべくわかりやすい説明を心がけていましたが、親子間のやり取りはとても思いやりにあふれ、自分が説明する際の参考にもなりました。(医薬生命科学系)
- 各人の興味が非常に異なるということ。予想外の話題について尋ねられることが多かった。(医薬生命科学系)
- 起業を考えている高校生が自らの進路をよく考えていたこと。(社会科学系)
- 興味のある発表を次々に聞きに行く態度。(理工学系)
- 研究テーマの周辺課題についての関心・疑問などについても質問が多いこと。(理工学系)
- 工学部の1回生から、「この研究をするには、どこの研究室に進めばよいのですか？」と聞かれたことが、印象に残っている。高校生の段階で、参加してもらえるとよいと感じた。(理工学系)
- 高校の先生にきていただいて、医学領域で統計学が役立っていることをしってもらったこと。(医薬生命科学系)
- 小学生未満のお子さんが、パーキンソン病について質問されたことが印象的でした。(医薬生命科学系)
- 真剣に興味を持って頂いている点。(医薬生命科学系)
- 親戚の方の就職先を探されている方も来ていた。いろいろな相談をうけました。(理工学系)
- 専門外でも興味を持ってくれる方が居たこと。(理工学系)
- 多くの人が関心と知識をある程度持ってくれているという点。(理工学系)
- 対話そのものを楽しもうとされる方が一定数いること。(人文科学系)
- 脳における意識が先か、体の中の何かの反応が先か、と哲学的な質問を受けた。脳科学オリンピックを目指している高校生が一生懸命説明を聞いてくれた。小さい子が蛍光染色した細胞を見に何度もきてくれた。(医薬生命科学系)
- 否定的な先入観の強い異分野の研究者もいること。(理工学系)
- 毎年聞きにきてくださる方がいらっしやること。(社会科学系)
- 来館者から見たら、天文は難しい。(理工学系)
- 来場者からたくさん質問してくれた。(人文科学系)
- 話を聞きたいだけでなく自分の話をしたい人も結構いるんだなあ、という点が、今回は強く印象に残りました。テーマに関心を持っていただいていることが伝わってきました。(人文科学系)
- 素人の視点。(理工学系)

〈国民への発信などに関して、気づいたこと（10件）〉

- 研究する側が考えていることとのギャップに気づくことができたこと。(医薬生命科学系)
- ちゃぶ台は聴講して下さった皆様との距離がとても近く、質問が出やすい雰囲気だった。(医薬生命科学系)
- 研究成果よりも研究背景のほうが一般の人に対する説明としては重要であると思った。(理工学系)
- 研究内容よりも説明に必要であった基礎知識のほうが受けていた気がする。(医薬生命科学系)
- 研究内容を少し否定されたこと。(理工学系)
- 実際に本人や身近な方に障害を患っている方から真剣にご質問いただき、改めて研究の重要性を感じました。(医薬生命科学系)
- 日常と関連した例え話をするとうまくわかっていただけた。(理工学系)
- 自分は常識だと思っていたことを一般の方は意外と知らないということが分かった。また、逆に、学ぶ意識が強い方も多いことが分かった。(医薬生命科学系)
- 「役に立つかどうか」という観点をそれほど気にされていない方も少なからずおられる。(理工学系)
- 何がわからないのかがわかっていない様子。(理工学系)

〈嬉しかった・励みになった、と感じたこと（7件）〉

- 自分の研究内容に非常に興味を持ってきて、質問もどんどんしてくれた方が何人かいらっしやいました。最後は哲学の話になった方もいて、知的な刺激となりました。(医薬生命科学系)
- 質問や説明についての確認をたくさんしてもらったこと。(理工学系)
- 数学に関係のある方もそうでない方も最後には感心、感動してくれたこと。(理工学系)
- 来場者にもっと知りたいと言ってもらったところ。(人文科学系)

- 科学や研究を知らない人が多いので、興味を持ってもらえてよかった。(医薬生命科学系)
- 研究の成果が実社会とどのように関わっているかをわかっていただけた時に感動してもらえた。(理工学系)
- 素朴な疑問を聞いたことが新鮮でした。(医薬生命科学系)

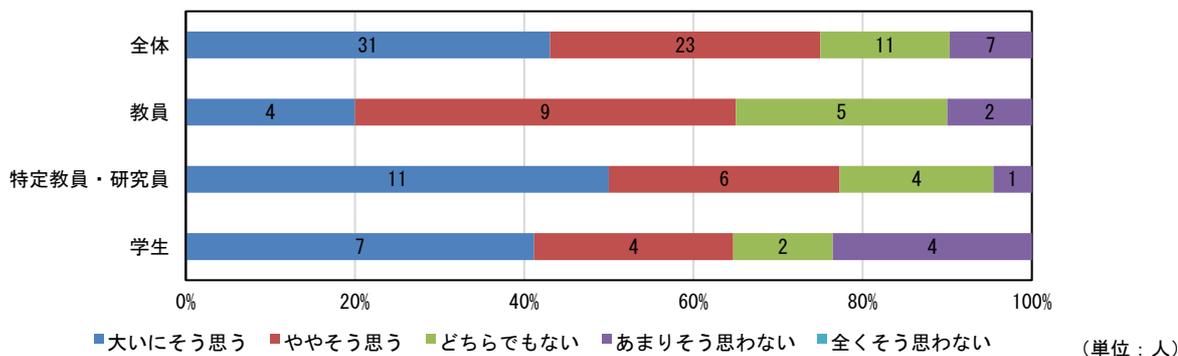
〈研究に関して、ヒント・気づきを得たこと (3件)〉

- 考える示唆や視座をいただけたこと。(医薬生命科学系)
- 天文学者の方との対話で、我々が顕微鏡で直面するような問題と似たことが望遠鏡でもより大きなスケールで起こる、という話を聞いたこと。(医薬生命科学系)
- 同じ研究を昔行っていた方から話を伺うことができた。(理工学系)

〈その他の気づき、印象に残ったこと (3件)〉

- オープンキャンパスに比べ上下に広い年齢層ではある一方、予備知識をある程度持っている方が多かったのが印象的でした。(医薬生命科学系)
- 年齢層が非常に幅広いことが毎回印象に残っている。(理工学系)
- 来場者の方の年齢層、専門性が多様だということ。(理工学系)

- 学内限定タイム (16:00-17:00) について、アカデミックデイ終了直後に同会場で、参加研究者同士が交流するための時間はあったほうが良いと思いますか？



※図中「全体」には、出展者属性「その他」も含む。

〈「大いにそう思う」理由〉

- 16時までは他の発表を見に行く時間がなかなかとれないため。(社会科学系)
- いろいろなことに質問をしていただいたこと。(理工学系)
- ざっくばらんな会話で討論できたから。(理工学系)
- ジャンルが異なっても、研究について話し合うことができた。(理工学系)
- その時間になってようやく聞きに来れた、という研究者がいた。貴重な時間だと思う。(理工学系)
- ほかのグループの出展を見る機会ができたため。(医薬生命科学系)
- ポスターに多くの方が来て下さったので、他を見て回る時間がほしい。(医薬生命科学系)
- 異分野の内容も聞きたいから。(医薬生命科学系)
- 違った物の考え方があり、勉強になる。(医薬生命科学系)
- 一人で参加していたため、この時間がないと他の方の発表を見る時間がなかったためです。(医薬生命科学系)
- 一人で参加の出展者もおられたので、時間があったほうが良いかなと思った。また、人が少ないのでじっくり話を聞くことも可能。しかし私自身はグループで参加したので通常の時間に話を聞きに行くことができ、説明する側としては一旦区切りが16時につくので、もしかしたらモチベーションが下がる場合もあるかもしれない。(医薬生命科学系)
- 一人で発表されている方はその時間に見に行けるから。(理工学系)
- 一般の時間だけでは自分の発表もあり、回りきれないため。(医薬生命科学系)

- 一般参加者とはやはり関心の持ち方が異なる。研究者という職にあるもの同士の情報交換や交流が、日常の専門内では持ち得ない。(人文科学系)
- 一般来場者がいる間は他のポスターを見る暇がないため。(理工学系)
- 研究者間の交流も有意義であったため。(医薬生命科学系)
- 研究者同士の交流以外にも、連休中の開催だったこともあり、出展者やスタッフの方の労いの意味も込めてありがたい時間のように思う。(理工学系)
- 今回実際見に行けてなかった方の発表をこの時間に聞きに行けたから。(理工学系)
- 総合大学にいても多分野の発表を聞く機会は少ないので、貴重な機会です。(医薬生命科学系)
- 大学関係者や研究者の方からアドバイスなどをもらえてよかった。(理工学系)
- 展示中は一般の方々が優先という意識があったり、他の研究に興味があっても自分たちの展示が気になったりして、なかなか他の展示を周りきれないため、学内限定タイムは効果的であると思いました。普段交流する機会の少ない分野の研究など興味深い展示がたくさんあり、じっくり話を伺う時間が設けられていたことはとてもうれしく思いました。(医薬生命科学系)
- 隣の出展者の方などと交流する良い機会になる。(理工学系)

〈「ややそう思う」理由〉

- イベント時間内ではなかなかお互いに話をする時間が取れないため。(医薬生命科学系)
- ポスター発表中は他の研究者と話す時間が取れない人もいるため。(医薬生命科学系)
- 一般の方もいる時間は持ち場を離れにくいから。(医薬生命科学系)
- 時間的に、拘束が長くなる。展示の時間内に、相互交流も可能ではないか、と思う。(理工学系)
- 他の方々の展示の工夫などを知る機会となる。(理工学系)
- 他分野の研究者の方と話すことで、学内で行われている多彩な研究について知ることができたので。(人文科学系)
- 同じブースの出展者と話して終わってしまったが、本当は他の出展者と交流したかった。(理工学系)
- 必要性は感じるが、実際に交流している方は少なかったように感じます。時間を折角設けられるのでしたら、奇数番と偶数番で演者と聞き手を交代させるなどの工夫が必要のように感じました。(医薬生命科学系)
- 普段なかなか会う時間のない学内の知人と近況をやりとりすることができた。(理工学系)
- 普段の研究生活では、あまり他の研究室と交流する機会がないため。(医薬生命科学系)
- 複数で出展している場合は16時まででもある程度入手可能。(理工学系)
- 面白そうな展示を見る時間ができたから。(理工学系)

〈「どちらでもない」理由〉

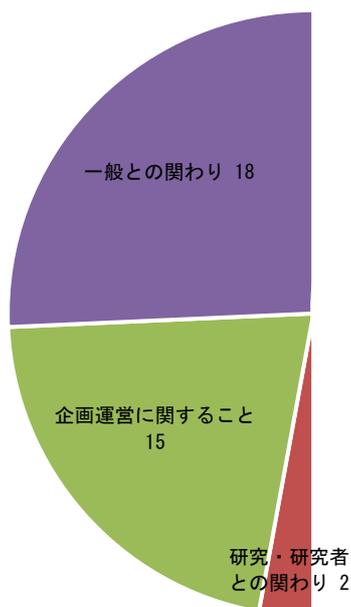
- 10-16間にディスカッションできるため。各パネル30秒程度スピーチすれば意義はある。(医薬生命科学系)
- 今回は参加できなかったので分かりません。(医薬生命科学系)
- 自分の説明場所を離れて放置しにくい。(理工学系)
- 喋り疲れていたから。(人文科学系)
- 複数人で参加していることもあるので、話を聞きたいときには空いている時間に聞きにいったため。また、終了後に改めて話を聞きに来る研究者がいなかったため。(医薬生命科学系)
- 有意義だが、1時間だと短い(長くしてほしい、という主張ではない)。(理工学系)

〈「あまりそう思わない」理由〉

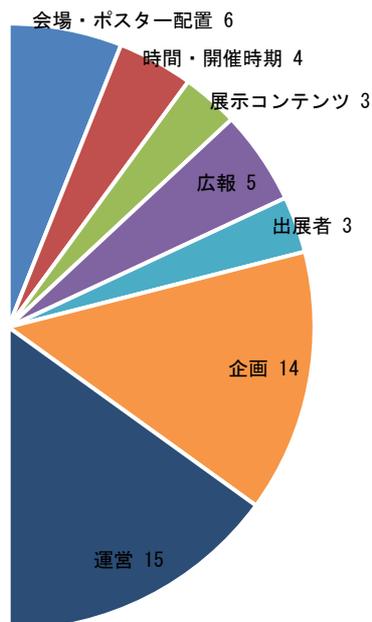
- これはわれわれが大人数で参加しているから思うのでしょうか、全員が前で説明するスペースがないので休憩時間を取っています。その間に見て回る時間が十分にあるので、わざわざに学内限定の時間を取る必要性をあまり感じません。ただ、学内限定タイムに質問に来てくれる研究者の方がいたので、その点では意味はあるかと感じました。(理工学系)
- 交代制でやっていたため、その前の時間で話を聞いたりしていた。(理工学系)
- 参加研究者同士での交流が活発だったとはいえないから。(理工学系)
- 自分の場合は学内限定じゃない時間帯にもう見て回ってしまった。(理工学系)
- 早々に終了していたから。(理工学系)
- 通常の時間帯の中でも、結構交流可能。(理工学系)

● 今後の「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってのご意見

〈良かった点〉



〈改善点、今後に向けた提案〉



(単位：件)

〈①良かった点〉

一般の方との関わり・全体の雰囲気 (18件)

- たくさんの来場者。(医薬生命科学系)
- 研究をアウトリーチしている実感があり、とてもよかった。(医薬生命科学系)
- 参加者が熱心なので、それに応えることは研究者として必要ではないかを感じる。(理工学系)
- 子どもたちやご年配の方など、多くの一般の方々と研究を通じてコミュニケーションが取れる点。(理工学系)
- 初めて参加したが、子供連れや熟年の夫婦のように幅広い年代が次々と来場することに驚いた。うまく宣伝できているのだと思う。(医薬生命科学系)
- 専門外の方の自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができ、自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった。(医薬生命科学系)
- 専門外の方に説明する機会が得られたこと。(理工学系)
- 熱心な来場者・出展者と多く出会えること。(社会科学系)
- 非研究者と交流できる機会は必ずしも多くなく、非常に良い機会でした。(医薬生命科学系)
- 幅広い参加者がいた。(理工学系)
- 予想以上に多くの方とお話しできて良かった。(医薬生命科学系)
- 予想以上に来場者が多く、活発だったこと (今回、初参加ですので、去年以前は存じません)。(医薬生命科学系)
- 様々な方と交流できたこと。(理工学系)
- 来館者が多かった。(理工学系)
- 来場者が多くて活気があった。(理工学系)
- 来場者の研究に対する興味や関心が非常に高かったこと。(理工学系)
- 来場者一人一人に対して、プレゼンすることは、相手にも理解していただく、大勢を聴取者にしたものではない良さがすごく感じれました。(医薬生命科学系)
- (おそらく高大連携プロジェクトなどで連携している学校と思いますが、) 高校生が参加しているのが良かった。次世代に期待が持てます。(人文科学系)

企画運営に関すること (15件)

- お世話いただいた URA さんはじめスタッフのみなさんはたいへんありがたかった。(医薬生命科学系)

- このような機会を継続して企画いただきとても助かっています。既に数回参加しているため「秋の恒例行事」として計画が立てられるため準備もしやすいです。場と環境をセッティングしていただけているので本当に感謝しております。ぜひ継続していただけることを希望します。(医薬生命科学系)
- スタッフのかたが皆さんサポーターで助かりました。フリードリンクが助かりました。(医薬生命科学系)
- スタッフの方が全体を見てタイムキーパー的に動いてくださったのが助かりました。(医薬生命科学系)
- 案内や飲料サービスの充実。(人文科学系)
- 一般の方も参加しやすいことや、ドリンクコーナーがあったこと。(理工学系)
- 飲み物の無料サービス。(理工学系)
- 会場設営、説明会など、バックアップがしっかりしていたので発表に専念できたと思います。(医薬生命科学系)
- 会場設営とかデザインに凝った。(人文科学系)
- 今年は中学、高校生も増えてきたので、今後も事前に広報してほしい。(理工学系)
- 出展者用に飲み物の提供があったこと。ブースに画鋸が用意してあったり、展示準備がしやすかったこと。想像していたよりも来場者が多かったこと。運営側のスタッフの人数が多く、すぐに相談できたこと。(理工学系)
- 前回までと異なり、大勢の人々と話すためのスペースが広がったので、多くの人々に研究を説明することができた。(人文科学系)
- 日曜だからか、今回は出展がやや少ないように思いました。そのおかげで展示スペースが広く使えました。来場者も多かったと思います。(医薬生命科学系)
- 話すと喉が渇くので、ドリンクを提供してくれていてよかった。(医薬生命科学系)

研究・研究者とのかかわり (2件)

- 学会と異なり内容を噛み砕いた発表が多く、発表を見て回るのが楽しかったです。事前に説明会も実施してくださっており、運営の意図がはっきりしており、そのお陰かなと思います。ありがとうございました。(理工学系)
- 他の方の研究についてよく知ることができた。(理工学系)

〈②改善点、今後に向けた提案〉

会場・ポスター配置について (6件)

- スペースの良し悪しには差があり、動線には改善の余地がありそうに思った。(理工学系)
- できれば椅子をもっと置ける余裕があればよい。(理工学系)
- ブースの間隔がもっと広いとうれしい。照明を明るく。(人文科学系)
- ブースの配置を工夫してほしい。人が聞きやすいポスターの位置とそうでない位置がある。(医薬生命科学系)
- ポスターのスペースを均等にするのではなく、メリハリをつける。(理工学系)
- 会場が暑かった。(医薬生命科学系)

時間・開催時期について (4件)

- ポスター発表の研究者が半日立ちっぱなし・喋りっぱなしである点。非常に疲れました。(医薬生命科学系)
- 多くの方が来て下さる日に、開催日を設定するべきだと思いました。今回は日曜日で良かったのではと思います。(医薬生命科学系)
- もう少し時間を短くした方が発表者の負担が減ると思った。(医薬生命科学系)
- 時間をもうちょっと絞ってもよさそう。(理工学系)

展示コンテンツについて (3件)

- ロボットアームの出展が大賞をとりましたが、同様の体験型のコンテンツを持っている研究室を増やせば、より魅力的な会になるかもしれません。(医薬生命科学系)
- 一般ウケする研究がいいとは限らないのが悩ましいところ。イベントと思えば、あれでいいのかもしれないが、本気で賞をねらっていたチームはかわいそうだった。(人文科学系)
- 子供の来場者も多いので体験型のブースがあるとよいと思う。(理工学系)

広報について (5件)

- もっと、中高生が増えて欲しい。(理工学系)
- アカデミックデイという行事が一般の方にあまり知られていないこと。(理工学系)
- アカデミックデイについて外部にもっと宣伝する。(理工学系)
- 学内でも「京都大学アカデミックデイ」について知らない人も多いため、もっと多くの研究者が参加するため学内に報せる事が必要だと思います。(医薬生命科学系)
- 予算次第だが、例えば市内や近隣の小中学校にポスターやチラシを配布してもいいかと思う(もうやられているのでしょうか?)(理工学系)

出展者について (3件)

- 研究者側発表スタッフの教育。大勢のスタッフで私語、他のポスターの前で配布物を配るなどは非常に不愉快でした。(医薬生命科学系)
- 参加する分野、専攻の偏りが多かったと感じるので、例えば他のキャンパスからも集めるなどしたほうがいいと思う。(理工学系)
- 出展者が理系に偏っていると思うので、文系も含め、もっと多様な分野の研究者が揃うとよいと感じました。(理工学系)

企画について (14件)

- 高校生の展示について時間があれば見に行こうと思っていたのですが、一つしか気づきませんでした。もう少し高校生による展示枠として目立たせてもいいのではないかなと感じました。(医薬生命科学系)
- 今回は一人で参加したので、お昼の休憩を取るのが難しかった。たとえば、会場の半分は12時~13時、もう半分は12時30分~13時30分までを休憩時間として設定することで、個人でも参加しやすくなるし、展示も効率的にできるのではないかと思った。(人文科学系)
- 高校生の参加の場合には、どういった経緯で参加しているか、またその発表テーマが京大とのつながりのどの部分の反映なのかを、わかりやすくポスターに示して欲しい。(人文科学系)
- ~5歳までのお子さん連れの方が多く来てくださった。幼稚園・保育園の子には、流石に、ポスターの前でわかりやすく説明するという事はできなかったが、親御さんだけに重点を置くことも心苦しかった。お子さんにも楽しんでもらえたらと思うので、会場として、何らかの未就学児向けのコンテンツを十分に用意しても良いのかと思います。(医薬生命科学系)
- もっと来場者だけでなく発表者同士の会話をしたかった。(理工学系)
- やはり、ひとりひとりに話すというのは非効率と考える人も多いように思います。(理工学系)
- 学内限定タイムがもう少し長いとさらに交流が深まったと思います。(医薬生命科学系)
- 今回は、参加者が減少しているようであった。高校生にとって、進路決定に、参考になると思うので、京都、大阪、滋賀、奈良などの近隣の高校へのPRを積極的に行う必要があると思います。各学部、学科とも専門を正しく知って、進学してほしいはずで、その方向性を加味する必要がある。そうすれば、各学部、学科からの参加も増えるだろうと期待される。(理工学系)
- 参加研究者同士の交流時間はもっと増やしてほしいのと、グループ分けをするなどして、交代で他のポスターを積極的に見れる時間がほしい。表彰された研究はきちんと宣伝してほしい。(医薬生命科学系)
- 参加者にこういう話を聞ける場所がもっとあったら嬉しいと言われた。例えば、得票数が多かった研究室から選抜して市民講演を行うなどあると良いかなと思う。(理工学系)
- 参加者交流タイムが終了間際なのでほとんど実態を伴っていない。内部で1分間説明コアタイムのようなものを設けて全員に聞いていただくような試みがあっても良いのでは(希望者のみでも)。(人文科学系)
- 始まる前に、発表者全員に向けて研究の紹介があってもよかったかと思います。(医薬生命科学系)
- 発表後の時間を長くしたり、食事会をしたりする。(理工学系)
- 表彰について、高校生枠を設けるべきである。高校の文化祭シーズンと重ならないように開催時期を考慮する必要もある(8月終盤などは狙い目かも?)(医薬生命科学系)

運営について (15件)

- 事前の説明メールが日本語のみで、英語を主に使う研究者に対する配慮がなかった点。(医薬生命科学系)

- 9月であっても、お昼の時間帯だけ食堂（ルネ）を営業できたら良いと思う。（医薬生命科学系）
- ポスターボードが固くて画びょうが刺さらなくて困った。指先が痛くなって直るまで1週間ほどかかった。（理工学系）
- 会場内のアナウンスがやや聞き取りづらい。（理工学系）
- 開催に先立ってポスターやチラシを毎回いただいているが、正直どこに配っていいかわからず、毎回余ってしまいもったいないように思う。（理工学系）
- 開催時期が早めに分かると助かります。できれば毎年同じ時期に開催ができると予定を確保しやすいです。（医薬生命科学系）
- 学内限定タイム（16:00-17:00）と聞いていましたが、実際には16:30-は片付けタイムでした。（医薬生命科学系）
- 蛍の光を流すのは公開時間が終わってからでよいと思った。（医薬生命科学系）
- 研究者、スタッフ、来場者の視認が非常に困難。会場スタッフが減少した、16時～17時に研究者交流の時間に（政治的・反科学的思想を主張される）来場者が混ざっていたのは困惑しました。（医薬生命科学系）
- 食事どころが不足がちに思えました。（医薬生命科学系）
- 食堂が営業していない日の開催。（医薬生命科学系）
- 朝から夕方までと長く、休憩もないため食事に行くのが難しい。軽食などがあればよかった。（医薬生命科学系）
- 電源が事前申請を要すると気づいていないグループがあったが、現地で申請できるようになったらいいかもしれない。（理工学系）
- 特になが、担当係が、質問に対して説明している時に、「余り長く説明しないで、20分程度で終わってください」、終了時は、参加者から質問を受けていても「12時半までに終わってください」と再三いわれた。多くの人に聞いてもらうためなのか、たくさんのブースを訪問してもらうためなのか、分からないが、少々うさく感じた。（理工学系）
- 名札を事前に印刷してこれるように、フォーマットを渡しておいてもらえるとうれしいですね。1分の動画を事前に撮影して、それをループで流すような工夫があってもよいかと思います。（理工学系）

〈③このような来場者ともっと話したい〉

小中高、大学生、若者（21件）

- 日頃なかなか触れる機会のない中学生、高校生。（医薬生命科学系）
- 京大受験を考えている高校生や京大の1回生。（理工学系）
- 研究室や専門分野を選ぼうとしている大学生。（理工学系）
- 高校生。（医薬生命科学系）
- 高校生、大学1、2回生。（理工学系）
- 高校生、大学生が少なかった印象なので、もっと若い人が来やすくなると良いと思う。（理工学系）
- 高校生、大学生は今回も何人か来てくれましたが、次の世代へのバトンタッチの意味でもっと科学に興味を持って欲しいと思いました。（医薬生命科学系）
- 高校生・大学生。（医薬生命科学系）
- 高校生・大学生など進路を考えている年齢層。（理工学系）
- 高校生が積極的に参加できるように呼びかけるべきでしょうが、人数的にはこれ以上増えると難しくなりそうです。（理工学系）
- 高校生や他大学の学部生がもっと来場してくれると良いですね。（人文科学系）
- 高校生以下。（医薬生命科学系）
- 小・中・高校生。（理工学系）
- 進路が決まる前の中学生や小学生など。進学先をじっくり考えられるうちに来るのがよいと思う。（医薬生命科学系）
- 大学生に研究の内容をしてもらいたい。（医薬生命科学系）
- 中学生くらいの生徒。（人文科学系）
- 中～高生。（理工学系）
- 毎回子どもたちの参加者は多いが、もっと増えてもいいと思う。（理工学系）
- 未来のために、ちびっことお話ししたいです。（理工学系）

- 来場者は、ある程度、専門知識を持った、もしくは興味を持たれた特殊な層でした。もうすこし、専門知識のない一般性の高い（小中学生など）方にお話しできれば良いのではと感じました。（医薬生命科学系）
- 子供さん（小学生未満）にも興味を持っていただければと思いました。（医薬生命科学系）

社会人（8件）

- 企業の人。（理工学系）
- 行政機関や学校の広報や教育関係者。（人文科学系）
- 高校や中学の理数系科目の先生。学生に研究の楽しさなどを伝えて欲しい。（理工学系）
- 会社員の方。（医薬生命科学系）

研究分野関連（3件）

- 数学分野の専門の方。（理工学系）
- 他の研究分野の方の意見を聞いて見たいと思いました。（医薬生命科学系）
- 他の大学の方などともっと話してみたい。（理工学系）

その他（1件）

- 初来場者。（理工学系）

- 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URAによる支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

「国民との科学・技術対話」への取り組み（6件）

- アウトリーチ活動のための、複数大学で連携した広報webページがあったら面白い。京大のトップページから飛べたら、参加する方にも便利だろうと思いました。（医薬生命科学系）
- このイベントは素晴らしいと思います。さすが、京大、と思いました。関係者の方、ありがとうございます。なお、このアンケートは、英語可であるべきと思います。（医薬生命科学系）
- また機会があれば参加したいと思う。（理工学系）
- 情勢から言って国民以外にも行政と対話する必要がある。（理工学系）
- 色々難しいかもしれませんが、テレビなどで取り上げてもらえると宣伝効果もあるし出展するモチベーションにもなります。（理工学系）
- 非常に貴重な経験でした。楽しく発表させていただき、ありがとうございます。（医薬生命科学系）

URAによる支援（4件）

- URAによる支援は助かりますが、なかなか支援を受けると決断するまでの情報が不足しているような気がします。支援を受けて成功した例について報告するという取り組みをされてないのであれば、やっていただいたらよいのではないかと思います。（理工学系）
- よく頑張っていたいただいて感謝に堪えません。（人文科学系）
- 科研費関連の仕事も重なる忙しい時期にこのような準備の大変なイベントを企画・運営してくださることに本当に感謝いたします。（医薬生命科学系）

3-3. 京都大学アカデミックデイ賞

京都大学アカデミックデイでは、出展研究者に贈る「京都大学アカデミックデイ賞」を設けています。賞を設けた理由は、よりよい対話を目指した研究者が評価される（価値をつけられる）仕組みを作ることです。今後、研究活動の一環として「国民との科学・技術対話」活動が普及・定着すること、また活動が研究者にとって負担にならないことを目指して始めました。

来場者アンケートの中に「本日の『ちゃぶ台囲んで膝詰め対話』と『研究者と立ち話』の中で、あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」という質問を設けました。全出展の中から一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ大賞」を、また大賞を除いて「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」で、それぞれ一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ賞」を贈りました。

■ 3-3-1. 2019年度「京都大学アカデミックデイ賞」受賞者

● 京都大学アカデミックデイ大賞

出展名：脳を読み取り、脳を活かす

出展代表者：

伊佐正（大学院医学研究科／高等研究院（ASHBi））

武井智彦（白眉センター（大学院医学研究科））



● 京都大学アカデミックデイ賞：「研究者と立ち話」部門

出展名：RNA×iPS—細胞運命を制御する—

出展代表者：齊藤博英（iPS細胞研究所）



● 京都大学アカデミックデイ賞：「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」部門

出展名：イマジナリーキューブ・パズル

出展代表者：立木秀樹（大学院人間・環境学研究科）



■ 3-3-2. アンケートの上位の出展

来場者からの賞についてのアンケートでコメント数の多かったポスター上位 10 件（コメント数 9 位が 2 件あった）、ちゃぶ台上位 3 件（コメント数 3 位が 2 件あったため合計 4 件）は、以下の出展でした。

● 研究者と立ち話

「脳を読み取り、脳を活かす」出展代表者 伊佐正（大学院医学研究科／高等研究院（ASHBi））／武井智彦（白眉センター（大学院医学研究科））	
・一生懸命説明をしてくださったで賞	・体験が楽しかったで賞
・はやく実用化して欲しいで賞	・今日一番感動させてくれたで賞
・たくさんの方を助けてね！！賞	・普通はできないことをさせてくれたで賞
「RNA × iPS－細胞運命を制御する－」出展代表者 齊藤博英（iPS 細胞研究所）	
・次世代の再生医療を目指して下さい賞	・人間奥が深いで賞
「重力波物理学・天文学：創世紀」出展代表者 田中貴浩（大学院理学研究科）	
・宇宙のロマン感じたで賞	・説明が熱かったで賞
「プラスチックの環境運命を追いかける」出展代表者 田中周平（大学院地球環境学）	
・地球を救うで賞	・これから一層世界が注目賞
「農業って、環境に優しいの？」出展代表者 渡邊哲弘（大学院農学研究科）	
・小学生にもわかりやすく説明してくれた賞	・農業もっと知りたい de 賞
「勉強思考、研究志向、学問思考。」出展代表者 宮野公樹（学際融合教育研究推進センター）	
・これからの世界（学校）をかえてほしいで賞	・勉強・学問・研究のちがいがよくわかった賞
「合成生物学で、世界をよりよい場所に！」出展代表者 Knut Woltjen（iPS 細胞研究所）	
・例えをうまく使って説明してくれたで賞	・楽しすぎて震えたで賞
「大学の地下から考える地域の歴史」出展代表者 千葉豊（大学院文学研究科）	
・素人に親切でした賞	・目が輝いてたで賞
「デバイス内で動き出す新しいイノチ」出展代表者 横川隆司（大学院工学研究科）	
・研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞	・無限の可能性賞
「意味から英語を組み立ててみよう！」出展代表者 金丸敏幸（国際高等教育院）	
・日常生活において大変実用的だったで賞	・ぼくの話をよく聞いてくれた賞

● ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

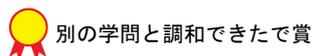
「イマジナリーキューブ・パズル」出展代表者 立木秀樹（人間・環境学研究科）	
・楽しくつくれる理解できる賞	・数学の美しさが見えたで賞
「敗者の視点から歴史を見る」出展代表者 芹澤隆道（人文科学研究科）	
・歴史の見方を教えてくれて感激で賞	・感情を込めて話をしてくれたで賞
「化学と理論と計算化学」出展代表者 榊茂好（福井謙一記念研究センター）	
・むずかしいことにちようせんしたで賞	・理論と実践のつながりが面白かった賞
「くすりの効果を評価する：統計学の研究」出展代表者 魚住龍史（大学院医学研究科）	
・白熱していたでしよう賞	・統計学説明大変分かりやすかったです賞

4. 出展者情報

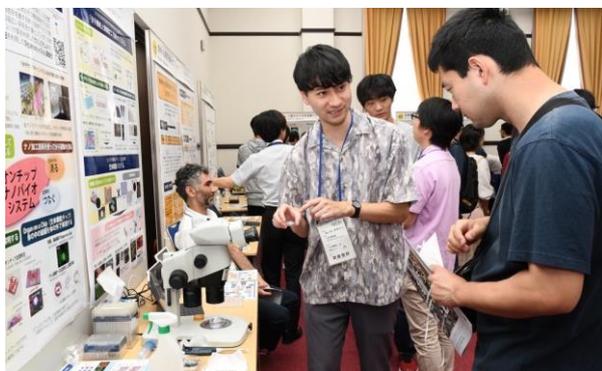
以下、各出展の「〇〇〇賞」は、来場者のアンケート用紙に設けた質問「あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」の回答の中から特徴的なものを表記しました。各出展のポスターやその他の写真は京都大学アカデミックデイ 2019のWEBサイトでもご覧になれます (<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2019/>)。

4-1. 研究者と立ち話

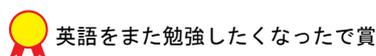
01 デバイス内で動き出す新しいイノチ 横川隆司 (大学院工学研究科)



機械工学的なマイクロ・ナノ加工技術により製作した微小流体デバイスの上で、生体分子や細胞の機能を再現することで実現する、新たなマイクロ・ナノバイオシステムを紹介します。モータタンパク質の駆動力を利用した分子デバイスや、血管やヒト iPS 細胞由来の臓器を育てる生体模倣システムを紹介し



02 意味から英語を組み立ててみよう！ 金丸敏幸 (国際高等教育院)



普段、日本語を使う私たちにとって頭を悩ませるのが英語。みなさん、英語には苦労していますよね？これは英語と日本語で文の組み立て方が違うのが原因です。今回、言語学と英語教育学の観点から全く新しいコンセプトに基づく英語の考え方についてお話しします。また、その考え方に基づいた英語学習アプリも紹介予定です。



03

小さな磁石を用いたメモリーデバイス 塩田陽一（化学研究所）

 早く実用化して下さい賞

情報の記録のためには、メモリーデバイスが必要である。現在までは、ハードディスクなどが大容量のメモリーとして使われていた。しかしながら、技術の発展とともに、超高容量、超高速のメモリーデバイスが必要となっている。本ポスターでは、次世代メモリーデバイスの一つである、新規磁壁メモリーデバイスを紹介する。

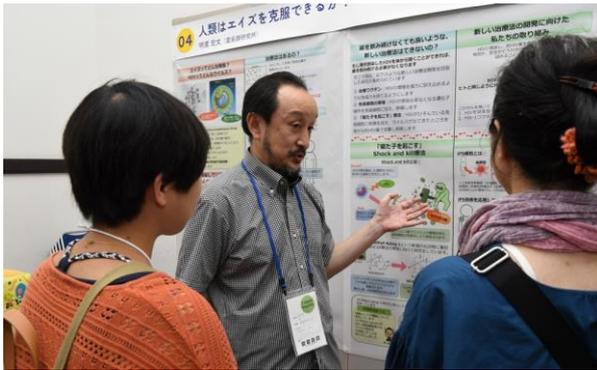


04

人類はエイズを克服できるか？ 明里宏文（霊長類研究所）

 フリー素材を上手に使ったで賞

近年の優れた抗 HIV 薬の開発により、HIV ウイルスに感染しても AIDS を免れることが出来るようになりました。しかしこれは人類と HIV の戦いの序章に過ぎなかったのです。真に HIV/AIDS を克服するために必要なことは？一緒に考えてみましょう。

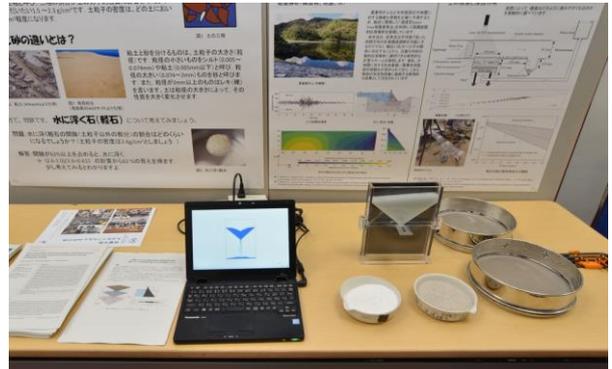


05

生産基盤を支える土の物理 村上章（大学院農学研究科）

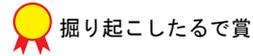
 いっぱい教えてくれたで賞

生産基盤を成す農業水利施設は、土質材料で作られているものが多く、自然由来の材料であるがゆえ、豪雨、地震による被害を受けやすくなります。「土」の様子・挙動は「水」と深く関わっており、私たちは、農業水利施設のマネジメントを目的として、土と水に関する力学を基礎および応用の観点から研究しています。



06

大学の地下から考える地域の歴史 千葉豊（大学院文学研究科）



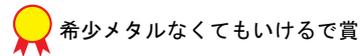
京大は遺跡の上にある大学です。本部構内には、幕末まで京と近江を結ぶ街道（白川道）がはしり、さまざまに人が往還していました。発掘調査から明らかとなってきた数百年におよぶ古道の姿や周辺の様子について研究の現状を紹介し、大学のある地域が重ねてきた歴史とこれからの思いを馳せていただければと考えています。



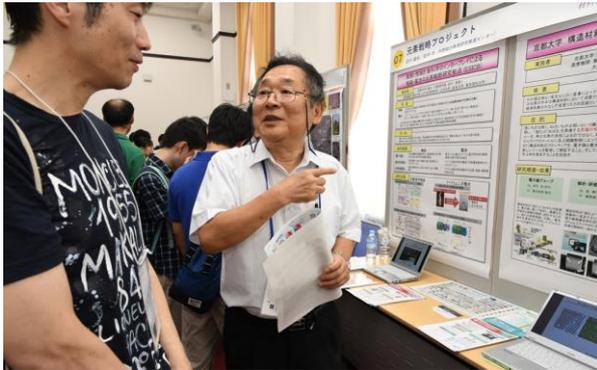
07

元素戦略プロジェクト

田中庸裕（実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池の
元素戦略研究拠点ユニット）
田中功（構造材料元素戦略研究拠点ユニット）

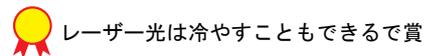


「元素戦略」耳慣れないことばだと思いますが、今、世界中から注目されているプロジェクトです。京都大学では2つの研究拠点を設置し、産官学が密接に連携して研究を行っています。その取組みについてお話しします。

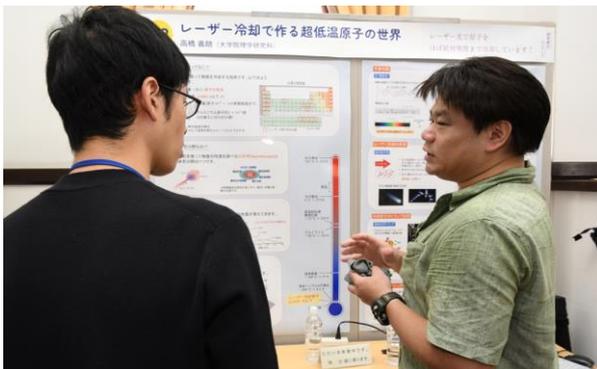


08

レーザー冷却で作る超低温原子の世界 高橋義朗（大学院理学研究科）



切断や溶接に使われるイメージが強いレーザーですが、実は物質を「冷やす」こともできます。この技術は「レーザー冷却」と呼ばれ、物質の量子的な性質を調べるための最先端の研究ツールになっています。ここでは、レーザー冷却の基本的な原理と、それによって作られる超低温の原子の世界を少しだけ紹介します。



09

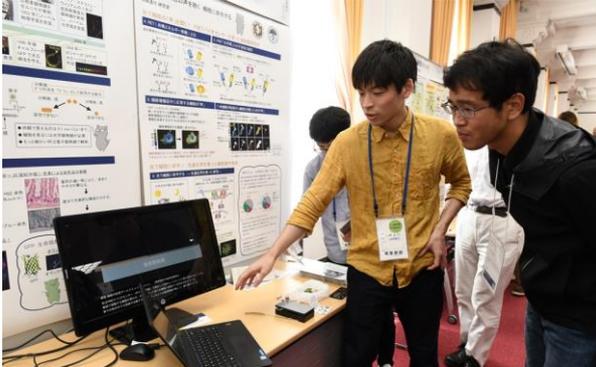
マイクロな細胞と会話する光技術

松田道行（大学院医学研究科／大学院生命科学研究科）



見えることは分かることで賞

我々はこれまで、物言わぬ細胞が発する「声」を聴くためにナノサイズの蛍光センサーを作る・見る技術を磨いてきた。さらに近年は、分子生物学の世界を席卷する新技術、オプトジェネティクスで細胞に「語りかける」研究を推し進めている。出展では、2つの技術の融合が可能にした「細胞と会話する」最新光技術を見せます。



10

テロメアから考える細胞のがん化

林真理（白眉センター（大学院生命科学研究科））



心の底から研究を楽しんでいるで賞

生命の設計図である染色体 DNA はヒモのようなもので、その端は「テロメア」によって守られています。テロメアが失われると、染色体の端と端が融合して異常を引き起こし、ひいてはガン化を誘導してしまいます。我々は、染色体融合を「可視化」する技術を開発し、融合を持った細胞の運命を直接見ることによって解析しています。



11

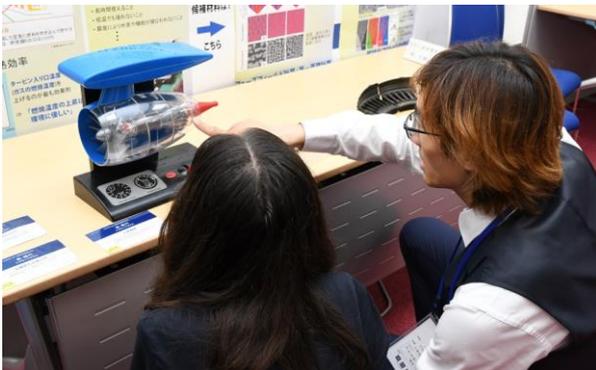
炎を制する一超耐熱構造材料

乾晴行（大学院工学研究科）



私たちの暮らしに将来役立つで賞

高融点、高温強度に優れた MoSi_2 基軸材料と他のシリサイドからなる Brittle/Brittle 複相材料（融点約 2000°C ）中の界面の高機能化により、高温高強度、高靱性を兼ね備えた 1800°C 級ガスタービンで使用可能な超耐熱材料の開発を目指しています。



12

物体間での影の伸縮のメカニズム解明

谷川樹（兵庫県立加古川東高等学校 理数科）



高校生にエールを送る賞

2つの影がくっつく直前、片方の影が伸びる現象があります。実験で、2つの物体の高低差やスクリーンとの距離の差が現象に影響することを確認しました。この現象には、「半影」という薄い影によるものだと、私たちは考えています。現在、光源の幅に着目して追加実験を行っているところです。



13

疾患モデルの意義とその具体例

高橋良輔（大学院医学研究科）



難病治療に光を与えてほしいで賞

難病の原因を探ったり治療法を開発するためには「モデル」が必要です。人間の病気を完全に再現することは困難ですが、様々な「モデル」を用いることでそこから見えてくるものがあります。ここでは疾患のモデル化についての一般論を簡単にお示ししつつ、私たちが作成したモデルについても発表します。



14

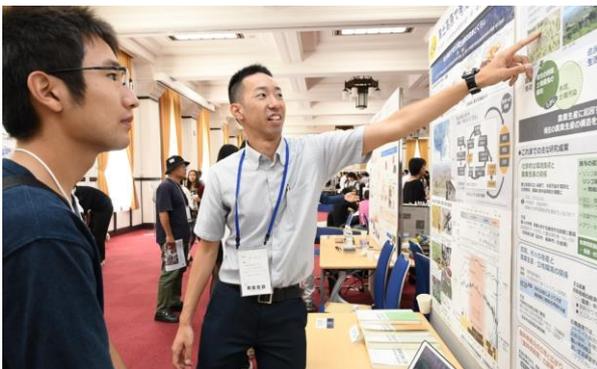
黄土高原で考える乾燥地の自然と暮らし

原裕太（大学院地球環境学堂（現：東京大学教養学部附属教養教育高度化機構））



砂漠が緑に戻るのを見たいで賞

中国内陸の乾燥地・黄土高原では、砂漠化が深刻です。これに対して、植林緑化が進められましたが、環境保全が農村の生産構造や社会構造を変化させたことで、新たな課題も生じています。私たちは、黄土高原の農村を舞台に、生態系、住民生活、食といった各方面から、自然と人間が共に許容可能な社会のあり方を考えています。



15

研究（者）倫理の今：ハゲタカって何？

井出和希（学際融合教育研究推進センター）



ハゲタカにねらわれないで賞

業績主義の高まりと共に研究不正問題が多く取り沙汰されています。例えば、ハゲタカジャーナルと称されるニセモノの学術雑誌が現れ、日本からも論文が投稿されているような状況です。「どのようなことが」、「なぜ」生じているのかを探求しています。



16

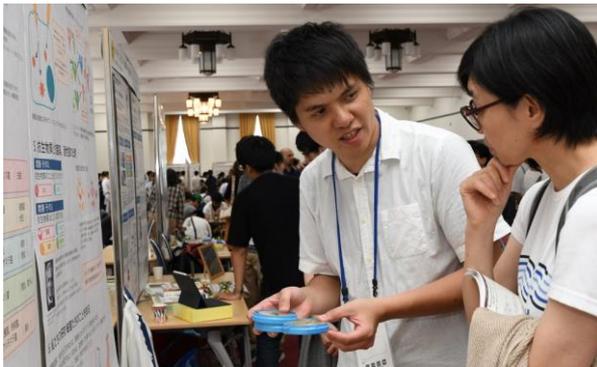
細菌と戦う私達のボディー

金玟秀（白眉センター）



免疫のしくみ、わかりやすい賞

多くの抗生物質を手にした現代でも、我々は毎日細菌による感染症の大きな脅威にさらされています。私達の研究室では、細菌が体内に侵入し、感染を拡大する際に、我々の体がどのような感染防御策を持つかについて研究しています。さらにその成果を基に新しい感染症治療方法の開発を目指しています。



17

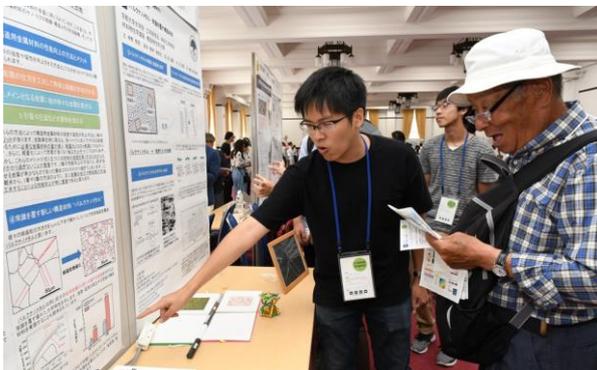
バルクナノメタル：常識を覆す金属材料

辻伸泰（大学院工学研究科）



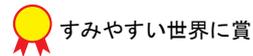
シンプルなのにすごいで賞

構造用金属材料は、スカイツリーをはじめとする巨大建築物や、自動車、スマートフォンなど様々な場面で用いられています。バルクナノメタルとは「粒界・バウンダリーだらけ」の構造を有し優れた強度と可塑性の両方を兼ね備えた、今までの常識を覆す材料です。そのバルクナノメタルの研究について紹介します。



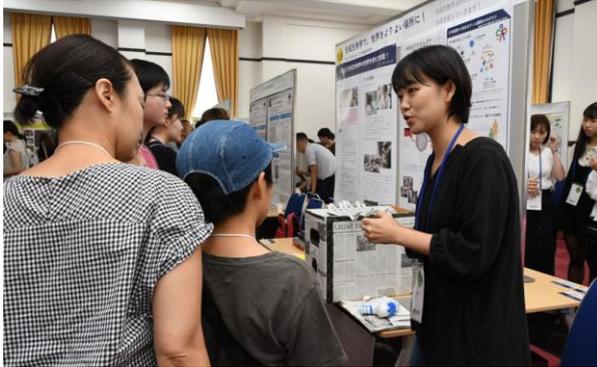
18

合成生物学で、世界をよりよい場所に！ Knut Woltjen (iPS細胞研究所)



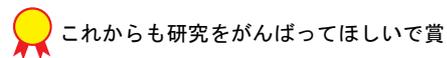
すみやすい世界に賞

さまざまな遺伝子を組み合わせて世の中の役に立つものを作る、「合成生物学」と呼ばれる研究分野が急速に発展しています。その発展の中心には、毎年ボストンで開かれる大学生による合成生物学の世界大会「iGEM」があります。iGEM大会に挑戦する、京都大学チームの活動を紹介します。



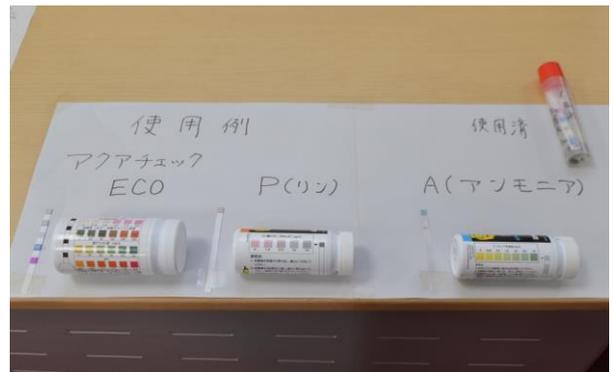
19

船橋川の水質 水温とpHのモデル実験 田澤拓斗 (大阪府立長尾高等学校 理科研究部)



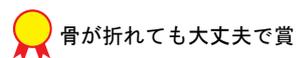
これからも研究をがんばってほしいで賞

船橋川の春から夏の水温上昇に伴うpH上昇を、朝が涼しい春の午前中を用い、日光の当たる室内での朝から昼の変化で代用し、水草入りの水槽と水だけの水槽(対照実験)を用意し、光合成の観点からモデル実験した。両水槽の水温は朝から昼にかけ同様に上昇したが、水草入りの方のみ、顕著にpHと溶存酸素濃度が上昇した。



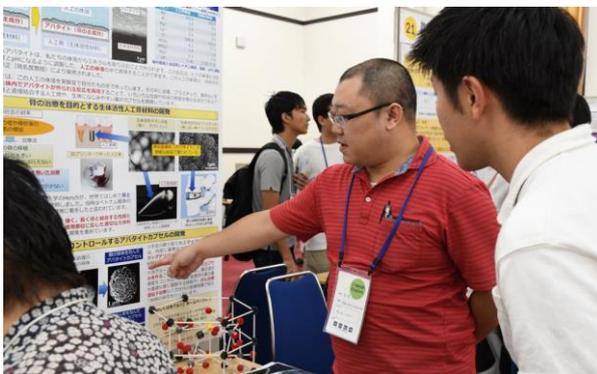
20

哺乳動物の体を支えるアパタイトの科学 数塚武史 (大学院エネルギー科学研究科)



骨が折れても大丈夫で賞

超高齢社会の到来により、疾患等で失われた骨を修復する人工骨など、さまざまな治療を支援する医療材料の需要が高まっています。私たちは、哺乳動物のからだを支える骨や歯の主成分「アパタイト」の性質に着目し、自然に骨と一体化する人工骨や、薬の効果を高めるカプセルなど、医療に貢献する新材料の開発を進めています。



21

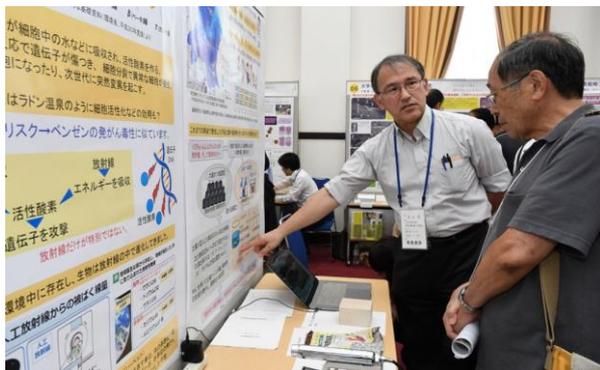
放射能と共に生きる！

米田稔（大学院工学研究科）



世界に今後求められる技術で賞

福島第一原発で環境中にまき散らされた放射性物質が消えることはありません。では、私達は今後、どのようにこの放射性物質と付き合いしていくべきでしょうか？廃棄物となった放射性物質との付き合い方、森林に残る放射性物質との付き合い方などについて研究しています。



22

固体中のイオンの動きを中性子で見る

高井茂臣（大学院エネルギー科学研究科）



新電池賞

酸化物イオン伝導体やリチウムイオン伝導体は、固体酸化物形燃料電池や全固体形燃料電池の電解質として、現在精力的に研究がなされているが、酸素やリチウムなどの軽い元素であるため、拡散挙動の検出は難しい。今回は中性子を用いて酸素やリチウムの拡散を調べた研究を紹介する。



23

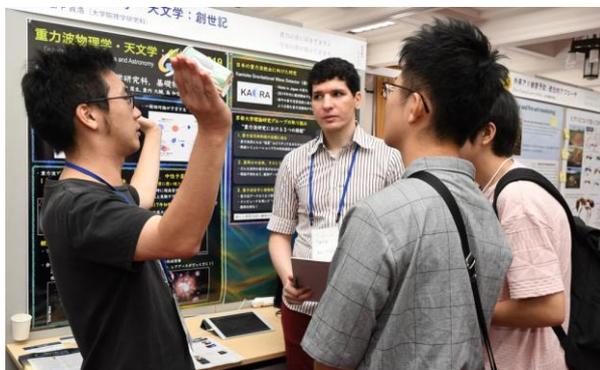
重力波物理学・天文学：創世記

田中貴浩（大学院理学研究科）



宇宙はすごいで賞

アインシュタイン最後の宿題と呼ばれ、2015年ついに初めて直接検出された重力波。私たちは、そんな重力波を使って宇宙の理を解き明かすための研究を行なっています。今回の発表では重力波とはそもそも何なのか？我々に何を教えてくれるのか？についてお話しします。



24

外来アリ被害予防：統合的アプローチ Chin-Cheng Scotty Yang (生存圏研究所)



ヒアリのことがよく分かった賞

琉球大学、京都大学、沖縄科学技術大学院大学、及び国立環境研究所は、ヒアリの防除・根絶・将来の侵入への対策に向け、共同研究プロジェクトを立ち上げます。本プロジェクトのゴールは、早期発見、効果的な防除、監視体制の構築の3つを実現しようと考えています。



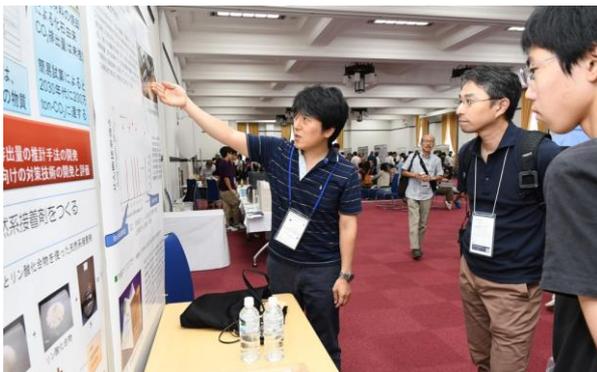
25

合板の接着剤を 1/20 に減らす 平井康宏 (環境安全保健機構附属環境科学センター)



木材の新展開賞

合板には合成接着剤が使われています。その使用量を現在の 1/20 に減らしても、実は強度は変わりません。また天然系接着剤の開発も進められています。合板の環境性能をさらに高める研究をご紹介します。



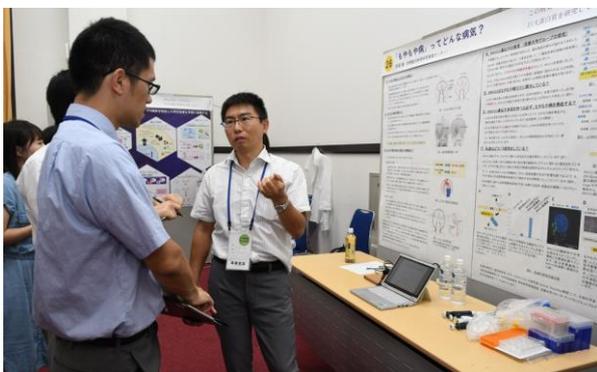
26

「もやもや病」ってどんな病気？ 手塚徹 (スーパーグローバルコース医学生命系ユニット)



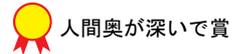
もやもやースッキリ賞

もやもや病は日本で発見された難病で、脳内の動脈が詰まり、その代償的にたばこの煙のような形の異常な血管(もやもや血管)ができ、脳卒中などが起こります。この病気がどのように起こるか、そのメカニズムや治療法の現状を紹介します。一緒に研究中の留学生も紹介しますので、海外留学に興味のある方も是非お越し下さい。



27

RNA × iPS—細胞運命を制御する— 齊藤博英 (iPS 細胞研究所)



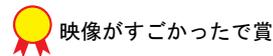
人間奥が深いで賞

みなさんは「RNA」という言葉を聞いたことがありますか？ RNA は生命活動を支えるとても重要な分子です。私たちはそんな RNA を利用して、細胞の運命や機能を自在に操るための技術を研究・開発しています。RNA テクノロジーと iPS 細胞を組み合わせ、安全な再生医療の早期実現を目指します！！



28

結晶が生まれるところを X 線で観る 安田秀幸 (大学院工学研究科)



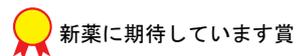
映像がすごかったで賞

SPring-8 で利用可能な放射光（輝度が高く、平行な X 線領域の光）を利用し、材料（結晶）が固まる過程をありのままに観察できるようになりつつあります。自動車などの輸送機器や建築物に使われている結晶が生まれるところを実際に観察して、より効率的な製造やより高性能の材料の開発を目指しています。



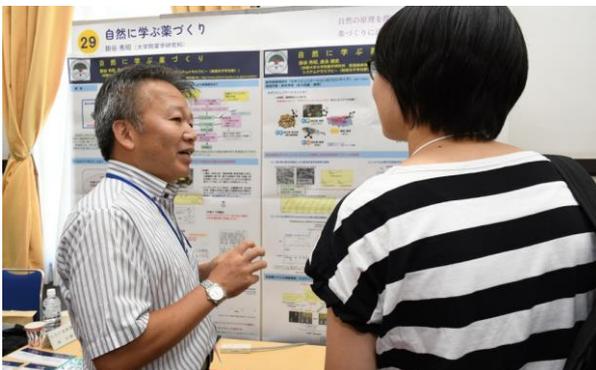
29

自然に学ぶ薬づくり 掛谷秀昭 (大学院薬学研究科)



新薬に期待しています賞

自然界に存在する微生物や植物が創り出す化学コミュニケーション分子の発見と機能解析を通じて、抗がん剤や抗真菌剤など人類に役立つ新薬の開発に挑戦しています。本発表では、最新の研究成果について分かり易く解説します。



30

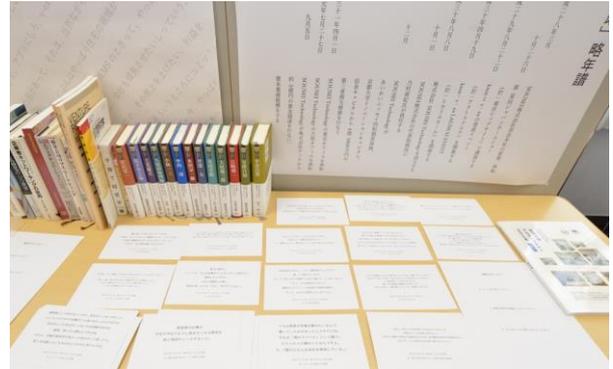
起業者活動の舞台裏

伊藤智明（経営管理研究部）



リアルタイムの研究面白い賞

起業者による「リフレクション」と「組織を構成する人工物のメイキング」に着目して、研究しています。8年半前から1人の起業者と45回の対話を繰り返してきました。この対話のことを「ことばの交換」と名づけて、独自のゲームとして開発を続けています。起業者活動の舞台裏をお楽しみください。



31

臨床試験を科学するー臨床統計学

佐藤俊哉（大学院医学研究科）



新しい数学の道を見せてくれたで賞

新しい医薬品や治療法の開発では、最終段階で患者さんが参加する実験である「臨床試験」が行われます。臨床試験の実施には厳密な科学性と倫理性が求められ、専門的な知識を持つ統計家の参加が不可欠となっています。この研究領域が臨床統計学です。臨床試験を科学する臨床統計学、みなさんも体験してみてください。



32

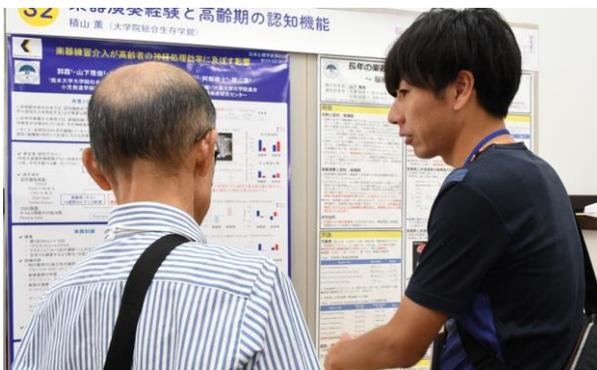
楽器演奏経験と高齢期の認知機能

積山薫（大学院総合生存学館）



脳の活性化は続けるべきで賞

ご家族を介護した経験のある方は、認知症の予防にきっと関心をお持ちだと思います。どんなライフスタイルが認知症のリスクを低下させるのか、世界中で研究が進んでいます。ここでは、楽器演奏経験が高齢期の認知機能維持・向上に効果を持つかどうかを調べた私たちの研究を紹介します。



33

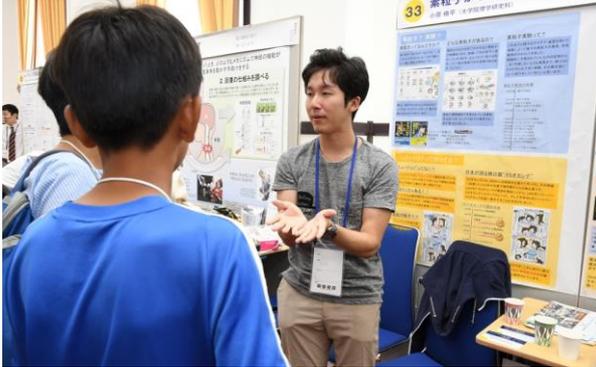
素粒子から探る物理の世界

小原脩平（大学院理学研究科）



ずっと夢を追いかけてほしいで賞

「素粒子」とは世の中の最も根本的な粒子の事です。素粒子を探る事でとても小さな世界の現象から、果ては宇宙の誕生までを知る事が出来るようになります！発表では世界の深淵がどうなっているか、どのようにそれを探っているのかみなさんにお伝えします。



34

脳を読み取り、脳を活かす

伊佐正（大学院医学研究科／高等研究院（ASHBi））

武井智彦（白眉センター（大学院医学研究科））



今後医療で活やくするで賞

事故や病気などで脳やその他の神経が傷つくと思った通りに身体を動かせなくなってしまいます。私達の研究では、神経が傷ついて身体が動かせなくなったときにどのようなメカニズムで脳の機能が回復するのかを明らかにすることで、もう一度運動機能を回復できるように手助けできることを目指しています。



35

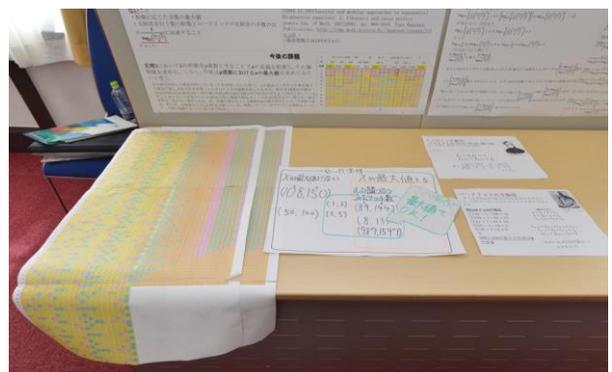
ユークリッド互除法の手数と桁数の関係

入江海地（京都市立堀川高等学校 自然探究科）



発想が面白かったで賞

ユークリッド互除法の計算回数と互除法を行う数の桁数の比の最大値や極限值について研究している。現在は互除法を行う数が隣り合うフィボナッチ数である時、比が最大値をとり、また極限值は黄金比の常用対数をとった数の逆数になると分かっている。今後は桁数を m 進法に拡張した時の比の最大値と極限值の一般式を求めたい。



36

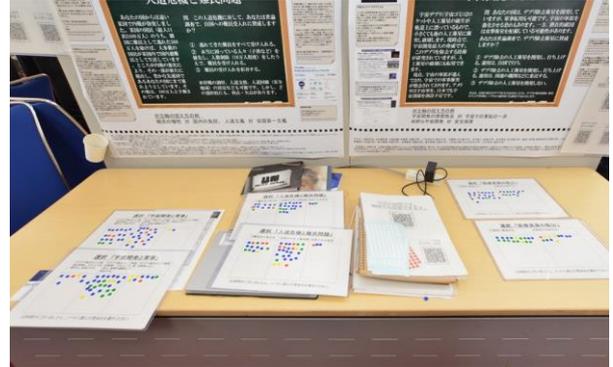
学問が取り組む《究極の選択》？

大庭弘継（大学院文学研究科）



選択はいつもどこでも究極だね賞

「どの選択にも犠牲が含まれるとき、何を選ぶべきか」を考えます。例えば、小惑星衝突を回避するため核兵器を使用してよいのかといった問題では、どの選択でも何かが損なわれるため、苦々しさが残ります。天文学、国際政治、医療・生命倫理の分野で生じる《究極の選択》を取り上げ、よりマシな選択を考えたいと思います。



37

プラスチックの環境運命を迫りかける

田中周平（大学院地球環境学堂）



これからも環境のために頑張ってほしいで賞

ペットボトルの歴史は約45年であり、その後の世界での使用量を考えると、今後、環境中で現れるペットボトル由来のMPsの数は膨大となると考えられる。「マイクロプラスチックは、どこで発生し、どのような大きさで、どこに存在しているのか」に答えるべく、流域単位でのMPsの発生源分析と環境運命予測を行っている。



38

遺伝子発現を観て操る

杉山弘（大学院理学研究科）



色々な分野への発展期待しています賞

私たちは、DNA配列を認識し結合するN-メチルピロール-N-メチルイミダゾール(Py-Im)ポリアミドや、DNA折り紙法で作成したDNAフレームを駆使して、遺伝子発現の様子を分子レベルで観察し、それを制御し利用することを研究しています。



39

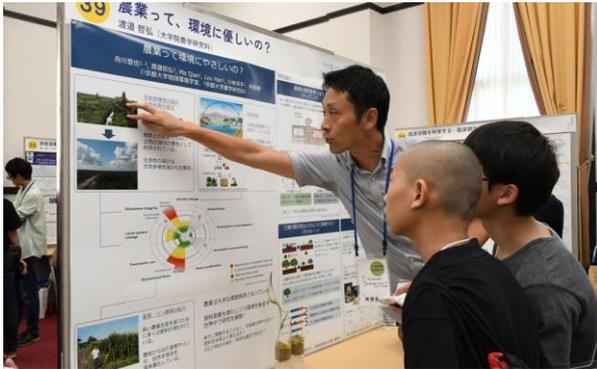
農業って、環境に優しいの？

渡邊哲弘（大学院農学研究科）



地球環境問題解決に役立つで賞

世界各地で行われている農業の生態学的基盤を紹介すると共に、近代化に伴うその変容を解析し、環境調和的な農業のあり方を考える。



40

勉強思考、研究志向、学問思考。

宮野公樹（学際融合教育研究推進センター）



なんかハッとさせられましたで賞

学ぶとは何か。考えるとは何か。分かるとは何か。そして、知識とは何か。専門とは何か。生きるとは何か、へ。



41

これなら安心？細胞・情報を使う研究

佐藤恵子（医学部附属病院）



生命倫理を大切に賞

ヒトの細胞や医療情報を使った医学研究の適切な実施に向け、私たちは、①病院や研究機関における体制、②細胞や医療情報の扱い方、③研究者の責務や行動基準などを含めた、グランドデザインについて検討中です。よりよい体制作りに向け、ぜひ皆さんの声を聞かせてください！



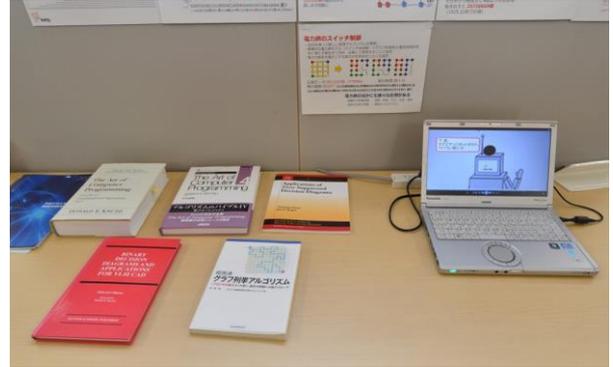
42

社会に貢献する最先端アルゴリズム技術 湊真一（大学院情報学研究所）



見た目以上に面白く、そのギャップに驚いたで賞

アルゴリズムの重要性を伝える YouTube 動画「フカシギの数え方」が公開されて 6 年になりますが、その研究は今もなお続いています。「離散構造処理系」と呼ばれる最先端のアルゴリズム技術を説明するとともに、これらの技術が社会的に重要な様々な分野の問題に応用されていることを紹介します。



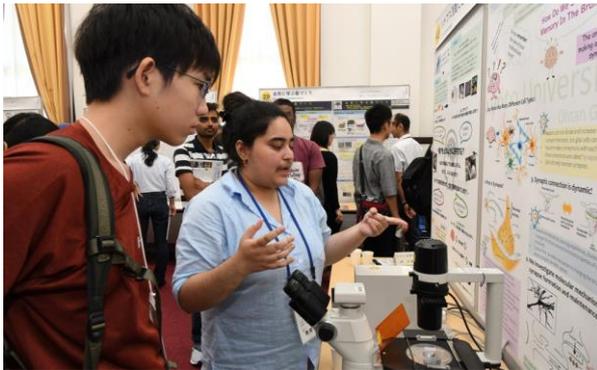
43

シナプス活動と遺伝情報 王丹（高等研究院（iCeMS））



脳科学を身近に感じた賞

シナプスは神経情報を出力する側と入力される側の間に発達した、情報伝達のための接触構造であり、外界刺激や学習によって変化する 20 ナノメートルほどの小さい隙間でもあります。そこに私たちの記憶が貯蔵されているとされているが、どんな仕組みを使っているか？シナプスについて語り合しましょう。



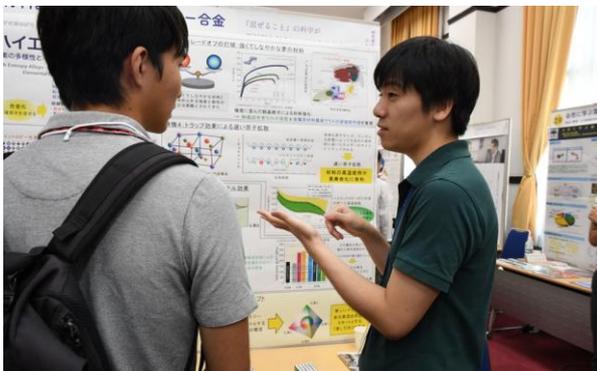
44

新しい材料設計：ハイエントロピー合金 乾晴行（大学院工学研究科） 辻伸泰（大学院工学研究科）



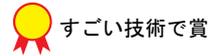
エントロピーが高いで賞

多種類の元素を混ぜ合わせた金属はハイエントロピー合金と呼ばれ、未開の材料分野とされてきました。今、この合金の持つ様々な可能性が注目を集めており、全く新しい材料設計の指針となりつつあります。材料設計の最先端を紹介します。



45

細胞たちのホームムービー撮影係
曾我部舞奈（ウイルス・再生医科学研究所）



生体の中を探索する、そのためのツールが顕微鏡です。基礎医学の研究の中ではサブキャラとして登場することが多い顕微鏡にスポットライトを当てて、進化を続ける華麗なる生体イメージングの世界を紹介します。



4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

46 脳画像からみる摂食障害のこころ 野田智美（大学院医学研究科）

 食べることは生きることで賞

摂食障害患者特有の心理特性や行動パターンに関連する神経基盤を磁気共鳴画像（MRI）・機能的磁気共鳴画像（fMRI）を用いて明らかにし、効果的な治療法に繋げるための研究を行なっています。



47 化学と理論と計算化学 榊茂好（福井謙一記念研究センター）

 そうだったのか賞

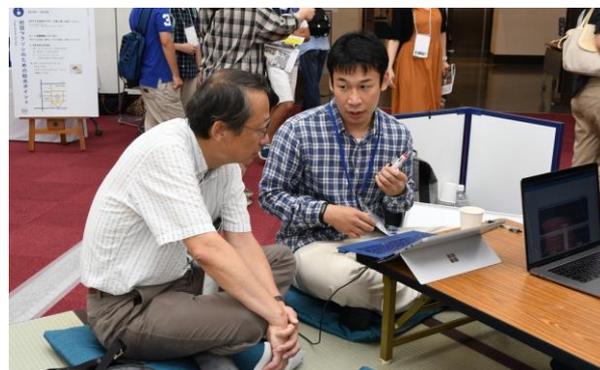
現在の化学では、複雑な化学反応が研究され、実際に私たちの生活に役立っています。宇宙の星の誕生と消滅に不思議さを感じるように、化学反応がどうして進行するのか、不思議です。理論に基づく計算化学は、その疑問に答え、また、化学反応の予測も可能です。どのようなことが可能なのか、概要を紹介します。



48 学びと教えの未来についての研究 緒方広明（学術情報メディアセンター）

 子供たちの未来をおねがいします！！賞

今から 10 年後の未来の教育はどのようなになるでしょうか？我々は、学びと教えの未来について研究しています。



49

イマジナリーキューブ・パズル 立木秀樹（大学院人間・環境学研究科）

 立体すごい!!!で賞

イマジナリーキューブパズルは、2種類の多面体を箱に詰めるパズルです。子供から大人まで楽しめます。箱にきれいに収まった時の達成感はもちろんですが、それ以上に、その形の美しさに心を動かされます。この2つの多面体は、面白い幾何学的な性質を持っています。パズルを通して、それが一目瞭然になります。



50

くすりの効果を評価する：統計学の研究 魚住龍史（大学院医学研究科）

 ためになったで賞

私たちは病気にかかったとき、「くすり」を服用します。新しい薬を開発する場合、これまでの薬よりも効果があるかどうか調べるために、臨床試験が行われます。私は、臨床試験から得られるデータから、新しい薬の効果を「より適切に」評価するための、統計解析手法の開発を目指しています。



51

敗者の視点から歴史を見る 芹澤隆道（人文科学研究所）

 いろんな歴史の本を読み比べたくなりましたで賞

歴史は、多くの場合、戦争に勝った側の視点によって書かれてきました。この企画は、主にアメリカ合衆国が日本とフィリピンに勝利した後、それぞれの歴史をどう書き変えたのかを比較します。人類はたくさん戦争を行ってきましたが、勝者よりも敗者が圧倒的多数です。多くの敗者と共有できる歴史語りを摸索しましょう。



4-3. 出展参加者一覧

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
1	○	大学院工学研究科 横川 隆司 教授 金子 泰洸 ポール 教務補佐員 古川 眞之 修士課程 2年 亀田 良一 修士課程 2年 井原 輝紀 修士課程 2年 一色 庸平 修士課程 2年 Scott Erickson 修士課程 2年 高田 裕司 修士課程 1年 東條 裕也 修士課程 1年 田淵 史 4年 Zhou Hang 博士課程 1年 岡田 龍 博士研究員 Liu Yang 特定助教 Ramin Banan Sadeghian 特定助教
2	○	国際高等教育院 金丸 敏幸 准教授
3	○	化学研究所 塩田 陽一 助教 岩城 宏侑 修士課程 2年 船田 晋作 修士課程 2年
4	○	霊長類研究所 明里 宏文 教授 鷺崎 彩夏 特定研究員 大学院農学研究科 入江 一浩 教授
5	○	大学院農学研究科 村上 章 教授・研究科長 藤澤 和謙 准教授 大杉 美里 修士課程 1年 笹川 秀徒 修士課程 1年 嶋田 侑治 修士課程 1年 竹下 兼人 修士課程 1年
6	○	大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター 千葉 豊 准教授 伊藤 淳史 助教 富井 眞 助教 笹川 尚紀 助教 内記 理 助教
7	○	実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池の元素戦略研究拠点ユニット 田中 庸裕 教授 大谷 裕子 特定助教 太田 浩二 特任教授 細川 三郎 特定准教授 朝倉 博行 特定助教 構造材料元素戦略研究拠点ユニット 田中 功 教授 落合 庄治郎 特任教授 川口 利奈 特任准教授

ブース 番号	代表者 ○	所属 氏名 職名又は学年等
		学術研究支援室 橋爪 寛 リサーチ・アドミニストレーター 大学院人間・環境学研究科 吉田 寿雄 教授 山本 旭 助教
8	○	大学院理学研究科 高橋 義朗 教授 吉川 豊 助教
9	○	大学院医学研究科／大学院生命科学研究科 松田 道行 教授 大学院生命科学研究科 佐藤 慎哉 助教 寺井 健太 准教授 一瀬 大志 研究員 田中 泰生 博士課程1年 吉田 琢哉 修士課程2年 範 楚芸 研究生 大学院医学研究科 平島 剛志 講師 廣田 圭昭 研究員 金城 智章 博士課程4年 渡部 哲也 博士課程3年
10	○	白眉センター（大学院生命科学研究科） 林 眞理 特定助教
11	○	大学院工学研究科 乾 晴行 教授 岸田 恭輔 准教授 Zhenghao Chen 特定研究員 武田 康誠 修士課程2年 濱田 鉄也 修士課程1年
12	○	兵庫県立加古川東高等学校 理数科 谷川 樹 2年 伊藤 光紀 2年 新谷 惇人 2年 田畑 陽彩 2年 戸嶋 莞也 2年 兵庫県立加古川東高等学校 福迫 徳人 教諭
13	○	大学院医学研究科 高橋 良輔 教授 田口 智之 大学院生 石本 智之 大学院生 鈴木 英文 大学院生 大原 寛明 大学院生 天野 郁子 テクニカルスタッフ
14	○	大学院地球環境学堂（現：東京大学教養学部附属教養教育高度化機構） 原 裕太 日本学術振興会特別研究員（PD）（現：特任助教）
15	○	学際融合教育研究推進センター 井出 和希 研究員
16	○	白眉センター 金 玫秀 特定准教授 大学院医学研究科

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		西出 旭 特定研究員 佐藤 里紗 オフィス・アシスタント
17	○	大学院工学研究科 辻 伸泰 教授 Bai Yu 助教 山崎 直人 修士課程1年 加山 達也 修士課程1年 田鎖 悠一 修士課程1年 松宮 久 修士課程1年 Wang He 修士課程1年
18	○	iPS細胞研究所 Knut Woltjen 准教授 ウイルス・再生医学研究所 北島 真 助教 薬学部 田向 健人 2年 医学部 山内 萌々乃 2年 理学部 劉 裕介 1年
19	○	大阪府立長尾高等学校 理科研究部 田澤 拓斗 3年 豊島 瑠菜 2年 西川 輝 2年 中山 頼子 2年 青田 鏡広 1年 平井 俊男 教諭
20	○	大学院エネルギー科学研究科 藪塚 武史 助教 石崎 千尋 修士課程2年 足立 裕 修士課程1年 中西 晃太 修士課程1年 橋本 教弘 修士課程1年 工学部 高石 健士朗 4年
21	○	大学院工学研究科 米田 稔 教授 島田 洋子 准教授 吉田 耕平 修士課程1年 複合原子力科学研究所 池上 麻衣子 助教
22	○	大学院エネルギー科学研究科 高井 茂臣 准教授 亢 健 博士課程1年 宋 方舟 博士課程1年 陳 恒 修士課程2年 山本 隆之 修士課程2年 太田 紘一 修士課程1年 田窪 幸輝 修士課程1年
23	○	大学院理学研究科 田中 貴浩 教授 細川 隆史 准教授

ブース 番号	代表者 ○	所属 氏名 職名又は学年等
		久徳 浩太郎 准教授 山田 慧生 特定研究員 豊内 大輔 特定研究員 島 和宏 特定研究員 基礎物理学研究所 Hamid Hamidani 特定研究員
24	○	生存圏研究所 Chin-Cheng Scotty Yang 講師 Chun-Yi Lin ミッション専攻研究員 大学院農学研究科 Hung-Wei Hsu 博士課程2年 Chih-Chi Lee 博士課程2年
25	○	環境安全保健機構附属環境科学センター 平井 康宏 准教授
26	○	スーパーグローバルコース医学生命系ユニット 手塚 徹 特定講師 大学院医学研究科 Shohab Youssefian 教授 武田 美都里 研究員 崔 廷米 (Choi Jungmi) 博士課程 Intisar Mursi 博士課程 黄 倩颖 (Huang Qianying) 博士課程
27	○	iPS細胞研究所 齊藤 博英 教授 大野 博久 特定拠点助教 川崎 俊輔 特定研究員 大学院医学研究科 小野 紘貴 博士課程1年 亀田 重賢 修士課程1年
28	○	大学院工学研究科 安田 秀幸 教授 鳴海 大翔 助教
29	○	大学院薬学研究科 掛谷 秀昭 教授 大学院薬学研究科/生理化学研究ユニット 倉永 健史 特任講師
30	○	経営管理研究部 伊藤 智明 特定研究員 経営管理大学院 若林 靖永 教授 高瀬 進 特定助教 沢井 拓 研究員 神戸大学 池田 マイケル 専門職学位課程
31	○	大学院医学研究科 佐藤 俊哉 教授 田中 司朗 特定教授 土居 正明 准教授 今井 匠 特定研究員
32	○	大学院総合生存学館 積山 薫 教授 曾雌 崇弘 特任講師

ブース 番号	代表者 ○	所属 氏名 職名又は学年等
		山下 雅俊 特任助教
33	○	大学院理学研究科 小原 脩平 日本学術振興会特別研究員 (PD) 本多 俊介 日本学術振興会特別研究員 (PD) 田島 正規 修士課程 2年 三野 裕哉 修士課程 2年 大塚 稔也 修士課程 1年 小林 蓮 修士課程 1年 末野 慶徳 修士課程 1年 菅島 文悟 修士課程 1年 谷 真央 修士課程 1年 辻川 吉明 修士課程 1年 神戸大学 中村 輝石 日本学術振興会特別研究員 (PD)
34	○	大学院医学研究科／高等研究院 (ASHBi) 伊佐 正 教授 大学院医学研究科 笠井 昌俊 助教 Chih-Yang Chen 研究員 徳岡 広太 博士課程 Wajd Amly 博士課程 上野 里子 博士課程 Yunqing Song 修士課程 伊佐 かおる 特定職員 白眉センター (大学院医学研究科) 武井 智彦 特定准教授 高等研究院 山口 玲欧奈 特定助教
35	○	京都市立堀川高等学校 自然探究科 入江 海地 2年 京都市立堀川高等学校 紀平 武宏 教諭
36	○	大学院文学研究科 大庭 弘継 研究員 高木 裕貴 博士課程 玉澤 春史 研究員 大学院理学研究科附属天文台 河村 聡人 博士課程 iPS細胞研究所 鈴木 美香 特定研究員 同志社大学 大園 誠 嘱託研究員 政策研究大学院大学 菊地 乃依瑠 専門職 山梨大学 小松 志朗 准教授 北九州市立大学 千知岩 正継 非常勤講師 東京大学 中村 長史 特任助教
37	○	大学院地球環境学堂 田中 周平 准教授

ブース 番号	代表者 ○	所属	
		氏名	職名又は学年等
38	○	大学院理学研究科 杉山 弘 教授 板東 俊和 准教授 遠藤 政幸 准教授	
39	○	大学院農学研究科 渡邊 哲弘 准教授 朴 智徳 修士課程 2 年 大学院地球環境学 Ma Qian 博士課程 2 年 Lyu Han 博士課程 2 年 小林 洋平 修士課程 2 年	
40	○	学際融合教育研究推進センター 宮野 公樹 准教授 井出 和希 研究員	
41	○	医学部附属病院 佐藤 恵子 特任准教授 伊藤 達也 講師 iPS細胞研究所 鈴木 美香 特定研究員 大学院文学研究科 児玉 聡 准教授	
42	○	大学院情報学研究科 湊 真一 教授 川原 純 准教授	
43	○	高等研究院 (iCeMS) 王 丹 拠点特定准教授 Soundhar Ramasay 特定研究員 Kandarp Rakeshkumar Joshi 特定研究員 Shengqun Hou 外国人共同研究員 Danyang Wang 研究員 藤原 芳江 研究員 大学院生命科学研究所 Roy Rohini 博士課程 3 年 助川 桃枝 修士課程 2 年	
44	○ ○	大学院工学研究科 乾 晴行 教授 辻 伸泰 教授 新津 甲大 助教	
45	○	ウイルス・再生医科学研究所 曾我部 舞奈 特定研究員	
46	○	大学院医学研究科 野田 智美 日本学術振興会特別研究員 (RPD) 磯部 昌憲 助教 戸瀬 景菜 大学院生 三嶋 亮 大学院生	
47	○	福井謙一記念研究センター 榎 茂好 リサーチフェロー	
48	○	学術情報メディアセンター 緒方 広明 教授 ブレンダン フラナガン 特定講師 大学院情報学研究科	

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		黒宮 寛之 博士課程1年 李 慧勇 博士課程2年
49	○	大学院人間・環境学研究科 立木 秀樹 教授
50	○	大学院医学研究科 魚住 龍史 講師
51	○	人文科学研究所 芹澤 隆道 研究員

5. その他

5-1. 各種説明会

■ 5-1-1. 出展募集説明会

2019年6月14日と19日、学術研究支援棟地下会議室で、出展を検討している参加者向けにアカデミックデイの概要や出展のメリット、出展に向けての作業やサポート等について説明しました。



■ 5-2-2. 出展者向け説明会

2019年8月21日と26日、学術研究支援棟地下会議室で、京都大学アカデミックデイに参加予定の研究者を対象とした事前説明会を開催しました（参加は任意）。参加研究者の“負担感”を軽減し、事前準備をサポートすることがこの事前説明会の主な目的でした。

学術研究支援室の白井哲哉 URA より、京都大学アカデミックデイ開催の目的や背景、前回の様子を紹介しました。どのような場で、どのような人たちと対話をするようになるのかを事前に伝えることで、準備がしやすくなることを狙っています。説明会では学会発表との違いをもとに、専門外の人に自分の研究をわかりやすく伝える方法・対話のコツ・ポスター作りのポイントについてレクチャーしました。



■ 5-2-3. 学生サポーター向け説明会

京都大学アカデミックデイでは、各企画が円滑に運営されるようサポートにあたる“学生サポーター”と、受付やドリンクコーナーを担当する“学生アルバイト”がいます。

学生サポーターには、毎年事前に説明会を開催し、アカデミックデイの趣旨などを丁寧に説明しています。今回は出展者説明会と同日（8月21日、26日）と9月10日に開催。特にコンシェルジュ役の学生たちには、事前に出展内容を読み込んでもらった上、会場の下見もしてもらうなど、しっかり当日に備えました。



5-2. イベント終了後の学内限定タイム（出展者交流）

■ 概要

京都大学アカデミックデイ閉幕後、参加研究者同士の交流の場として出展者や出展者の研究室の学生などを対象とした学内限定タイムを設けました。参加研究者同士でポスターを見ながら意見を交わすなど、研究者間の異分野交流の時間となりました。来場者からの投票による「京都大学アカデミックデイ賞」の発表も行われました。



5-3. 広報物

京都大学アカデミックデイのポスターとチラシを作成し、京都市を中心に関西圏の教育関係機関や公共機関等に配布しました。また、京都市バス・地下鉄で広告を掲載しました。

5-3-1. ポスター (A2 サイズ)



京都大学 理学部 植物学研究室 (GPH804-1041)



京都大学 情報学 情報システム学研究室

それぞれのテーマに日々取り組む約200人の研究者が参加します。
About 200 researchers will join the event to introduce different topics they are working on.



国民との科学・技術対話
Kyoto University

京都大学アカデミックデイ

2019

Kyoto University
Academic Day 2019

研究について、研究者と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

2019年9月15日 (日) 10:00-16:00 10am - 16pm, 15 September, Sunday, 2019
京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館 | Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

参加費：無料 (申込み不要) | No charge/No registration required ※但し、一部プログラムについては17:00まで実施

PROGRAM

50件

研究者と立ち話
Casual Chat with Researchers
10:00-16:00

約200名の多様な京都大学の研究者による研究紹介です。ポスターの前にいる研究者に話しかけてみてください。
Please come talk with our researchers standing in front of their posters. They will directly explain what they are studying about.

主催：京都大学（学術研究推進室、研究推進部研究推進課、
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ）
後援：京大生生活協同組合

8件

ちゃぶ台回りで膝詰め対話
Round-table Conversations with Researchers
10:30-12:00/13:00-14:30

ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、こんな話。お茶の気分で、ほっこりお話ししましょう。
You can sit around a tea table with our researchers and enjoy free conversations to know what is going on behind their research.

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and Working Group for "Scientific and Technological Dialogues with the Public" at Kyoto University
Supported by: Kyoto University CCO-OP

お茶を片手に座談会
Tea-time Dialogues with Researchers
14:00-15:30

私達の《ムーンショット》？ それとも、
あなたの《ムーンショット》？
Your "Moonshot"? Or Is It Our "Moonshot"?
自分が本当に欲しいものを見つけることが難しくありませんか？
Isn't it difficult to realize what we really want?

お問い合わせ先 Contact Information:
京都大学アカデミックデイ事務局 | Research Promotion Division, Kyoto University
Tel: 075-753-6559 | E-mail: kenkyu-taisa@med.adm.kyoto-u.ac.jp

研究者の本棚
Bookshelves of Researchers
10:00-17:00

京都大学の研究者がオススメする本を紹介・展示しています。本をきっかけに、研究者と対話してみませんか？
What inspired our researchers?
Explore their recommended books displayed with their personal reviews.

http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/



■ 5-3-2. チラシ (A4 サイズ)

● オモテ面



京都大学 東洋学・言語学・文化学総合研究センター (GAMS=イノベータ)

京都大学 東洋学・言語学・文化学総合研究所

Photography: Tetsu Hiraga

Kyoto University
Academic Day 2019

京都大学 アカデミックデイ2019

研究について、研究者と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

それぞれのテーマに日々取り組む
約200人の研究者が参加します。
About 200 researchers will join
the event to introduce different
topics they are working on.

2019年9月15日(日) 10:00-16:00 ※但し、一部プログラムについては17:00まで実施
10am - 16pm, 15 September, Sunday, 2019 参加費：無料(申込み不要) | No charge/No registration required
京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館 | Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

主催：京都大学(学術研究支援室、研究推進部研究推進課、
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ)
後援：京都大学生協同組合

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and
Working Group for "Scientific and Technological Dialogues with the Public" at Kyoto University
Supported by: Kyoto University CO-OP

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>



国民との科学・技術対話
Kyoto University



<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

(出展研究者・テーマ詳細公開中)

京都大学アカデミックデイ 2019

Kyoto University
Academic Day 2019



PROGRAM



研究者と立ち話 Casual Chat with Researchers

10:00-16:00

約200名の多様な京大研究者による研究紹介です。ポスターの前にいる研究者に話しかけてみてください。

Please come talk with our researchers standing in front of their posters. They will directly explain what they are studying about.

50件



ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

Round-table Conversations with Researchers

10:30-12:00 | 13:00-14:30

ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、こんな話。お茶の間気分で、ほっこりお話ししましょう。

You can sit around a tea table with our researchers and enjoy free conversations to know what is going on behind their research.

8件



お茶を片手に座談会 Tea-time Dialogues with Researchers

14:00-15:30

私の《ムーンショット》？ それとも、私たちの《ムーンショット》？
Your "Moonshot"? Or Is It Our "Moonshot"?

自分が本当に欲しいものに気づくことって難しくありませんか？

「私がやって欲しい研究」「私たちにとって必要な研究」「研究者がやりたい研究」これらは違うのでしょうか。京都大学の若手研究者らが、一個人としてこれらの問いについて来場者と語り合います。

Isn't it difficult to realize what we really want?

Is there difference between what we want researchers to do, what we need from their research, and what researchers want to do? Young researchers at Kyoto University discuss what they think a "moonshot" is both as a layperson and a researcher.

登壇者

荒川敦史 | 科学技術振興機構：「科学と社会」の繋がりを実現したい／塩瀬隆之 | 京都大学総合博物館：科学技術への妄信を払拭して冷静な期待を育みたい／鈴木雄太 | 京都大学白眉センター（人間・環境学研究所）：タンパク質デザイナーとなって「バイオナノロボット」を創生したい／田中 祐理子 | 京都大学白眉センター（文学研究科）：「私たちの歴史」を理論・テクノロジー・人々の経験から辿りたい（順不同）



研究者の本棚 Bookshelves of Researchers

10:00-17:00

京都大学の研究者がオススメする本を紹介・展示しています。本をきっかけに、研究者と対話してみませんか？

What inspired our researchers? Explore their recommended books displayed with their personal reviews.

トーク企画「研究者、自著を語る」

'Talking about My Book'

最近、本を出版した研究者が、自著を片手に研究秘話を語ります！

11:00-12:00 池田さなえ（京都大学人文科学研究所）

『皇室財産の政治史：明治二〇年代の御料地「処分」と宮中・府中』

12:30-13:30 外山文子（京都大学東南アジア地域研究研究所／筑波大学大学院人文社会科学研究所）『21世紀東南アジアの強権政治——「ストロングマン」時代の到来』



研究について、研究者と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館
アクセス：市バス「京大正門前」から
東一条道を東に5分



お問い合わせ先 Contact Information:
京都大学アカデミックデイ事務局
Research Promotion Division, Kyoto University
Tel: 075-753-5659
E-mail: kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



5-3-3. 中吊り広告 (B3 サイズ)



京都大学 教員-聴能統合システム拠点 (iCaM8=アイセムス) 京都大学 東南アジア地域研究研究所

それぞれのテーマに日々取り組む約200人の研究者が参加します。
About 200 researchers will join the event to introduce different topics they are working on.

2019

Kyoto University
Academic Day 2019

京都大学アカデミックデイ

研究について、
研究者と語り合いませんか？

Do you want to talk
with our researchers and
know what they are
studying about?

2019年9月15日(日) 10:00-16:00 10am - 16pm, 15 September, Sunday, 2019
 京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館 | Kyoto University Clock Tower Centennial Hall
 参加費：無料 (申込み不要) | No charge/No registration required ※但し、一部プログラムについては17:00まで実施

PROGRAM

50名

研究者と立ち話
Casual Chat with Researchers
10:00-16:00

約200名の多様な京都大学の研究者による研究紹介です。ホスターの前にいる研究者に話しかけてみてください。
Please come talk with our researchers standing in front of their posters. They will directly explain what they are studying about.

8名

ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
Round-table Conversations with Researchers
10:30-12:00/13:00-14:30

ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、こんな話、お茶の間気分で、ほっこりお話ししましょう。
You can sit around a tea table with our researchers and enjoy free conversations to know what is going on behind their research.

8名

お茶を片手に座談会
Tea-time Dialogues with Researchers
14:00-15:30

私の《ムーンショット》？ それとも、私たちの《ムーンショット》？
Your "Moonshot"? Or Is It Our "Moonshot"?
自分が本当に欲しいものを見つけることって難しくありませんか？
Isn't it difficult to realize what we really want?

8名

研究者の本棚
Bookshelves of Researchers
10:00-17:00

京都大学の研究者がオススメする本を紹介・展示しています。本をきっかけに、研究者と対話してみませんか？
What inspired our researchers?
Explore their recommended books displayed with their personal reviews.

主催：京都大学（学術研究支援室、研究推進部研究推進課、
「産学と社会」・技術情報）・ウーキンググループ）
後援：京都大学学生協賛財団
Organizer: Research Administration Office, Research Promotion Department,
and Working Group for "Scientific and Technological Dialogues with the Public"
at Kyoto University
Sponsored by: Kyoto University CO-OP
お問い合わせ先: Contact Information:
学術研究支援室/学術情報課 Research Promotion Division, Kyoto University
TEL: 075-751-5511 | Email: ksu@wsl.wpi.kyoto-u.ac.jp

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

(出席研究者・
テーマ詳細公開中)




国民の科学・技術対話
Kyoto University

■ 5-3-4. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)

本年度もウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を利用して「京都大学アカデミックデイ 2019」の出展募集および集客を行いました。

● Web サイト

学術研究支援室 Web サイト

研究者と高校生・高専生グループ出展募集のほか、開催案内を「イベント案内」で告知しました。

- 出展研究者募集案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/160>
- 出展高校生・高専生グループ募集案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/call-for-presentation/491>
- 開催案内 : http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/office/kenkyu-suishin/ura/event/2019/190915_0935.html

京都大学「研究大学強化促進事業 (文部科学省)」ウェブサイト (K. U. RESEARCH)

京都大学アカデミックデイ専用ページを設置し、トップにハッシュタグ「#京大アカデイ 2019」がついたコメント等が流れるように設定しました。

京都大学アカデミックデイウェブサイト

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

また、出展研究についても、個別ページを作成しました。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2019/>

● SNS (Twitter、Facebook)

SNS は、Twitter の京都大学アカデミックデイ公式アカウントと、Facebook の K. U. RESEARCH アカウント、学術研究支援室の公式アカウントを用いました。開催日前日までは開催情報や出展情報などを告知し、開催日当日は主に Twitter を使って会場の様子を伝えました。

京都大学アカデミックデイ公式 (@KyodaiAcaDay) Twitter

<https://twitter.com/KyodaiAcaDay/>

Twitter では、ハッシュタグ「#京大アカデイ 2019」を活用し「研究者と立ち話」や「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「お茶を片手に座談会」の開催情報を、各研究の詳細ページと一緒に紹介しました。

また当日は、研究者と一般来場者の対話の様子をリアルタイムで発信し、ハッシュタグを利用して投稿された感想などの共有も行いました。

京都大学「研究大学強化促進事業 (文部科学省)」(K. U. RESEARCH) Facebook

<https://www.facebook.com/k.u.research>

ポスターやチラシの PDF 掲載、京都大学アカデミックデイ専用ページの情報等を掲載しました。また、Facebook でもハッシュタグ「#京大アカデイ 2019」を活用しました。

京都大学 学術研究支援室 (KURA Office) Facebook

<https://www.facebook.com/kuraoffice/>

学術研究支援室のアカウントでも、開催案内を行いました。

■ 5-3-5. その他の広報物

チラシやポスター、web だけでなく、様々なチャンネルで京都大学アカデミックデイを広報することを目的に、本年度は新規広報媒体として、しおりと京大生協カンフォーラのコラボデザートメニューを作成しました。

● しおり

附属図書館や京大生協ショップルネの関連企画（特設コーナー）ブース、また各京大生協の店舗でもしおりを配布しました。



● カンフォーラのコラボデザートメニュー

京大生協のカフェレストラン カンフォーラの期間限定メニューとして、京都大学アカデミックデイのロゴをあしらったコラボデザートメニューを期間限定で販売しました。

販売期間：2019/8/19～2019/9/15



6. 支援体制・準備スケジュール

6-1. 支援体制

京都大学アカデミックデイは、京都大学による「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。支援体制は以下の通りです。

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ委員

工藤洋	生態学研究センター	教授
楠見孝	大学院教育学研究科	教授
松田道行	大学院生命科学研究科	教授
喜多一	国際高等教育院	教授
藤原辰史	人文科学研究所	准教授
塩瀬隆之	総合博物館	准教授
元木環	情報環境機構／学術情報メディアセンター	助教
高橋裕幸	総務部渉外課	課長
榎本賢也	総務部広報課	課長
豆佐哲治	研究推進部研究推進課	課長
佐治英郎	学術研究支援室	室長

学術研究支援室（KURA）

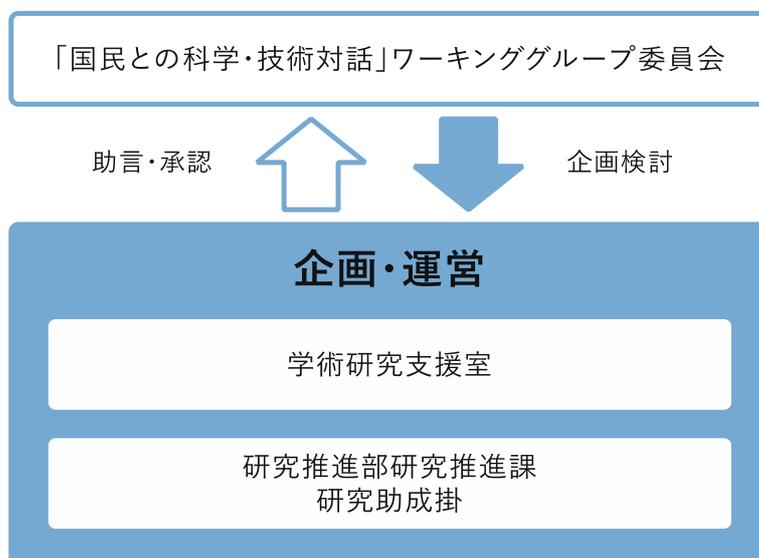
大西将徳	学術研究支援室	URA
白井哲哉	学術研究支援室	URA
神谷俊郎	学術研究支援室	URA
仲野安紗	学術研究支援室	URA
太田一陽	学術研究支援室	URA
西紋あかり	学術研究支援室	事務担当職員

研究推進部研究推進課

平田美穂	課長補佐
松本寛史	研究助成掛
富田麻貴	研究助成掛
近藤玲子	研究助成掛
藤井佳子	研究助成掛
武田美穂子	研究助成掛

6-2. スタッフリスト

企画	学術研究支援室 (KURA) 研究推進部研究推進課
デザイン (広報・サイン)	今泉真緒 (株式会社ダズ) 仲村健太郎 平賀哲 (カメラマン)
学生サポーター	有限会社関西教育考学 : 池畑伊織 (教育学部 4年) 大池理世 (工学部 4年) 後藤慶太 (大学院理学研究科 修士課程 2年) 富上恵里 (法学部 4年) 宮本明德 (大学院農学研究科 修士課程 1年) 山田将太郎 (大学院農学研究科 修士課程 2年)
学生アルバイト	今西勇文 (工学部 3年) 奥村雅浩 (経済学部 4年) 小林真弓 (大学院農学研究科 修士課程 1年) 新田莉菜 (医学部 4年) 長峰亮 (大学院農学研究科 修士課程 1年) 西淳一郎 (理学部 4年) 余田修助 (大学院理学研究科 修士課程 2年)
写真撮影 写真撮影補佐	大森貴生 永田奈緒美
監修	「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ



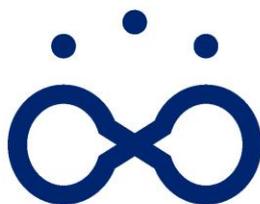
6-3. 準備スケジュール

2018年	5月	会場予約（百周年時計台記念館）	
2019年	1月 ～4月	ミーティング（前回振り返り、企画検討、ワーキング開催検討、スケジュール確認）	
	中旬	ワーキング開催（京都大学アカデミックデイ 2019の進捗確認・方針決定） 会場設営・託児業者連絡（日程確保） ミーティング（ワーキングでの意見の企画への落とし込み検討）	
	下旬	ミーティング（出展募集期間、募集説明会検討） 参加高校生・高専生グループ募集 ELCAS 連携打合せ	
	6月	月上旬	ミーティング（広報戦略、トーク企画、座談会内容検討） 出展者募集チラシ作成 参加研究者募集 チラシ・ポスターデザイナー打合せ、作成開始 生協連携打合せ
	中旬	ミーティング（出展者応募状況確認、広報戦略、トーク企画、座談会内容検討） 出展募集説明会①	
	下旬	ミーティング（出展者応募状況確認、広報戦略、トーク企画、座談会内容検討） 出展募集説明会② iCeMS 連携打合せ、カンフォーラコラボメニュー打合せ	
	7月	月上旬	ミーティング（チラシ内容検討、座談会進捗確認、出展者応募状況確認） チラシ・ポスター用、研究者・研究室写真撮影 渉外課連携打合せ
	中旬	ミーティング（出展区分決定、広報媒体検討、座談会進捗確認） 参加研究者募集締切 附属図書館連携打合せ	
	下旬	ミーティング（学生サポーター運用決定、ノベルティ検討） チラシ・ポスター納品・発送 参加研究者へ出展申込書送付 参加高校生・高専生グループ募集締切・審査・出展申込書送付	
	8月	月上旬	ミーティング（備品・配置、最終案内検討） 学生サポーター募集 座談会登壇依頼 参加研究者・参加高校生・高専生グループ出展申込書とりまとめ、ブース番号検討 ブックリスト作成開始 京都大学アカデミックデイ WEB 入力開始 会場サイン・当日プログラムデザイナー打合せ・作成開始
	中旬	会場サイン・当日プログラム原稿作成	
	下旬	出展者事前説明会開催	
	9月	月上旬	ミーティング（進捗最終確認） ブックリスト完成 京都大学アカデミックデイ WEB 入力完了 パンフレット・会場サイン・ノベルティ納品 中吊り広告掲示開始～14日（地下鉄・市バス）
	14日	前日設営準備	
	15日	京都大学アカデミックデイ 2019	

6-4. デザイン・制作物スケジュール

		出展募集チラシ	ノベルティ	開催チラシ ・ ポスター	会場配置案 ・ 会場サイン ・ 当日プログラム	来場者アンケート
2019年	5月 下旬					
	6月 初旬	作成・納品		作成		
	下旬			↓		
	7月 上旬			↓		
	中旬			↓		
	下旬		検討開始	入稿・印刷 (外部発注) 納品		
	8月 上旬		↓		作成	
	中旬		↓		↓	
	下旬		外部発注		↓	
	9月 上旬				↓	
中旬		納品		入稿・印刷 (外部発注) 納品	作成・納品	

京都大学アカデミックデイ2019



Dialog with the Public

『研究者の本棚』 ブックリスト



項目説明

ブックリストとは・・・京都大学研究者のオススメの本を紹介します。

※一部を除き、紹介した本は「研究者の本棚」で展示しています。

- ブース番号 出展者のブース番号
- 出展者等 ・出展区分
『研究者と立ち話(ポスター／展示)』
『ちゃぶ台囲んで膝詰め対話』
『お茶を片手に座談会』
『トーク企画「研究者、自著を語る」』
・出展代表者の所属・職名・氏名
- 出展タイトル 出展研究者の出展タイトル
- ジャンル ※今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本
※今ハマっている本(誰かとの本について話したい)
※若者にお勧めしたい本
※自分の研究に関連して紹介したい本の4つから選択していただきました。
- 書名／著者名／出版社名 オススメする本の書名／著者名／出版社名
- 推薦理由、コメント、エピソード等 オススメする理由、コメントなど
- 『書名』の横の★★ 『研究者の本棚』コーナーに展示あり



ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
1	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・教授 横川 隆司 「デバイス内で動き出す新しいイノチ」	今の仕事(研究、進路)を選ばなかった本	『Fundamentals of Microfabrication and Nanotechnology』 Marc J. Madou CRC Press	修士課程の時に留学したUCLAで教科書として使われていました。この本から、マイクロ・ナノの世界を体系的にとらえるようになりました。京大の大学院でも、このような英語の教科書でワールドクラスの講義ができるようになることを期待しています。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『小説東京帝国大学』 松本清張 筑摩書房	移動中など時間を見つけて清張作品を読むのが趣味です。単なる推理小説ばかりでなく、フィクションからノンフィクションまで昭和の間の部分や人間性についての描写が、日常の喧嘩を忘れさせてくれます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『生体分子モーターの仕組み』 石渡信一 共立出版	異分野の研究者がモータータンパク質(生体分子モーター)について学ぶのに最適です。日本の研究者が主導してきた、一分子生物物理学の分野からとらえたモータータンパク質についてわかりやすく書かれています。
2	研究者と立ち話(ポスター/展示) 国際高等教育院・准教授 金丸 敏幸 「意味から英語を組み立ててみよう!」	自分の研究に関連して紹介したい本	『「意味順」英作文のすすめ(岩波ジュニア新書)』★★ 田地野 彰 岩波書店	今回ご紹介する英語学習メソッドを易しく解説した本です。難しい文法用語を使わずに、日本語から英語を組み立てるといふ「意味順」のコンセプトが豊富な例文とともに紹介されています。
4	研究者と立ち話(ポスター/展示) 霊長類研究所・教授 明里 宏文 「人類はエイズを克服できるか?」	今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『はたらく細胞 BLACK』★★ 原田 重光 講談社	ストレス社会で不摂生を続ける現代人の体内で細胞たちが苦しみながらはたらく様はまさにブラック企業そのもの。ストレス下の体内の状況を学べるのはもちろん、自分への戒めにもなる一冊でした。
		今の仕事(研究、進路)を選ばなかった本	『ホットゾーン』★★ リチャード・プレストン 飛鳥新社	エボラウイルスのパンデミックの生々しい描写とそれに立ち向かう研究者の姿には心動かされます。
6	研究者と立ち話(ポスター/展示) 文学研究科・准教授 千葉 豊 「大学の地下から考える地域の歴史」	自分の研究に関連して紹介したい本	『通論考古学』★★ 濱田耕作 岩波書店	日本における体系的な考古学の概説書として、最初に刊行されたもの。1922年の出版から94年を経た2016年に文庫化。日本で考古学を学ぶ者は、必ず1度は目を通すことを求められる、ある意味「懐かしい」書籍。しかし、発掘調査や、遺跡・遺物の研究と活用を進めるうえでの知識と理念の基本が漏れなく説かれる本書は、時代を経て、科学技術がいかに進歩しようとも、繰り返し紐解かれるべき書籍であることがわかります。
7	研究者と立ち話(ポスター/展示) 学際融合教育研究推進センター・教授/教授 田中 庸裕/田中 功 「元素戦略プロジェクト」	自分の研究に関連して紹介したい本	『元素戦略』★★ 中山智弘 ダイヤモンド社	元素戦略プロジェクトのプログラムオフィサーが著した本で、「元素戦略」のねらいがよくわかる。
9	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・大学院生命科学研究科・教授 松田 道行 「ミクロな細胞と会話する光技術」	自分の研究に関連して紹介したい本	『みんなのArduino入門』★★ 高本 孝頼 リックテレコム	イタリア発で世界的に普及した汎用マイコンボードArduinoの入門書。コンピューターとArduinoが1台あれば安い部品と簡単な工作、初歩的なプログラミングで驚くほどの便利なおもちゃ、実用的な電子工作などが作れます。研究の現場でも使用中(佐藤)
10	研究者と立ち話(ポスター/展示) 白眉センター・大学院生命科学研究科・特定助教 林 真理 「テロメアから考える細胞のがん化」	今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『全国民が読んだら歴史が変わる 奇跡の経済学教室 [戦略編]』★★ 中野 剛志 ベストセラーズ	まずは前作の[基礎知識編]を読むほうがわかりやすいかと思えます。お金や経済について、テレビや財務省とは違う見解を与えてくれます。私にはこの本の内容のほうが正しく思えますが、ぜひ、経済について考えるきっかけとして読むことをお勧めします。研究費をめぐる財務省と大学のやりとりが不毛なものに思えてきます。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『目からウロコが落ちる 奇跡の経済学教室 [基礎知識編]』★★ 中野 剛志 ベストセラーズ	お金や経済について、テレビや財務省とは違う見解を与えてくれます。私にはこの本の内容のほうが正しく思えますが、ぜひ、経済について考えるきっかけとして読むことをお勧めします。研究費をめぐる財務省と大学のやりとりが不毛なものに思えてきます。興味がわいたら[戦略編]も是非。
		若者にお勧めしたい本	『ホモ・デウス(上)』★★ ユヴァル・ノア・ハラリ(著) 柴田裕之(訳) 河出書房新社	過去から未来まで全てのことが繋がっているという感覚を与えてくれる名著だと思います。上下巻、結構な分量ですが途中で止められず一気に読んでしまいました。若いうちに読んでおくとう世界観が広がるような気がします。
		今の仕事(研究、進路)を選ばなかった本	『The Answer』 鈴木 剛介 角川書店	自分は名前が「真理」なので、昔から真理について考えるのが好きなのですが、この本を大学生の頃読んで、自分の真理観、世界観は大きく変わりました。今でもこの本の世界観から抜け出せません。研究をやるきっかけになったというよりは、真理について、物事の本質について、考え続けるきっかけになった本です。

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
10	研究者と立ち話(ポスター/展示) 白眉センター・大学院生命科学研究所・特定助教 林 真理 「テロメアから考える細胞のがん化」	若者にお勧め したい本	『ゲーデル、エッシャー、バッハ あるいは 不思議の環 20周年記念版』★★ ダグラス・R・ホフスタッター 野崎昭弘(訳) 白揚社	大学生の頃、図書館で見つけて、ちょうどエッシャーにはまっていたので読み始めました。かなりの分量と難解さで、最初は途中で挫折しましたが、5年後くらいに自分で買い直して読みきりました。数学、言語記号、生命などを扱った名著だと思います。読んでいて著者は天才だと思いました。時間が沢山ある若いうちに読んでみてください。
11	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究所・教授 乾 晴行 「炎を制する一超耐熱構造材料」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『金属間化合物入門』★★ 山口正治、乾 晴行、伊藤和博 内田老鶴園	耐熱材料の中のエース、金属間化合物について平易に述べられている。
		今の仕事(研究、 進路)を選 ぶきっかけ になった本	『耐熱合金のおはなし』★★ 田中良平 日本規格協会	高温耐熱材料がいかにCO2削減、省エネルギーに寄与しているか、どのようにして材料設計が行われているのかなどについて初心者にもわかりやすく書かれた本で、非常に感銘を受けた。
		今ハマって いる本(誰か とこの本に ついて話 したい)	『元素戦略』★★ 中山智弘 ダイヤモンド社	「材料を制する者が世界を制する。」元素を原子スケールでマニピュレートすることで、これまでにない素晴らしい材料をいかに作り上げるかを考えさせられる。
13	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究所・教授 高橋 良輔 「疾患モデルの意義とその具体例」	今の仕事(研究、 進路)を選 ぶきっかけ になった本	『稀で特異な精神症候群ない状態像』 中安 信夫 星和書店	研修医の時に会った、不思議な症状を訴える患者さん。総合診療科のベテラン医師に相談しようやく候補に挙がった「不思議の国のアリス症候群」を調べるうちに会った本でした。人間の精神や脳というものはこれほど多彩な病状を示しうるのだという事に衝撃を受けた覚えがあります。私は脳という物理的な側面からアプローチしていくことを選び脳神経内科医となりましたが、精神科的な側面から見てももちろん興味深い一冊と思われます。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『脳の中の幽霊』★★ V・S・ラマチャンドラン 角川書店	中枢神経の障害によって生じる奇妙で興味深い症状の実例を挙げつつ、脳の不思議について紹介・解説されている一冊です。著者自身が神経科学者でもあります。どちらかと言えば心理学的な切り口かつ平易な表現で書かれており、医学的な専門知識が無くとも楽しく読むことができると思います。
		若者にお勧め したい本	『マリー・アントワネットの植物誌: ヴェルサイユ宮殿 秘密の花園』★★ エリザベット・ド・フェドー(著)、アラン・パロン(監修)、Elisabeth de Feydeau(原著)、Alain Baraton(原著)、川口 健夫(翻訳) 原書房	豪華絢爛な生活や散財で有名なマリー・アントワネットが収集させた世界中の植物が、美しいボタニカルアートと共に紹介されています。また、当時の植物学だけでなく、医学、香水学についても知ることができ、彼女の植物への愛も垣間見ることが出来ます。眺めるだけでも癒される、美しい本となっています。
14	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院地球環境学堂・日本学術振興会特別研究員(PD) (現: 東京大学教養学部附属教養教育高度化機構・特任助教) 原 裕太 「黄土高原で考える乾燥地の自然と暮らし」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『中国の水土流失 史的展開と現代中国における転換点』 松永光平 勁草書房	中国史を、自然環境の変化や環境政策の変遷から読み解くと、新たな事実が浮かび上がってくる。本書はまず、黄土高原における砂漠化の原因が、人間活動なのか気候変動なのか、を地形に注目して議論を進める。さらに、現代の風景をつくりあげた砂漠化と、その対処の歴史を、中国国内の研究成果も踏まえて網羅的に紹介する。黄土高原の環境史、地形学を専門とする著者の研究成果をまとめた一冊。
15	研究者と立ち話(ポスター/展示) 学際融合教育研究推進センター・研究員 井出 和希 「研究(者)倫理の今: ハゲタカって何?」	今ハマって いる本(誰か とこの本に ついて話 したい)	『ウォークス 歩くことと精神史』★★ レベッカ ソルニット 左右社	日々歩くこと、あたりまえを深く考える
		若者にお勧め したい本	『学問からの手紙: 時代に流されない思考』 ★★ 宮野 公樹 小学館	いわゆる「研究成果」とは何なのか、その根拠を問う
18	研究者と立ち話(ポスター/展示) IPS細胞研究所・准教授 Knut Woltjen 「合成生物学で、世界をよりよい場所に!」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『ゲノム編集の衝撃「神の領域」に迫るテクノロジー』★★ NHK「ゲノム編集」取材班 NHK出版	最近大きな話題の「ゲノム編集」について、最前線の情報をまとめた本です。
		今ハマって いる本(誰か とこの本に ついて話 したい)	『合成生物学の衝撃』★★ 須田 桃子 文藝春秋	合成生物学のはじまりから現状まで、多くの研究者に取材しています。iGEMのはじまりについても紹介されています。クレイグ・ヴェンターによる「人工的に作成された細菌」の話など、まるでSFですがすべて現実です。
20	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院エネルギー科学研究科・助教 数塚 武史 「哺乳動物の体を支えるアパタイトの科学」	今の仕事(研究、 進路)を選 ぶきっかけ になった本	『医学生』★★ 南木佳士 文藝春秋	著者が秋田大学医学部で実際に医学生だったころをモチーフにして書いたとされる名作中の名作。今にして思えば、本書が医学のお手伝いをする「生体材料学」という分野を志すきっかけの一つだったように思います。エリート養成機関が舞台の話にしては実に泥臭く、切ないエピソードが満載です。人の命をあずかる仕事に就くことの大変さが、内臓をえぐられるかのようなリアルな筆致で描かれています。

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
20	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院エネルギー科学研究科・助教 数塚 武史 「哺乳動物の体を支えるアパタイトの科学」	今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『土を喰う日々:わが精進十二月』★★ 水上 勉 新潮社	少年時代、禅寺で育てられた筆者が、軽井沢の職場の片隅で畑を耕す中で、四季折々の収穫の喜び、そして心のこもった料理について、まるで土に語りかけるような滋味に富む名文で綴った一冊。
		若者にお勧めしたい本	『世界で一番美しい化学反応図鑑』★★ セオドア・グレイ(著)、ニック・マン(写真)、 若林文高(監修)、武井摩利(訳) 創元社	ベストセラー「世界で一番美しい元素図鑑」「世界で一番美しい分子図鑑」シリーズの続編。本書では物質の化学反応に焦点を当てており、分子はなぜ結合するのか、モノに光を当てるとどうなるのか、さらには水はどのように沸騰していくのかなど、身近な化学現象をカラフルな写真とともにわかりやすく教えてくれます。
		若者にお勧めしたい本	『完全図解 元素と周期表 新装版(ニュートン別冊)』★★ ニュートンプレス ニュートンプレス	日本発祥の新元素「ニホニウム」も掲載されている本書は、化学の基本からそれぞれの元素の特徴、化学物質と日常生活とのかわりについて、膨大な数のイラストを用いてわかりやすく答えてくれます。本書に限らず、写真入りの化学書は実に楽しく、社会人の方や受験生だけでなく、小中学生の皆さんにもおすすめです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『人類を変えた素晴らしい10の材料:その内なる宇宙を探索する』★★ マーク・ミーオドニック(著)、松井信彦(翻訳) インターシフト	医療、情報、電気、食生活、交通、…私たちは普段何の疑問もなく最新の科学技術を楽しみながら日常生活を送っておりますが、それらを根幹で支えているのが「材料」の技術です。本書では鋼鉄、ガラス、紙、プラスチックなど、陰ながら私たちの生活を支えている10の材料にまつわるエピソードがまとめられています。なお第10章では、高齢者の生活を支援するインプラントについて語られています。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『ヴィジュアルでわかるバイオマテリアル 改訂第3版』★★ 古蘭 勉、岡田正弘 学研メディカル秀潤社	現在臨床で使用されているプラスチック系生体材料、セラミック系生体材料、金属系生体材料のほぼすべての説明がカバーされています。実際の医療現場で使用されている生体材料が写真入りで数多く紹介されています。お医者さんがどのような道具を使って我々の身体を治してくれているのかを知ることが出来ます。
21	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・教授 米田 稔 「放射能と共に生きる！」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『エネルギー・環境・社会 第2版 現代技術社会論』★★ 京都大学エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻 丸善出版	この本は、エネルギー・環境問題、事故災害、リスクについて、京都大学の教員が自身の研究を絡めて、一般向けに解説をしている本です。専門用語など極力排除して書かれているため、専門外の方でも理解しやすい内容になっています。
		若者にお勧めしたい本	『生態環境リスクマネジメントの基礎』★★ 浦野 紘平、松田 裕之 オーム社	生態系保全、地域の自然環境保全のためのアセスメントを行う上で必要な知識を、初学者にもわかりやすく解説している良書です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『土壌汚染 フクシマの放射性物質のゆくえ』★★ 中西友子 NHK出版	この本が出版されてから6年が経ちますが、土壌や農産物の放射能に関する調査研究結果が詳しく書かれており、放射能との向き合い方を考えるきっかけとなる1冊になっています。放射能とは何か、その影響や自然放射線についてもわかりやすく記載されているので、読んでみてください。
23	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院理学研究科・教授 田中 真浩 「重力波物理学・天文学:創世記」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『学研の図鑑 宇宙』★★ 学研の図鑑 宇宙 学研マーケティング	宇宙すげー、ロケット格好いいなあ。小学校の理科の授業での太陽観測と合わせて、非常に刺激になった。天文ガイド(誠文堂新光社)を買うようになり、下手な天体写真を撮るようになった。
		若者にお勧めしたい本	『科学者という仕事』★★ 酒井邦嘉/中央公論新社 中央公論新社	研究者や業界について様々なことが書いてあり、研究者を目指す人にお勧めしたい本。今でも定期的に読み返す。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『深化する一般相対論』★★ 田中真浩/丸善出版 丸善出版	重力波の直接検出を始め一般相対論生から様々な研究の発展や今後の展望がまとめられている
		自分の研究に関連して紹介したい本	『重力波の源』★★ 柴田大、久徳浩太郎/朝倉書店 朝倉書店	重力波観測によって近い将来検証し得る様々な天体現象について、最新の理論研究に基づいて紹介されている。
25	研究者と立ち話(ポスター/展示) 環境安全保健機構附属環境科学センター・准教授 平井 康宏 「合板の接着剤を1/20に減らす」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『限界を超えて - 生きるための選択』 ドネラ・H. メドウズ、ヨルゲン ランダース、 デニス・L. メドウズ ダイヤモンド社	1972年のローマクラブ報告書「成長の限界」の続編で、地球サミットのあった1992年に邦訳版が出版された本です。当時高校3年生だった私は、それまでの世界観が崩壊するほどの、新鮮な衝撃を受けました。
29	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院薬学研究科・教授 掛谷 秀昭 「自然に学ぶ薬づくり」	自分の研究に関連して紹介したい本	『くすりをつくる研究者の仕事』★★ 京都大学大学院薬学研究科 化学同人	薬づくりに関して、化学系、生物学系、物理系、医療系など、多角的視野からわかりやすく解説している入門書

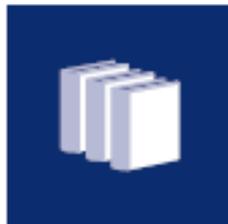
ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
29	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院薬学研究所・教授 掛谷 秀昭 「自然に学ぶ薬づくり」	自分の研究に関連して紹介したい本	『入門ケミカルバイオロジー』 入門ケミカルバイオロジー編集委員会 オーム社	ケミカルバイオロジーに関する中高生以上を対象にした入門書
		若者にお勧めしたい本	『栄光なき天才たち、続栄光なき天才たち、その後のシリーズ』★★ 集英社	歴史の偉人に関する知られざるエピソードが記載され興味深い。漫画形式なので、小学生高学年から興味が持てるのでは。
30	研究者と立ち話(ポスター/展示) 経営管理研究部・特定研究員 伊藤 智明 「起業家活動の舞台裏」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『企業者ネットワークの世界:MITとボストン近辺の企業者コミュニティの探求』 金井 壽宏 白桃書房	本書の終盤で「原初的狀態のリマインダー」が提示される箇所は、研究者が探究の先で何を提供できるか、を暗示しているように思っています。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『驚くべき乳幼児の心の世界:「二人称的アプローチ」から見えてくること』★★ ヴァスデヴィ・レディ ミネルヴァ書房	乳幼児が注目に応答していると捉えるか、もしくは、応答していないと捉えるかで、もの見方が転換するのはなぜなのか、興味が尽きません。
		若者にお勧めしたい本	『知的生産の技術』★★ 梅棹 忠夫 岩波書店	探究の道具として使いやすいです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『3月のライオン』★★ 羽海野 チカ 白泉社	第5巻では、人が人を助けるとはどういうことか、を考えさせられます。
31	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・教授 佐藤 俊哉 「臨床試験を科学するー臨床統計学」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『宇宙船ビーグル号の冒険』★★ A・E・ヴァン・ウォーク 東京創元社	「ネクシャリスト」とはあらゆる科学の領域について広く浅い知識を持つ専門家、プライドの高い各領域の専門家の意見を理解し調整し問題解決を行う、ウォークが想像した科学の専門家です。臨床統計家は医療に関する幅広い知識と臨床統計学の深い専門性を持ち、臨床試験に関わる様々な職種とコミュニケーションを取って課題を解決しています。専門性もあわせ持った、まさに進化した医療のネクシャリストとっていいでしょう。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『統計学を拓いた異才たち』 デイヴィッド・ザルツブルグ 日本経済新聞出版社	今年3月、アメリカ統計協会はさまざまな領域での検定やP値に関する誤解・誤用をなくすため、学会誌のeditorialで「Don't say "statistically significant" (『統計学的に有意』は使わない)」と宣言しました。本書ではその検定が生まれた背景が多くのエピソードとともに語られています。特に「significant」という英語の意味が、検定の生まれた当時と現在で変わった(10章)、は衝撃的でした。登場する多くの統計家はbiostatisticiansであり、現在の臨床統計家の源流となった研究者です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『直観を裏切る数学』★★ 神永正博 講談社	ものごとを判断する上で直観を信じて行動することはある程度重要ですが、時には直観が全く機能しないこともあります。そんな時に数学を用いて如何に真実を見極めるか、を例を用いて優しく解説している一冊です。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『みなか先生といっしょに統計学の王国を歩いてみよう』★★ 三中信宏 羊土社	データ解析の講義をする際「数式をどの程度用いるか」は大きな課題です。数式で「正確な」理解をして欲しい気持ちと、直感的な説明で「本質部分を」理解して欲しい気持ちの間で、いつも葛藤しています。本書は、数式の重要性を十二分に理解されている著者が、「現在利用されている統計理論の根幹はすべて直感的に理解できるし、まずはそれをめざすべき」というスタンスで書かれており、講義のバランスを考える際に重宝しています。
33	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院理学研究科・日本学術振興会特別研究員(PD) 小原 脩平 「素粒子から探る物理の世界」	若者にお勧めしたい本	『ご冗談でしょうファインマンさん』★★ リチャード・P・ファインマン 岩波書店	かの有名な物理学者ファインマンの残した自著でユニークな人柄が分かります。高校生以上の方にはファインマンの講義をおこなした「ファインマン物理学」もオススメです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『不思議宇宙のトムキンス』★★ ジョージ・ガモフ他 白揚社	一般の方向けに平易に書かれた本で、主人公トムキンスが不思議な物理学の世界を放していく、非常に読みやすい本。
34	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・教授 伊佐 正 「脳を読み取り、脳を活かす」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『認知哲学ー脳科学から心の哲学へ』★ ポール・M・チャーチランド 産業図書	「脳はどうやってものを物を見ているの?」「体を動かすにはどんな神経回路が必要なの?」難しい問題にもかかわらず、シンプルな神経ネットワークモデルを用いてとてもわかり易く解説している。すでに20年前の発刊であるが、今流行りのAIにもつながる内容であり、今こそみんなに読んでもらいたい一冊である(医学研究科・武井)。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『計算論的神経科学: 脳の運動制御・感覚処理機構の理論的理解へ』★★ 田中宏和 森北出版	出来上がった学問があるから教科書ができるのではなく、知を体系的にまとめたバイブル的教科書ができることで学問が生まれるものだと思います。この教科書は運動制御の神経科学研究について計算理論からそのハードウェアまで現時点での最新の知見が体系的にまとめられています。これから運動制御の神経科学研究を始める人はもちろん、現役研究者でもう一度体系的に学びたい人にとって必読の書です。(医学研究科・武井)

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
36	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院文学研究科・研究員 大庭 弘継 「学問が取り組む《究極の選択》?」	自分の研究に関連して紹介したい本	『資料で読み解く「保護する責任」—関連文書の抄訳と解説—』 中内政貴、高澤洋志、中村長史、大庭弘継編	遠く離れた地域で苦しむ見知らぬ人々に対して私達は何をすべきか—この一見素朴な問いに、研究者は頭を悩まし続け、政策決定者は試行錯誤を重ねてきました。そうした模索から生まれ賛否両論を巻き起こしているのが、本書の扱う「保護する責任」という概念です。皆冷戦終結後の四半世紀に繰り広げられてきた議論の軌跡を、この資料集で確認してみてくださいと思います。全120の資料に翻訳・解説付きです。
39	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院農学研究科・准教授 渡邊 哲弘 「農業って、環境に優しいの?」	自分の研究に関連して紹介したい本	『土とは何だろ?』★★ 久馬 一剛 京都大学学術出版会	「砂漠化」や「土壌劣化」などの言葉がしばしば聞かれるように、自然と人や生き物の営みが見事にバランスされることで育まれた「土」が、今、危機に直面している。「土」の性質や働きを学びながら、21世紀の自然と人の関わりの在り方について考える。
40	研究者と立ち話(ポスター/展示) 学際融合教育研究推進センター・准教授 宮野 公樹 「勉強思考、研究志向、学問思考。」	自分の研究に関連して紹介したい本	『学問からの手紙—時代に流されない思考—』★★ 宮野公樹 小学館	大学1、2年向けの講義を分かりやすくした書きお下ろし。学問とは何か、大学とは何かに応える書
		自分の研究に関連して紹介したい本	『フューチャー・オブ・マインド 心の未来を科学する』★★ ミチオ・カク NHK出版 NHK出版	科学エンターテインメントとして一つの枠を越えているから
		自分の研究に関連して紹介したい本	『世界文明史の試み - 神話と舞踊』★★ 山崎 正和 中央公論新社 中央公論新社	みよ! この絹のように滑らかな文章!
41	研究者と立ち話(ポスター/展示) 医学部附属病院・特任准教授 佐藤 恵子 「これなら安心? 細胞・情報を使う研究」	自分の研究に関連して紹介したい本	『不死細胞ヒーラ ヘンリエッタ・ラックスの永遠なる人生』 レベッカ・スクルト(著)、中里 京子(翻訳) 講談社	医学研究には不可欠な「ヒト由来の細胞」ですが、その細胞を巡るノンフィクションです。ヒトの細胞を使う研究者にはぜひ一読してほしい作品。一市民としては、研究現場の一面を知ることができる作品。いずれの立場からも、細胞を使う研究はどうあるべきか、を考えさせられると思います。
		若者にお勧めしたい本	『マンガで学ぶ生命倫理: わたしたちに課せられた「いのち」の宿題』★★ 児玉聡 文、なつたか 漫画 化学同人	再生医療やら脳死臓器移植やら、「夢の医療」などと報道されるけど、そんなにバラ色なの? そもそも、脳死ってなんだっけ? 生き死にの問題は、身近なことであり自分で考えなくてはならないのですが、難しいし辛気くさいし、ハードルが高いですね。この本は、女子高生の日常を軸にして、脳死や生殖医療、クローン技術など、生命倫理の問題を学びつつ、考えられるように工夫されています。是非手にとってみてください。
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『現代倫理学入門』★★ 加藤尚武 講談社	学部生のときに読んで倫理学を学ぶことになりました。現代の社会的問題を考える上で哲学が重要であることを教えてくれる本です。
		今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『137億年の物語: 宇宙が始まってから今日までの全歴史』★★ クリストファー・ロイド 文藝春秋	地球が誕生して、生物が生まれ、人間が出現して、文明も争いも起り...という物語が「続き物」として語られています。ページを開くだけで時空を超え、好きな時と場所に旅ができる、とても素敵な本です。
42	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院情報学研究科・教授 湊 真一 「社会に貢献する最先端アルゴリズム技術」	自分の研究に関連して紹介したい本	『超高速グラフ列挙アルゴリズム—(フカシキの教え方)が拓く、組合せ問題への新アプローチ—』★★ 湊真一(編)、ERATO 漢数散構造処理系プロジェクト(著) 森北出版	最先端のアルゴリズム技術について解説しています。
43	研究者と立ち話(ポスター/展示) 高等研究院・拠点特定准教授 王 丹 「シナプス活動と遺伝情報」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『精神と物質』★★ 立花隆(利根川進インタビュー) 文藝春秋	脳は物質ですが、精神がそこに宿ります。脳研究で精神を理解した先駆者が語る分子物理学のパワー
		若者にお勧めしたい本	『理系のアナタが知っておきたいラボ生活の中身 バイオ系の歩き方』★★ 野地 澄晴 羊土社	人類を変える発見はラボから生まれることがしばしば。どんな場所か案内してくれる本
		若者にお勧めしたい本	『マウス実験の基礎知識』 小出 剛 オーム社	マウスが脳研究の中でもっとも使われているモデル動物です。とても賢くて可愛らしく、そして、脳研究を支える巨人です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『ヴィジュアル版 脳の歴史』★★ カール・シュノーヴァー 河出書房新社	11世紀イスラムの絵画から最新のMRIグラフィックまで科学的証明と芸術作品の両面から見る脳を描き出した歴史
		今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『脳にいい食事大全』★★ ミシェル・ショーフロ・クック ダイヤモンド社	脳神経細胞に食べ物プラスすることで起きる化学反応を医学的/栄養学的の各方面から発想させてくれる本

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
45	研究者と立ち話(ポスター/展示) ウイルス・再生医学研究所・特定研究員 曾我部 舞奈 「細胞たちのホームムービー撮影係」	若者にお勧めしたい本	『アリエナイ理科の教科書』 薬理凶室 三オブックス	中・高校生で。理系科目に興味があって、少し人と変わったこと したいから読んでみようという人にはぴったりだと思います。
		今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『歴史は「べき乗則」で動く』★★ マーク・ブキャナン 早川書房	社会現象から生命現象様々な現象が「べき乗則」というある法則 に則っている、という内容です。私たちはサイエンスと歴史、文化 を分けて考えてしまいがちなのですが、これを読むと自己組織的 臨界がどういうことで、それはあらゆるもの間に見て取れると いうことを知ることができます。
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『動物のお医者さん』★★ 佐々木倫子 白泉社	獣医師を進路に選んだ理由です。実際に獣医師になってみて、 漫画の中に出てきたイベントがほぼ実際に存在していたことに驚 きました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『人体～神秘の巨大ネットワーク～』★★ NHKスペシャル「人体」取材班 東京書籍	人体の中の不思議を映像を駆使して明らかにしていく、画期的な 内容です。CGだけでなく実際の顕微鏡で得られた画像も掲載さ れており、とても華麗です。
46	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【午前:10:30~12:00】 大学院医学研究科・日本学術振興会特別研究員(RPD) 野田 智美 「脳画像からみる摂食障害のこころ」	若者にお勧めしたい本	『脳の中の幽霊』★★ V・S・ラマチャンドラン、サンドラ・ブレイク スリー 角川書店	脳の損傷や遺伝的変異により心や行動に奇妙な影響が生じて いる患者を研究するという方法で、心、知覚、意識、芸術性、自 己認識などを脳科学的に説明していく。幻肢痛、共感覚、美と脳 など魅力的な題材に満ちています。
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『社会化した脳』 村井俊哉 エクスマレッジ	脳について右も左も分からなかった時に読んで衝撃を受けた本 です。それまで心理尺度を使った研究しかしたことがなかったの ですが、この本がきっかけで本気で脳の研究がしたいと思うよ うになりました。実はこの本の著者はうちの研究室の教授です！
		自分の研究に関連して紹介したい本	『マインドフルネス 基礎と実践』★★ 貝谷久宜、熊野宏昭、越川房子 日本評論社	マインドフルネスに関する概念、研究、実際の臨床への応用まで 幅広く網羅している本です。特にマインドフルネスによって変化 する神経基盤が分かりやすくまとまっています。読みやすいです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『みんなで学ぶ過食と拒食とダイエット』★ 池田信夫 星和書店	摂食障害は、ダイエットが発症の契機になることもあり、決して珍 しい病気ではありません。病気の予防や回復には正しい知識を 得ることが重要です。摂食障害の疫学や症状の説明、患者さん や周囲の人々が気をつける点がわかりやすく記されています。
47	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【午前:10:30~12:00】 福井謙一記念研究センター・リサーチフェロー 柳 茂好 「化学と理論と計算化学」	若者にお勧めしたい本	『現代化学史:原子・分子の科学の発展』 ★★ 廣田 襄 京都大学学術出版会	現代の化学の歴史をわかりやすく書いている。とくに、化学はミ クロな世界の出来事ですが、それを知るためには量子化学が必要 です。そのような観点から化学の歴史が書かれており、面白 く読めると思います。
49	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【午後:13:00~14:30】 大学院人間・環境学研究科・教授 立木 秀樹 「イマジナリーキューブ・パズル」	自分の研究に関連して紹介したい本	『正多面体を解く』★★ 一松 信 東海大学出版会	多面体の中にこれだけ面白い構造があることを、一般の人にも 分かりやすく、また、数学的に曖昧にすることなく書かれているこ とに感銘を受けました。
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『岡潔—日本のこころ』 岡 潔 日本図書センター	日本を代表する数学者のエッセイ。生きるとはどういうことか、考 えさせられました。
50	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【午後:13:00~14:30】 大学院医学研究科・講師 魚住 龍史 「くすりの効果を評価する:統計学の研究」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『学会・論文発表のための統計学—統計 パッケージを誤用しないために』★★ 浜田 知久馬 真興交易医書出版部	私が学部生のときに読んで、医療統計学を学びました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『生存時間解析 応用編:SASによる生物 統計』★★ 大橋 靖雄、浜田 知久馬、魚住 龍史 東京大学出版会	私も共著者として執筆した本です。本日の研究に関連したトピ ックも網羅されています。生存時間解析に従事する実務家を目指 す方にとって有益な1冊であると確信しています。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『宇宙怪人しまりす医療統計を学ぶ』★★ 佐藤 俊哉 岩波書店	本学の医学研究科の先生が執筆された本です。私の研究では、 「生存率」「死亡率」といった統計用語を取り扱うことになりま す。それらの用語の定義を再考するきっかけにもなります。医療 統計学を学習する方が読むべき1冊といえます。
51	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【午後:13:00~14:30】 人文科学研究所・研究員 芹澤 隆道 「敗者の視点から歴史を見る」	自分の研究に関連して紹介したい本	『三つの新体制』★★ W. シヴェルプシュ 名古屋大学出版会	アメリカのニューディールとドイツのナチズムの共通性をあぶりだ した野心的著作。経済的危機によって左派勢力と右派勢力が融 合し、全体主義的な体制が構築される。現在のグローバル資本 主義と世界各地で権力を振るう独裁者の相関性にも適用可能。

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
トーク企画「研究者、自著を語る」 人文科学研究所・助教 池田 さなえ	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『伊藤博文と明治国家形成—「宮中」の制度化と立憲制の導入』 坂本一登 講談社	本書では、濃厚にキャラ立ちした一筋縄ではいかない明治政府の政治家たちとの駆け引き、明治10年代に政治主体として成長してきた「宮中」との攻防の中で、苦悩しながら内閣制度創設・明治憲法制定という大業を成し遂げた伊藤博文の姿を軸に明治政治史が描かれます。高度に緻密な実証を葆ちつつ、人間ドラマとしての面白さもある。このようなものが書けたらなあと思いつつながら研究を進めてきました。	
	今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『歴史は現代文学である』★★ イヴァン・ジャブロンカ著、真野倫平訳 名古屋大学出版会	「歴史研究者も文学的文章を書きたいし、書くべきだ」こんなことを考えるのはタフーだと思っていました。その思いを胸に秘めたまま、自分が異端者のように感じながらも、「いつかできないか」「どうすればできるか」と思いながら研究を続けてきましたが、昨年、その問いにド直球で答えをくれる本が日本にもやってきました。私の問いは既にこの人が抱き、答えを出して！とにかかすごい。	
	今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『物語の役割』★★ 小川洋子 筑摩書房	「推薦図書1」で紹介した坂本先生からお勧めいただいた一冊です。歴史叙述と文学性についてあれこれ考えていた中で、坂本先生とも意気投合し、その際にこの本を教えてくださいました。ジャブロンカ『歴史は現代文学である』とも通じますが、作家・小説家の営みが意外に歴史学の方法と近いことを実感させられ、歴史学の新たな可能性を考えさせられました。	
	若者にお勧めしたい本	『進撃の巨人 1〜29巻』★★ 諫山創 講談社	言わずと知れた名作。唐突のように投げ込まれる年号が物語の中で重要な意味を持っていること、「巨人」というよくわからない生き物を「調査」する兵団、彼らを動かす歴史への問い(調査兵団団長の父は歴史の教師であった)、記憶の改ざん、歴史認識をめぐる国と国との根深い争い、物語の鍵を握る人物「ヒストリア」—この作品は「歴史」を一つの重要なテーマとしていることが一目瞭然です。歴史を考える良書です。	
	自分の研究に関連して紹介したい本	『皇室財産の政治史—明治二〇年代野御料地「処分」と宮中・府中』★★ 池田さなえ 人文書院	歴史学の学術的水準と文学性を両立させるといふ一つの試みの、とりあえずの帰結です。一度は破れた夢をいつまでもおいかけてい「やじ」(品川弥二郎)、自らの知識や経験を实地に活かしたい技術官僚たち、「宮中」の自律性を保ちたい宮内官僚たち、彼らの中でフィクサーとなりながらその時々政治的必要性によって動く政治家たち—彼らのうごめきや人間模様をこそ、見ていただきたい！	
トーク企画「研究者、自著を語る」 東南アジア地域研究研究所・連携講師 外山 文子	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『民主化の虚像と実像—タイ現代政治変動のメカニズム』★★ 玉田 芳史 京都大学学術出版会	修士課程および博士課程でお世話になった恩師の著作であり、自分が博士論文を仕上げ、初の単著を執筆するまで傍らに置いてきた作品。1990年代から2000年代初頭のタイ政治を理解するための必読の本。	
	今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『ポピュリズムとは何か』★★ ミュラー・ヤン=ヴェルナー 岩波書店	世界的に政治指導者のポピュリズムが目ざされているが、ポピュリズムが何を意味するのか、なぜ非難されるのかについて曖昧なままに用語が独り歩きしている。ポピュリズムのもつ危険性について鋭く切り込んだ名著	
	若者にお勧めしたい本	『アジア冷戦史(中公新書)』★★ 下斗米 伸夫 中央公論新社	今の大学生たちにとっては、冷戦とは遠い昔のことだろう。しかし、21世紀のアジア政治を理解するうえで、冷戦期の国際情勢が各国に残した傷跡を無視することはできない。過ぎ去った過去のことと片付けずに、改めて冷戦について学んでもらいたい。	
	自分の研究に関連して紹介したい本	『21世紀東南アジアの強権政治—「ストロングマン」時代の到来』★★ 外山 文子ほか 明石書店	東南アジア政治に関する教科書は多数出版されているが、21世紀の東南アジア政治について包括的に分析を試みた著作はあまりなかった。本書は世界的注目を集める強権的政治指導者の登場に焦点を当て、彼らを通して各国の政治構造を明らかにしようと試みた意欲作。	
お茶を片手に座談会 白眉センター・文学研究科・特定准教授 田中 祐理子	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『正常と病理』★★ ジョルジュ・カンギレム著・滝沢久訳 法政大学出版局	健康と病気、正常と異常、規範と逸脱といった概念を、私たちは固定された本来的なものに信じているのではないかと私たちが生きる姿を眺める新しい視点を与えてくれる本です。	
	今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『アラン定義集』★★ アラン著・神谷幹夫訳 岩波書店	近年『幸福論』が話題のアランですが、その次の一冊としてぜひ読みたい一冊です。20世紀前半を生きた哲学者が、「科学的に考える」ということ、もうひとつの可能性を現代の私たちに教えてくれる本です。	
	若者にお勧めしたい本	『エルサレムのアイヒマン—悪の陳腐さ』★★ ハンナ・アレント著・大久保和郎訳 みすず書房	若い人にはアレントの本ならどれでも読んでほしい。そのあと、彼女の生涯についても知ってほしい。どうやって彼女が第二次大戦期のヨーロッパを生き延び、そして戦後のアメリカで生き続けたのか。それをたゆまずに求め、そのために行動し続けなくては、理性的な近代型社会などいつでも崩壊するのだという事実をこれだけしっかり受け止め、後世に教えてくれたひとはいない。	

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
	お茶を片手に座談会 白眉センター・文学研究科・特定准教授 田中 祐理子	自分の研究に関連して紹介したい本	『病む、生きる、身体の歴史—近代病理学の哲学』★★ 田中祐理子 青土社	すみません、今年の春にこのような本を出したので紹介させていただきます。病気と身体について、長い歴史を通じて人間はどう考えてきたのか？を探ってみました。
	お茶を片手に座談会 総合博物館・准教授 塩瀬 隆之	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『デザインの知恵 情報デザインから社会のかたちづくりへ』 須永剛司 フィルムアート社	我が国に情報デザインの教育課程を体系的に整備した第一人者による渾身のテキスト。人工知能研究や認知科学研究が注目を集めた当時、形のない情報に対して「デザイン」の概念を先鋭的に持ち込んだそのプロセスが詳細に描かれている。
今ハマっている本(誰かとの本について話したい)		『「想い」と「アイデア」で世界を変える』★ ★ 中台 澄之 SBクリエイティブ	モノが自由に捨てられない時代のものづくりを考えるきっかけになった本。中国の廃プラスチック輸入禁止を契機に、隣の国にゴミを捨てるという不完全なサイクルの問題が浮き彫りになり、根底からものづくりを考え直さないといいない。	
若者にお勧めしたい本		『まなざしのデザイン』★★ ハナムラチカヒロ NTT出版	ものごとをとらえるのは「まなざし」である。どのような観点から物事をとらえるか、そのお互いの観点をいかに視線を合わせいか、風景異化という概念を提案しながら読者を誘う著者自身のデザインの仕掛けが散りばめられた書籍。	
自分の研究に関連して紹介したい本		『インクルーシブデザイン』★★ ジュリア カセム、平井 康之、塩瀬 隆之ほか 学芸出版社	多様な人がありのままいることができる豊かなインクルーシブサイエティを実現するにあたって、日本に持ち込まれたデザイン手法の入門書。第一人者のジュリアカセム氏、平井康之氏を筆頭に、その概念が生まれた背景から具体的な手法まで網羅されている。	
	お茶を片手に座談会 白眉センター・人間・環境学研究科・特定助教 鈴木 雄太	今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『はたらく細胞』 清水 茜 講談社	体の中でそれぞれの細胞がどのような働き・役割を果たしているのか、を擬人化した作品。病原体などが怪人化・モンスター化され、細胞との攻防戦を繰り広げる。複雑な体内の仕組みを分かりやすく描かれているため、容易に理解することが出来ます。覚えることが多くて、細胞生物学はとっつきにくいと考えている人にオススメです。(特に漫画よりアニメがオススメです！)
今ハマっている本(誰かとの本について話したい)		『Dr. Stone』★★ ★ 稲垣 理一郎 集英社	世界中全ての人類が一瞬で石化される。その数千年後、運よく復活した主人公たちが原始化してしまった世界において、ゼロから現代の文明まで作ってしまおう！+石化の謎を解明し人類を復活させよう！という壮大なSF科学漫画。中学・高校で学んだことのある多くの化学が出てくるので、一度化学を学んでいる人にはなんとなく懐かし、まだ学んでいない嫌いで何も覚えていない人も化学ってすごい！と思える一冊。ここ最近、特に飛躍しすぎている気もしくもないが面白いので問題なし！?	
若者にお勧めしたい本		『キングダム』★★ ★ 原 泰久 集英社	知らない人はいないといっても良い超大人気漫画ですね。舞台は春秋戦国時代末期。現代社会と状況は全く異なりますが、社会の理不尽さという逆境を乗り越え成長し、「天下の大將軍」を目指している主人公の生き様は、これから将来を担っていく若者に参考になるのではないかと思います、「若者にお勧めしたい本」に挙げさせていただきます。	
自分の研究に関連して紹介したい本		『ワンピース』★★ ★ 尾田 栄一郎 集英社	こちらも知らない人はいないといっても良い超大人気漫画ですね。…なんで「自分の研究に関連して紹介したい本」で『ワンピース』と思われるよ(笑)。私の研究は、タンパク質に人工デザインを取り入れることで、これまでない機能性を有したタンパク質集合体「バイオナノロボット」の創生を目指しています。ワンピースで「人間+悪魔の実=超人」というところが、「タンパク質+人工デザイン=バイオナノロボット」と共通していると考え、紹介したい本とさせて頂きました。想像力(創造力)という点でインスピレーションを受ける一冊です。研究=難しい…と思う方も、こういった考え方をすると楽しくなるかもしれません。推薦図書が全て漫画ですが、研究ではちゃんと論文読んでいます！	



生協ショップルネ書籍コーナーにて「研究者の本棚」関連コーナーを設置しています！
是非お立ち寄りください！

(場所：京都大学西部生協会館ルネ1階)

編集者 大西将徳（学術研究支援室）
太田一陽（学術研究支援室）
白井哲哉（学術研究支援室）
仲野安紗（学術研究支援室）
神谷俊郎（学術研究支援室）
松本寛史（研究推進部研究推進課研究助成掛）
近藤玲子（研究推進部研究推進課研究助成掛）

デザイン 永田奈緒美（情報環境機構）

写真 大森貴生

発行日 2019年12月27日

発行 学術研究支援室

研究推進部研究推進課

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ

問合せ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学 学術研究支援室

Tel : 075-753-5108

E-mail : kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※職名・組織名等は開催当時の名称です。